

DPV-7000

AV System

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルのため、外国で使用することはできません。

株式会社 JVCケンウッド

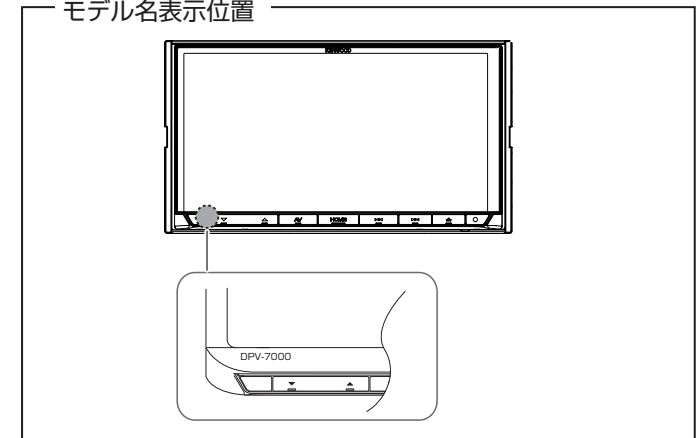


株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

- 商品に関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
0120-2727-87 (固定電話からはフリーダイヤル)
0570-010-114 (携帯電話、PHSからはナビダイヤル)
045-450-8950 (一部IP電話など) / FAX 045-450-2308
住所 〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12
受付時間 月曜～金曜: 9:30～18:00
土曜: 9:30～12:00、13:00～17:30
(日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます)
- 修理などアフターサービスについては、当社ホームページ (<http://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>)
またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

モデル名表示位置



My-Kenwoodのご案内

お買い上げいただきました製品を「登録」していただくと、ご使用いただいている製品のサポート情報のほかに、関連製品情報やイベント情報などをご案内いたします。
下記ウェブサイトで会員規約をご確認になり、My-Kenwood をご利用ください。
<https://jp.my-kenwood.com>

目次

はじめに

安全上のご注意.....	5
使用上のご注意.....	8
本書の読みかた.....	10
本書の構成.....	10
本書の表記.....	11

基本操作

各部の名称とはたらき.....	12
本機のフロントパネルについて.....	12
基本操作.....	13
電源を入れる / 切る.....	13
電源オン.....	13
電源オフ.....	13
フロントパネルの角度を調整する.....	13
視野角を調整する.....	13
本機の画面 / リストの操作.....	14
画面の出しかた.....	15
ホーム画面での操作.....	15
マイメニューを使う.....	16
マイメニューを表示する.....	16
ショートカットボタンを割り当てる.....	16
サブメニューを使う.....	17
サブメニューを表示する.....	17
文字入力のかた.....	18
入力方法を切り替える.....	18
文字の種類を切り替える.....	18
入力パレットで文字を入力する.....	18
トグル入力で文字を入力する.....	19
Apple CarPlay を利用する.....	20
iPhone を USB 接続する.....	20
接続設定をする.....	20
Apple CarPlay の画面を表示する.....	21
Siri を使う.....	21
Android Auto を使う.....	22
Android スマートフォンを接続する.....	22
接続設定をする.....	22

Android Auto の画面を表示する.....	23
音声認識機能を使う.....	23

オーディオ・ビジュアル

AV の基本操作.....	24
ソースを切り替える.....	24
ソースをオフ (STANDBY) にする.....	24
K2 テクノロジーを使う.....	25
画質を調整する.....	25
映像の画面表示サイズを変更する.....	26
iPod の曲を再生する.....	27
iPod を取り外す.....	27
画面の見かたと操作.....	27
USB 機器 / SD カードのファイルを再生する.....	29
USB 機器を接続する.....	29
USB 機器を取り外す.....	29
SD カードを入れる / 出す.....	29
画面の見かたと操作.....	30
オーディオファイルの AV 画面.....	30
ビデオファイルの AV 画面.....	31
再生リストと再生モードについて.....	32
カテゴリーデータベースから曲またはビデオを再生する.....	33
カテゴリーデータベースを作成する.....	33
カテゴリーモードで再生する.....	33
内蔵メモリ / SD カードに録音する ...	34
録音について.....	34
録音設定をする.....	34
録音する.....	35
録音したデータを再生する.....	36
録音データのタイトルを編集する.....	37
タイトルを消去する.....	38
アルバムアートワークとして画像を表示させる.....	39
アートワークを削除する.....	39
録音データを削除する.....	40
録音データを SD カードに移動する.....	41
マルチ AV ブラウザを使う.....	42
リストから曲またはビデオを再生する.....	43

CD・オーディオファイルディスクを再生する	44
ディスクを入れる / 出す	44
ディスクを入れる	44
ディスクを取り出す	44
ディスクを取り出せないときは	44
画面の見かたと操作	44
DVDを再生する	46
画面の見かたと操作 (DVDビデオ / DVD-VR)	46
DVDビデオを再生する	46
DVD-VRを再生する	47
DVDディスクメニューを操作する	48
カーソルで操作する	48
ディスクメニューを直接操作する	48
DVDの設定をする	48
地デジを視聴する	49
画面の見かたと操作	49
プリセットモードを切り替える	50
放送局を登録 (プリセット) する	50
番組表を見る	51
番組表の見かたと操作	51
緊急放送を表示する	52
中継局 / 系列局をサーチする	52
地デジの設定をする	52
AM または FM を聴く	53
画面の見かたと操作	53
プリセットモードを切り替える	53
放送局を登録 (プリセット) する	53
交通情報を受信する	54
画面の見かたと操作	54
HDMI または MHL 対応機器を再生する	55
HDMI または MHL 機器を接続する	55
iPod/iPhone の場合	55
画面の見かたと操作	55
外部機器 (AV-IN) を接続する	56
画面の見かたと操作	56
「SMART USEN」を使う	56
準備する	56
本機とスマートフォンを接続する	56
画面の見かたと操作	57

チャンネルを選ぶ	57
チャンネル名を検索する	58
再生中のチャンネルをお気に入りに登録する	58
お気に入りのチャンネルを選ぶ	58

情報・設定

情報・設定画面について	59
サウンドの設定をする	59
車両タイプの設定をする	60
スピーカー構成を設定する	60
スピーカーのクロスオーバー周波数を調整する	60
リスニングを設定する	61
リスニングポジションを微調整する	62
フロントフォーカスの微調整をする	62
設定した値を初期設定に戻す	63
プリセットイコライザーを設定する	63
ユーザーイコライザーを設定する	63
調整したイコライザーカーブを保存する	64
ホールシミュレーションを設定する	64
音響効果を設定する	65
ソースの音量レベルを設定する	65
システムの設定をする	66
設定をSDカードに保存する	67
設定データを本機に読み込む	67
システムを初期化する	67
イルミネーション色を設定する	67
ユーザー独自のイルミネーション色を作る	68
暗証番号を設定する	68
暗証番号を変更する	69
暗証番号を解除する	69
外部機器の設定をする	69
バージョンを確認する	70
接続状態を確認する	71

Bluetooth

Bluetooth 機器の登録と設定 72

- 本機に Bluetooth 機器を登録する 72
- オートペアリング機能で登録する 73
- Bluetooth の設定をする 73
- Bluetooth 機器の使用する機能を変更する 74
- 登録した機器を削除する 75
- PIN コードを変更する 75
- 本機のデバイス名を変更する 75

ハンズフリーを使う 76

- 電話画面を表示する 76
- 電話画面の見かたと操作 76
- ハンズフリーで電話を受ける / 切る 77
- プリセットダイヤルを使う 77
- プリセットダイヤルから電話をかける 77
- プリセットダイヤルに電話番号を登録する 78
- プリセットダイヤルの登録を削除する 78
- 履歴から電話をかける 79
- 電話帳から電話をかける 79
- PBAP 対応機器の電話帳を登録する 80
- 電話帳を削除する 80
- ダイヤルして電話をかける 81
- リダイヤルで電話をかける 81
- 音声認識機能で電話をかける 81

Bluetooth オーディオ機器を

再生する 82

- 画面の見かたと操作 82

スマートフォン連携

スマートフォン連携について 84

- KENWOOD Music Info 84
- SMART USEN 84

フロント / リアビューカメラを使う .. 85

- カメラを設定する 85
- フロントビューカメラ接続設定 85
- リアビューカメラ接続設定 85
- CMOS-320/CMOS-C320 のカメラ設定をする 86
- フロントビューカメラの映像を表示する 86
- フロントビューカメラ操作ボタンを使う 86
- リアビューカメラの映像を表示する 87
- リアビューカメラ操作ボタンを使う 87

- リアビューカメラのガイド線を調整する 88
- CMOS-C320 (別売品) を接続している場合 88
- 汎用カメラを接続している場合 88

ステアリングリモコンを使う 89

- ステアリングリモコンについて 89
- ステアリングリモコンの設定をする 89
- 車両を選んで設定する 89
- 独自に機能を割り当てる 89
- ステアリングリモコンキーの割り当てを変更 / 初期化する 91



ドライブレコーダーを使う 92

- ドライブレコーダー (リア用) の接続設定 92
- ドライブレコーダーの映像を表示する 92
- ドライブレコーダーの操作ボタンを使う 92
- 画面の見かたと操作 93
- ドライブレコーダー (リア用) の映像表示について 93
- バーチャルルームミラーとして表示する 93
- サブリアカメラ映像を表示する 94
- 録画ファイルを再生する 95
- 再生画面の見かたと操作 96
- ファイルを保護する 96
- ファイルを削除する 97
- ドライブレコーダーの設定をする 98
- 運転支援機能の設定をする 101
- SD カードをフォーマットする 102
- システムを更新する 103
- リアモニターを使う 104
- リアモニターに表示できる映像について 104
- ソフトウェア使用許諾契約書 105
- メディアおよびファイルについて 107
- Bluetooth について 113
- iPod について 113
- 故障かなと思ったら 114
- 主な仕様 122
- 保証とアフターサービス 124
- 索引 125




安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区別して、説明しています。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容の種類を絵記号で区別して、説明しています。

	注意（しなければならない）の内容です。
	禁止（してはいけない）の内容です。
	実行（かならず行っていただく）の内容です。

取り付けや配線について

警告



本機は DC12V ⊖ アース車以外で使用しない

火災や故障の原因になります。DC24V 車(大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など)で使用しないでください。

エアバックの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない

エアバックが誤動作し、死亡事故の原因になります。エアバック装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。

取り付けやアース配線に車の保安部品（ステアリング、ブレーキ、タンクなど）のボルトやナットを絶対に使用しない

制御不能や発火、交通事故の原因となります。

視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

フィルムアンテナは保安基準の取付許容範囲外に貼り付けない

視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。



取り付け・配線は、安全のため専門技術者に依頼する

取り付け・配線、取り外し、周辺機器の追加は専門技術が必要です。誤った取り付けや配線をするると車に重大な支障をきたし交通事故の原因となります。安全のため必ずお買い上げの販売店にご相談ください。

説明書に従って取り付け・配線をする

火災や故障の原因となります。作業は手順とおりに正しく行ってください。

**作業前に必ずバッテリーの ⊖ 端子を外す**

外さずに作業をするとショートによる感電やけがの原因となります。

作業前に、車体のパイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する

車体に穴を開けて取り付ける場合はパイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないよう注意して、加工部のサビ止め・浸水防止処理をしてください。火災や感電の原因となります。

必ず付属の部品や指定の部品を使用する

機器の損傷や確実に固定できず外れて事故や故障、火災の原因となります。

コード類は、運転を妨げないように引き回し固定する

ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コードの被覆のない部分はテープなどで絶縁する

被覆がない部分が金属部に接触するとショートによる火災や感電、故障の原因となります。

パーキング検出（パーキングブレーキ）コードは正しく配線する

正しく配線しないと安全機能が働かず、交通事故の原因となります。

取り付け・配線後は、車の電装品が正常に動作することを確かめる

車の電装品（ブレーキ、ライト、ホーン、ウインカー、ハザードなど）が正常に動作しない状態で使用すると、火災や交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は乳幼児の手の届かないところに置く

あやまって飲み込むおそれがあります。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

 **注意****自動車のコンソールに取り付ける**

本機の使用または使用直後は、本機の背面や側面などの金属部分が高温になっています。直接触れるとやけどの原因となることがあります。取り外すときなどご注意ください。

**直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない**

機器の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

水のかかる場所や湿気・ほこり・油煙の多い場所に取り付けない

水や油煙などが入ると、発煙や発火、故障の原因となることがあります。

機器の通風口や放熱板をふさがない

機器の内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

**コードの扱いに注意する**

コードを傷つける、無理に引っ張る、折り曲げる、ねじる、加工する、重いものをのせる、熱機器に近づけるなどしないでください。断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となることがあります。

使用方法について **警告****分解・修理および改造はしない**

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのは絶対におやめください。交通事故や火災、感電、故障の原因となります。

**音量は、車外の音が聞こえない音量で使用しない**

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

使用方法について

警告



機器内部に、水や異物を入れない

金属物や燃えやすいものなどが入ると、動作不良やショートによる火災や発煙、発火、感電の原因となります。飲み物などが機器にかからないようにご注意ください。

故障や異常な状態のままで使用しない

画像が映らない、音が出ない、異物が入った、水がかかった、煙が出る、異音・異臭がする場合は、ただちに使用を中止してください。事故や火災、感電の原因となります。

運転者は走行中に操作したり、画像や表示を注視したりしない

必ず安全な場所に車を停車し、サイドブレーキを引いた状態でご使用ください。交通事故の原因となります。



雷が鳴り出したら、アンテナコードや本機に触れない

落雷による感電の原因となります。

ヒューズは、必ず規定容量品を使用し、交換は専門業者に依頼する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。交換は、お買い上げの販売店、またはお近くのサービス窓口に依頼してください。

注意



本機を車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やけがの原因となることがあります。



可動部やディスク挿入口に手や指を入れない

モニター開閉や角度調整の時にはご注意ください。けがの原因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店か JVC ケンウッドサポートセンターに相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

使用上のご注意

安全走行のために

ご使用になる前に必ず、取扱説明書や注意事項などをよく読み、正しく理解して使用してください。安全上の配慮から、走行中はテレビやビデオの映像を見ることはできません。安全な場所に駐車してパーキングブレーキを引いてからお楽しみください。なお、走行中であっても音声だけは出力されます。また、同様の理由で一部の機能で操作できないものがあります。

本機の異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まず114ページの「故障かなと思ったら」を参照して解決方法がないかお調べください。解決方法が見つからないときは、お買い上げの販売店またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターへご相談ください。

本機のお手入れについて

操作パネルや本体部が汚れたときは、市販のシリコンクロスなどの柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を付けた布で汚れを拭き取ってから、乾いた布で洗剤を拭き取ってください。硬い布やアルコールなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

傷が付いたり文字が消えることがあります。

フィルムアンテナのお手入れ

- フロントウィンドウの内側を清掃の際には、フィルムアンテナをやわらかい布で優しく拭き取るようにしてください。汚れのひどいときは、水に薄めた中性洗剤に浸した布を堅くしぼり、軽く拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジンなどをご使用にならないでください。
- 一度貼り付けたフィルムアンテナは、はがさないようにしてください。機能が損なわれます。

オートアンテナ(電動アンテナ装備車)の操作について

車両側のアンテナコントロール端子と本機のアンテナコントロール (ANT CONT) 端子を接続しているときは、FM、AM、交通情報ソースにするとオートアンテナが伸びます。FM、AM、交通情報ソースにしているときに天井の低い駐車場に入る場合などオートアンテナを下げたいときは、オートアンテナをしまってください。(→ P.17)

モニター画面について

- 画面部をボールペンなどの先のとがった物で操作しないでください。画面が損傷する場合があります。
- 画面部に強い衝撃を加えないでください。故障の原因になります。
- 画面部に保護用フィルムなどを貼らないでください。タッチ操作時に誤動作する場合があります。
- 画面に直射日光が当たらないようにしてください。直射日光が当たる状態で長時間使用すると高温になり、画面が故障する原因となります。
- 極端に高温または低温になると、表示の動きが遅くなったり、暗くなったりすることがあります。これは液晶画面の特性によるもので故障ではありません。車内が常温に戻れば回復します。
- 画面に小さな点が出る場合があります。これは液晶画面特有の現象で故障ではありません。
- 液晶画面の特性により、液晶を見る角度によっては表示が見づらいたることがありますが、故障ではありません。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露(水滴)が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。

このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。

もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、販売店へ連絡してください。

フロントパネルの安全装置について

パネルの隙間にコードなどの異物を挟んで閉じたときは、安全装置がはたらき、フロントパネルの動作が停止します。この場合は異物を取り除いてから、再度操作してください。

本機に記録された個人情報について

本機を譲渡したり、売却したりする場合は、本機に記録された情報を、必ずお客様自身によってデータを消去し、確認してください。

個人情報の消去は、システムを初期化する(→ P.67) / 暗証番号を解除する(→ P.69) / 録音データを削除する(→ P.40)で行うことができます。未消去のデータの流出による損害等について、当社では一切の責任を負いませんので予めご了承ください。

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています（受けた部品を使用しています）。

したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。日本国内以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造すること
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 本機は 2.4GHz 帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。ほかの無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意

本機の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、当社カスタマーサポートセンターにご連絡頂き、混信回避の処置等についてご相談ください。
 3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、当社カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- 製品に表示している周波数表示の意味は下記の通りです。

2.4 FH 1

2.4：2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

FH：FH-SS 変調方式を表します。

1：電波と干渉距離は 10m です。

□ □ □：全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

- 使用可能距離は見通し距離約 10 m です。鉄筋コンクリートや金属の壁等をはさんでトランスミッターとレシーバーを設置すると電波を遮ってしまい、音楽が途切れたり、出なくなったりする場合があります。本機を使用する環境により伝送距離が短くなります。
- 下記の電子機器と本機との距離が近いと電波干

渉により、正常に動作しない、雑音が発生するなどの不具合が生じることがあります。

- 2.4GHz の周波数帯域を利用する無線 LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話などの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることがあります。
 - ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CS チューナー、VICS などのアンテナ入力端子を持つ AV 機器の近く。音声や映像にノイズがかかることがあります。
- 本機は電波を使用しているため、第 3 者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

本書の読みかた

この取扱説明書の構成と、表記方法について説明します。

本書の構成

はじめに	安全上のご注意や使用上のご注意など、はじめにお読みいただきたいことが記載されています。(→ P.5)
基本操作	各部の名称や画面の切り替えかたなど、本機の基本的な操作方法を説明しています。(→ P.13)
オーディオ・ビジュアル	オーディオ・ビジュアル（以降、「AV」）および音楽の操作方法について説明しています。(→ P.24)
情報・設定	本機のシステム設定、サウンド設定などについて説明しています。(→ P.59)
Bluetooth	携帯電話やスマートフォン、オーディオプレーヤーを Bluetooth で接続したときの操作について説明しています。(→ P.72)
スマートフォン連携	スマートフォンと連携して使うことのできる便利な機能について説明しています。(→ P.84)
オプション	ドライブレコーダー、フロント/リアビューカメラなどの別売品を接続したときの操作方法について説明しています。(→ P.85)
付録	関連する資料やトラブルシューティングを掲載しています。(→ P.105)

- 本書の画面や操作例は、操作説明用に作成したものです。仕様変更などにより、本書の内容と実際の画面が異なる場合があります。

本機のサポート情報を役立てよう！

本機の最新情報はこちら

ファームウェアのバージョンアップ情報など本機の最新情報を掲載しています。

<http://www.kenwood.com/jp/cs/car/audio/>



FAQ（よくあるご質問）

当社のホームページでは、本機についてのお問い合わせの内容を掲載しています。

本書の「故障かなと思ったら」と合わせてこちらもお覧ください。

<http://www.kenwood.com/jp/cs/car/faq/>



本書の表記

ハードキー名：

本書ではハードキーを次のように表記しています。

HOME → **[HOME]**

インデックス

章の内容を示すインデックスです。

AVの基本操作

ソースを切り替える

ソース切替画面でソース（音源）を切り替えます。

- 1 **[HOME]** を押して **[ソース切替]** にタッチする



ボタン名：

本書では、文字のあるボタンを次のように表記しています。



→ **[ソース切替]**

文字が記載されていないボタンは、本機で表示されるアイコンを掲載しています。

AM または FM を聴く

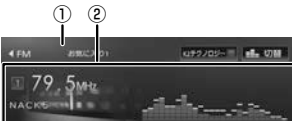
ここまでの手順：

下で説明する操作の前に、ここに記載されている操作を行います。

画面の見かたと操作

ここまでの手順 ▶

ソースを AM または FM に切り替える (→ P.24)



参照ページ：

参照ページのページ番号です。

補足：

手順の補足説明や制限事項などについて説明しています。



- ・リピート再生モードとランダム再生モードは同時に設定できません。
- ・ジャンルの画像は、ディスクによっては表示されない場合があります。
- ・アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- ・走行中は、アルバム名とアーティスト名は表示されません。曲名は表示されますが、スクロールはできません。

関連キーワード

● 録音する

本機では、音楽 CD を再生しながら、本機の内蔵メモリまたは SD カードに 4 倍速で録音することができます。(P.22)

関連キーワード：

説明内容に関連する操作や設定、本機の便利な使いかたについて説明しています。

※ 上記はサンプルページです。本書の実際のページとは異なる場合があります。

はじめに

基本操作

オーディオ・ビデオ

情報・設定

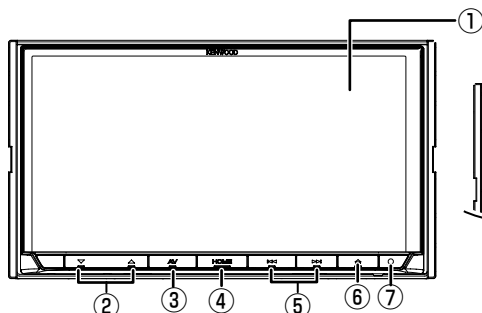
Bluetooth

スマートフォン連携

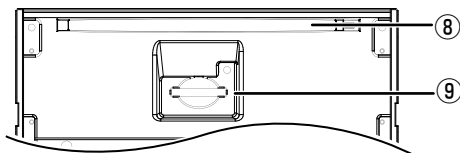
アプリケーション

付録

各部の名称とはたらき



パネルオープン時



① 画面

② 音量キー

- AV の音量を調整 (0 ~ 40) します。
- ハンズフリー電話中は、着信音量と受話音量を調整 (0 ~ 40) します。



- 【▲】を押し続けると、連続して音量値が 15 まで上がります。
- 着信音量と受話音量は、外部機器設定からも調整できます。(→ P.73)
- ハンズフリー電話中の音量調整をしないように設定することもできます。(→ P.73)

③ 【AV】

- 選択しているソースの AV 画面を表示します。
- 押し続けると、ソースをスタンバイ (Standby) にします。

④ 【HOME】

- ホーム画面を表示します。(→ P.15)
- 押し続けると、スマートフォンの音声認識機能が起動します。

⑤ スキップ / サーチキー

- FM/AM/ 地デジ :
放送局を切り替えます。
FM/AM 受信中に押し続けると、受信状態の良い放送局を探して自動で受信します。
- 音楽 / ビデオ再生 :
前 / 次の曲、ビデオまたはファイルを再生します。
押し続けると、早送り / 早戻しします。
- SMART USEN
お気に入り登録済みのチャンネルに切り替えます。

⑥ 【▲】 (オープンキー)

フロントパネルの角度調整 (→ P.13) やディスク (→ P.44)、SD カードの出し入れ (→ P.29) を行うためのメニューを表示します。

⑦ セキュリティインジケータ

セキュリティインジケータを ON に設定している場合、電源オフ時に点滅します。(→ P.66)

⑧ ディスク挿入口

ディスクを挿入する場所です。

⑨ SD カード挿入口

SD カードを挿入する場所です。

本機のフロントパネルについて

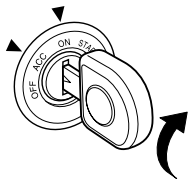
- フロントパネルを閉じているときにパネルに触れると、再度フロントパネルが開きます。
- フロントパネルを開けているときに電源をオフ (ACC オフ) にするとフロントパネルは自動的に閉じます。但し、イジェクトしたディスクが残っているときは開いたままとなります。
- フロントパネルを開けているときに電源をオフ (ACC オフ) にするとフロントパネルは自動的に閉じますが、このときにフロントパネルに触れてもフロントパネルは開きません。

基本操作

電源を入れる / 切る

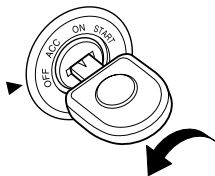
電源オン

車両のイグニッションキーを「ACC」または「ON」にすると、本機の電源がオンになります。



電源オフ

車両のイグニッションキーを「OFF」にすると、本機の電源がオフになります。



- 使用状況や電源電圧の変動などによって、本機の取り付け後に初めて電源をオンにしたときと同じ状態になる場合があります。
- 録音中は電源をオフにしないでください。録音を停止してから電源をオフにしてください。

フロントパネルの角度を調整する

光の反射などで画面が見づらい場合などに、ドライビングポジションから見やすいようにフロントパネルの角度と画面の明るさを調整できます。

角度を調整しても見づらい場合は視野角を調整してください。

- 1 フロントパネルの【▲】（オープンキー）を押す
- 2 チルト [0] ~ [6] にタッチする



- フロントパネルの角度が“0”以外に設定されていても、電源オフ時には“0”の位置に戻ります。再度電源をオンにしたときには、フロントパネルは設定されている角度になります。

視野角を調整する

フロントパネルの角度を調整しても画面が見えにくい場合に調整します。マイナスの値に設定するほど、画面がより白みがかって見えます。

- 1 [-3] ~ [0] にタッチする



本機の画面 / リストの操作

■ 前の画面に戻る

[戻る] にタッチすると、1つ前の画面に戻ります。



■ 項目が無効のとき

選択できない項目は、タッチしても操作することはできません。



■ リストの操作

リストは上下にスクロールして見たい項目を表示させます。

リストのスクロールには、次の2つの方法があります。

- スクロールしたい方向にリストをドラッグまたはフリックする

ドラッグまたはフリックした方向にリストがスクロールします。

フリックしたときは、スクロール中のリストにタッチすると、スクロールを止めることができます。



- リストをページ送りする

送りたい方向の ▲ または ▼ にタッチします。



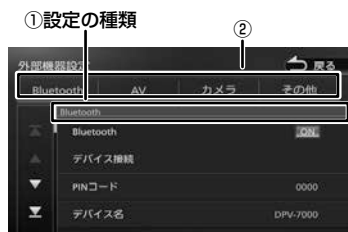
▲ または ▼ にタッチするとリストの最初または最後を表示します。

■ 設定画面

設定画面は、設定の種類ごとにまとめてリストで表示されます。

リストをスクロールして目的の設定の種類①を探し、項目にタッチして決定します。

②にタッチするとそれぞれの設定項目の先頭を表示します。



画面の出しかた

ホーム画面での操作

ホーム画面は、本機を使うためのスタート地点です。ここからさまざまな機能にアクセスします。ホーム画面は、フロントパネルにある【HOME】を押すと、いつでも表示できます。

ソース切替画面 (→ P.24)

AV ソースを切り替える画面を表示します。



マイメニューを表示します。
(→ P.16)

電話メニュー画面 (→ P.76)

電話 (Bluetooth ハンズフリー) メニュー画面を表示します。



情報・設定画面 (→ P.59)

システム、サウンドなどを設定します。



サブメニュー (→ P.17)

画面の明るさ調整や、画面表示をオフするボタンなどが表示されます。



マイメニューを使う

マイメニューは、よく使う AV ソースや設定画面などをショートカットで登録しておき、すぐに表示して機能を使うことができます。

マイメニューを表示する

- 1 【HOME】を押して[マイメニュー]にタッチする



マイメニューが表示されます。



ショートカットボタンを割り当てる

本機の機能または AV ソースをそれぞれのショートカットボタンに割り当てます。

- 1 [編集]にタッチする



- 2 機能または AV ソースを割り当てるボタンにタッチする



- 3 リストから AV ソースまたは機能を選ぶ



サブメニューを使う

本機の画面の明るさ、画面表示をオフにするボタンなどが表示されます。

サブメニューを表示する

- 【HOME】を押して【サブメニュー】にタッチする



サブメニューが表示されます。



アンテナを伸ばす / アンテナをしまう

オートアンテナの設定を「あり」に設定していて (⇒ P.66)、FM、AM または交通情報を聴いているときに、オートアンテナを伸ばしたりしまったりできます。

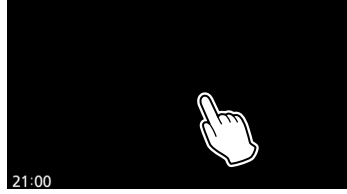
[アンテナを伸ばす] :
アンテナを伸ばします。

[アンテナをしまう] :
アンテナが収納されます。

- この機能は、オートアンテナ車に本機のオートアンテナコントロールを接続しているときに働きます。

画面オフ

本機を使用しないときなどに、画面の表示を消します。
画面をオンにするには画面にタッチします。



- 画面表示のオフ中に本機の電源をオフにすると、次に電源をオンにしたときには、画面表示はオンになります。
- リアビューカメラが接続されている場合は、画面表示のオフ中にシフトレバーを「R」に入れると、リアビューカメラの画面が表示されます。
- 画面オフから別の画面を表示すると画面オフは解除されます。
- 画面オフのときに時計を表示しないように設定できます。(⇒ P.66)

画面の明るさ

本機の画面の明るさ (-4 ~ +4) を
- または + にタッチして調整します。

- DVD ビデオや地上デジタル TV 放送の映像の明るさは、AV 画面の [映像調整] の「ブライトネス」で調整します。(⇒ P.25)

文字入力のしかた

入力方法を切り替える

文字の入力方法をキーボードのような入力パレットと携帯電話のようなトグル入力に切り替えます。

1 [入力切替] にタッチする



文字の種類を切り替える

入力する文字の種類（ひらがな、カタカナ、英数字、記号）を切り替えます。

1 切り替える文字の種類にタッチする



[切替] :

タッチするたびにかな（ひらがな） / カナ（カタカナ） / 英数字 / 記号に切り替わります。

[小文字] :

小文字に切り替わります。

[半角] :

半角英数字または半角記号に切り替わります。

入力パレットで文字を入力する

キーボードを使って文字を入力します。ひらがな、カタカナ入力の場合は、漢字に変換することもできます。

1 文字を選んでタッチする



2 変換する場合は、[変換] にタッチする



[無変換] :

文字を変換せず、入力した状態で確定します。

3 変換候補リストから単語を選んでタッチする



文字の変換結果が確定されます。

4 [決定] にタッチする



トグル入力で文字を入力する

1 文字を選んでタッチする



例：「い」を入力する場合

[あ]を2回タッチします。

例：「あい」を入力する場合

[あ]をタッチし、[送り]にタッチしたあと、
[あ]を2回タッチします。

2 変換する場合は、[変換]にタッチする



[無変換]：

文字を変換せず、入力した状態で確定します。

3 変換候補リストから単語を選んでタッチする



文字の変換結果が確定されます。

4 [決定]にタッチする



- ◀ または ▶ にタッチして消去したい文字の後ろにカーソルを移動して **BS** にタッチすると文字を消すことができます。
- **BS** を押し続けると、文字をすべて消すことができます。

Apple CarPlay を利用する

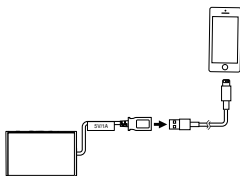
本機に Apple CarPlay 対応の iPhone を USB 接続すると Apple CarPlay を利用することができます。はじめて接続したときは自動で Apple CarPlay 画面を表示します。



- Apple CarPlay iPhone の「ロックを解除すると開始します」と表示されたときは、iPhone のロックを解除してください。
- Apple CarPlay のときは、USB、SD、マルチ AV ブラウザソースのビデオファイルの再生はできません。

iPhone を USB 接続する

iPhone を本機の USB ケーブルに接続するときは、別売りの接続ケーブル KCA-iP103 (別売品) が必要です。



- iPhone は「5V/1A」タグの付いた USB ケーブルに接続してください。
- USB ケーブルは、本機の背面から出ています。見当たらない場合は、グローブボックスなどに配線されていることがありますので、ご確認ください。
- 別の機器と本機が Bluetooth で接続されているときは、Bluetooth 接続は解除されます。
- 正しく動作しないときは、Lightning ケーブルを外して iPhone を接続し直してください。

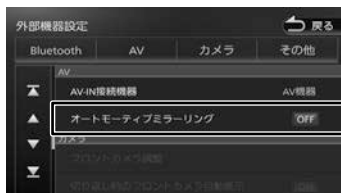
接続設定をする

- この操作を行う前に、本機に続している iPod/iPhone、Android、および USB 機器がある場合は取り外してください。接続している機器があると設定を変更できません。

1 【HOME】を押して [情報・設定] にタッチする



2 [外部機器] の「AV」－[オートモーティブミラーリング] にタッチする



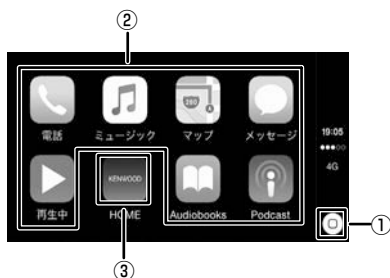
- [ON] :**
Apple CarPlay を使用します。
- [OFF] :**
Apple CarPlay を使用しません。

Apple CarPlay の画面を表示する

- 1 【HOME】を押して
[Apple CarPlay] にタッチする



Apple CarPlay の画面が表示されます。



- ① Apple CarPlay の HOME 画面を表示します。
- ② タッチするとアプリケーションが起動します。
- ③ 本機のホーム画面を表示します。



- iPhone を接続すると全ての画面で約 5 秒間 Apple CarPlay ボタンが表示されます。5 秒を過ぎると HOME 画面のみで表示されるようになります。

Siri を使う

- 1 【HOME】を押し続ける

Siri が起動します。



- Apple CarPlay 画面の①（上記）を押し続けても Siri を起動させることができます。

2 用件を話す

■ Siri を終了する

- 1 【HOME】を押す

Android Auto を使う

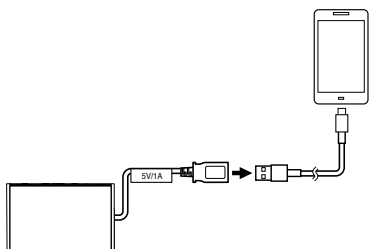
本機に Android Auto アプリケーションをインストールしている Android スマートフォンを接続するとハンズフリー通話、Android スマートフォンの曲再生などの操作ができます。Android Auto について詳細は
<https://www.android.com/auto/> と
<https://support.google.com/androidauto> をご覧ください。



- Android Auto のときは、USB、SD、マルチAVブラウザソースのビデオファイルの再生はできません。

Android スマートフォンを接続する

- 1 本機の「5V/1A」タグの付いている USB ケーブルに Android スマートフォンに付属のケーブルで接続する



ハンズフリー通話機能を使用する場合は Bluetooth も接続します。Bluetooth 機器の登録、接続については 72 ページをご覧ください。



- Android スマートフォンは「5V/1A」タグの付いた USB ケーブルに接続してください。
- USB ケーブルは、本機の背面から出ています。見当たらない場合は、グローブボックスなどに配線されていることがありますので、ご確認ください。
- 別の機器と本機が Bluetooth で接続されているときは、Bluetooth 接続は解除されます。

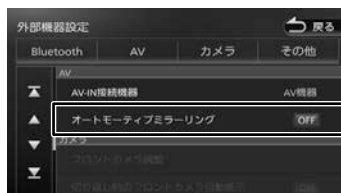
接続設定をする

- この操作を行う前に、本機に続している iPod/iPhone、Android、および USB 機器がある場合は取り外してください。接続している機器があると設定を変更できません。

- 1 【HOME】を押して [情報・設定] にタッチする



- 2 [外部機器] の「AV」－[オートモーティブミラーリング] にタッチする



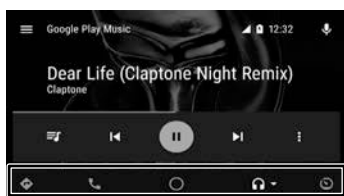
- [ON] :**
Android Auto を使用します。
- [OFF] :**
Android Auto を使用しません。

Android Auto の画面を表示する

- 1 【HOME】を押して
[Android Auto] にタッチする



Android Auto の画面が表示されます。



アプリケーションの起動または情報
を表示します。

音声認識機能を使う

- 1 【HOME】を押し続ける
音声認識できる状態になります。

2 用件を話す

■ 音声認識機能を終了する

- 1 【HOME】を押す

AVの基本操作

ソースを切り替える

ソース切替画面でソース（音源）を切り替えます。

- 1 【HOME】を押して【ソース切替】にタッチする



ソース切替画面が表示されます。

- 2 切り替えたいソースにタッチする



iPod :

iPodの曲を再生します。(→ P.27)

USB :

USB 機器のオーディオ / ビデオファイルを再生します。(→ P.29)

SD :

SD カードのオーディオ / ビデオファイルを再生します。(→ P.29)

内蔵メモリ :

本機の内蔵メモリに録音したデータを再生します。(→ P.34)

マルチ AV ブラウザ :

マルチ AV ブラウザソースは、USB 機器、SD カード、内蔵メモリにあるそれぞれの曲またはビデオをまとめて表示し、選択して再生することができます。(→ P.42)

DISC :

CD や DVD、オーディオファイルを保存した CD-R などのディスクを再生します。(→ P.44、P.46)

地デジ :

地上デジタル TV 放送を受信します。(→ P.49)

FM :

FM ラジオ放送を受信します。(→ P.53)

AM :

AM ラジオ放送を受信します。(→ P.53)

交通情報 :

交通情報放送を受信します。(→ P.54)

AV-IN :

本機に接続した外部機器のソースに切り替えます。(→ P.56)

Bluetooth AUDIO :

本機に接続した Bluetooth 対応オーディオプレーヤーを再生します。(→ P.82)

HDMI/MHL :

本機に HDMI/MHL 接続した機器のソースに切り替えます。(→ P.55)

SMART USEN :

スマートフォンアプリケーション「SMART USEN」をインストールしたスマートフォンを接続すると本機でチャンネル選択などの操作をすることができます。(→ P.56)



- DISC ソース以外は機器を接続したり、SD カードを挿してもソースは自動で切り替わりません。

■ AV 画面からソース切替画面を表示する

AV 画面左上のソース名にタッチするとソース切替画面を表示します。



ソースをオフ (STANDBY) にする

- 1 ソース切替画面で【STANDBY】にタッチする



- ソースをオンにするには、ソース切替画面でソースを選択します。

K2テクノロジーを使う

各ソースのAV画面に「K2テクノロジー」をオン/オフするボタンがあります。

チェックをつけると、録音時に失われた信号成分を補完し、より自然な音声再生にします。



- アナログソースにおいてもK2テクノロジーのボタンがタッチできるようになっています。より高音質にお楽しみいただけるよう、本機では全てのソースで高解像度なデジタル処理をしています。K2テクノロジーをオンにすることにより、本来の音に復元することが可能となります。
- K2(ケー・ツー)は、1987年に株式会社JVCケンウッドとビクターエンタテインメントのビクタースタジオにより共同開発されたデジタルにおける高音質化技術です。

画質を調整する

画面に表示する映像の画質を調整します。

1 調整する映像ソース画面を表示する

2 [映像調整]にタッチする

操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。



3 [-]または[+]にタッチして各項目を調整する



コントラスト：

コントラストを調整します。

- [+]：コントラストが強くなります。
- [-]：コントラストが弱くなります。

ブライトネス：

明るさを調整します。

- [+]：明るくなります。
- [-]：暗くなります。

色の濃さ：

色の濃淡を調整します。

- [+]：色が濃くなります。
- [-]：色が淡くなります。

色合い (AV-IN/カメラ映像/ドライブレコーダー映像のみ)：

色合いを [+] / [-] で調整します。



- [非表示] にタッチすると、操作ボタンを消すことができます。

映像の画面表示サイズを変更する

画面に表示する映像のサイズを変更します。



- カメラ映像、地デジの映像またはドライブレコーダーの映像は、画面表示サイズの変更はできません。

1 サイズを変更する映像ソース画面を表示する

2 [映像調整] にタッチする

操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。



3 「アスペクト」の ◀ または ▶ にタッチして、サイズを調整する



レギュラー：

4:3 の比率で表示します。

フル：

画面いっぱいに表示します。

オリジナル：

映像の比率はそのままに、画面の縦か横いっぱいに表示します。

オート：

16:9 の映像はフルで、4:3 の映像はレギュラーで表示します。

■ 映像サイズイメージ

	16:9 画像	4:3 画像	その他	
レギュラー				
フル				
オリジナル				
オート	4:3 画像はレギュラーに、16:9 画像はフルに自動的に切り替えます。			



- オリジナルは SD、USB、マルチ AV ブラウザソースのみです。
- オートは DVD 再生時のみです。

iPod の曲を再生する

iPod ソースで iPod を再生するときの接続方法は、USB 接続または Bluetooth 接続です。USB 接続の場合は別売の KCA-iP103 で接続します。Bluetooth 接続の場合は Bluetooth の登録を行ってください。(→ P.72)



- Apple CarPlay 対応の iPod/iPhone を iPod ソースで使用する場合は、[外部機器] の「AV」 - [オートモーティブミラーリング] を「OFF」にするか(→ P.20)、「5V/1A」タグのついていない USB ケーブルに接続してください。なお、オートモーティブミラーリング設定は、iPod/iPhone を接続中は設定できません。接続を解除してから設定を行ってください。
- iPod 接続ケーブルを接続する USB ケーブルは、本機の背面から出ています。見当たらない場合は、グローブボックスなどに配線されていることがありますので、ご確認ください。

iPod を取り外す

ソースを iPod 以外に切り替えてから、iPod を取り外します。

iPod ソースのまま取り外すと、iPod 内のデータが破損する場合があります。

画面の見かたと操作



- アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- 走行中は、アルバム名とアーティスト名は表示されませんが、曲名は表示されますが、スクロールはできません。



ここまでの手順 ▶

ソースを iPod に切り替える (→ P.24)



- ① 曲名
アルバム名
アーティスト名
アルバムアート画像
- ② 再生時間
- ③ 接続方法
- ④ シークバー
- ⑤ ランダム再生モード
- ⑥ リピート再生モード
- ⑦ 再生状態
- ⑧ 再生残り時間
- ⑨ 曲番号 / 全曲数

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[リスト]	再生リストを表示します。
	再生または一時停止（ポーズ）します。
	前 / 次の曲を再生します（スキップ）。 タッチし続けると、早戻し（バックサーチ）または早送り（フォワードサーチ）します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。








サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



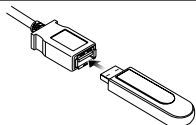
サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[デバイス切替] (Bluetooth 接続時のみ)	Bluetooth 接続のときは、Bluetooth デバイス接続画面を表示します。
	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> •  OFF : リピート再生モードを解除します。 •  ALL : リスト内のすべての曲をくり返し再生します。 •  1 : 再生中の曲をくり返し再生します。
	タッチするたびにシャッフル再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> •  OFF : シャッフル再生モードを解除します。 •  曲 : リスト内の曲をシャッフル再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

USB 機器 /SD カード のファイルを再生する

USB 機器を接続する



- 本機で再生できる USB 機器は 108 ページをご覧ください。「USB 機器使用上のご注意」もお読みください。
- 本機では USB ケーブルに USB ハブを接続して複数の USB 機器を接続することができます。USB ハブをご使用になる場合は 109 ページの「USB ハブの使用について」を必ずお読みください。
- 複数の USB 機器を接続した場合は、USB の AV 画面で再生する USB 機器を切り替えることができます。(→ P.31、P.32)



- USB ケーブルは本機の背面から出ています。見当たらない場合は、グローブボックスなどに配線されていることがありますので、ご確認ください。

USB 機器を取り外す

ソースを USB 以外に切り替えてから、USB 機器を取り外します。

USB ソースのまま取り外すと、USB 機器内のデータが破損する場合があります。

SD カードを入れる / 出す

- 本機で再生できる SD カードは 108 ページをご覧ください。「SD カード使用上のご注意」もお読みください。



- フルオープン状態で SD カードを挿入しても、フロントパネルは自動的に閉じません。

1 フロントパネルの【▲】(オープンキー)を押す

フロントパネルが開きます。

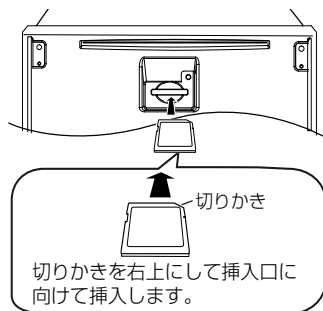
2 [フルオープン]にタッチする



3 SD カードを挿入口に入れるまたは出す

入れるときは、SD カードは、突き当たるまで奥に差し込んでください。

出すときは SD カードをいったん押し込んでから、つまんで引き出します。



4 フロントパネルの【▲】(オープンキー)を押す

フロントパネルが閉じます。

画面の見かたと操作

USB 機器または SD カードに保存されているオーディオファイル / ビデオファイルを再生します。



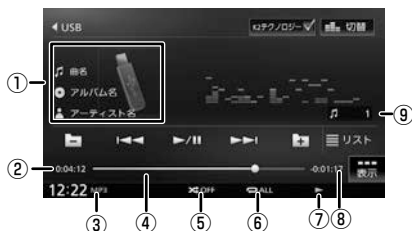
- ・ リピート再生モードとランダム再生モードは同時に設定できません。
- ・ アルバムアート画像は、情報があるときに表示されます。
- ・ アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- ・ 走行中は、アルバム名とアーティスト名は表示されませんが、スクロールはできません。

ここまでの手順 ▶

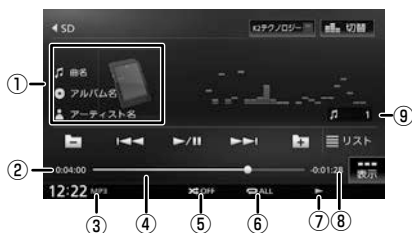
ソースを USB または SD に切り替える (→ P.24)

オーディオファイルの AV 画面

USB



SD



- ① 曲名 (ファイル名)
アルバム名 (フォルダ名)
アーティスト名
アルバムアート画像
- ② 再生時間
- ③ 音声形式
- ④ シークバー
- ⑤ ランダム再生モード

- ⑥ リピート再生モード
- ⑦ 再生状態表示
- ⑧ 再生残り時間
- ⑨ ファイル番号

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[リスト]	再生リストを表示します。 ・ 再生リストについては 32 ページの「再生モードと再生リストについて」をご覧ください。
▶/	再生または一時停止 (ポーズ) します。
◀◀/▶▶	前または次のファイルを再生します (スキップ)。 タッチし続けると、早戻し (バックサーチ) または早送り (フォワードサーチ) します。
- / +	前 / 次フォルダの先頭ファイルから再生します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



USB



SD



サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[デバイス切替] (USBのみ)	複数のUSB機器を接続しているときに、再生するUSB機器を切り替えます。
[カテゴリーDB更新]	カテゴリーデータベースを作成、更新します。(→ P.33)
	タッチするたびにランダム再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> OFF: ランダム再生モードを解除します。 フォルダ (パソコンで保存したファイル再生のみ): 再生中のファイルが含まれるフォルダ内のすべてのファイルをランダム再生します。 曲 (カテゴリーデータベース 再生のみ): 再生中のリスト内のファイルをランダム再生します。
	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> ALL: すべてのファイルをくり返し再生します。 1: 再生中のファイルをくり返し再生します。 フォルダ (パソコンで保存したファイル再生のみ): 再生中のファイルが含まれるフォルダ内のすべてのファイルをくり返し再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

ビデオファイルのAV画面

画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。

USB



SD



操作ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面右上の「非表示」でも消すことができます。

- ① **ファイル名**
 フォルダ名
- ② **再生時間**
- ③ **映像形式**
- ④ **シークバー**
- ⑤ **ランダム再生モード**
- ⑥ **リピート再生モード**
- ⑦ **再生状態アイコン**
- ⑧ **再生残り時間**

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[非表示]	操作ボタンを消します。
[映像調整]	映像の画質を調整します。(→ P.25)
[リスト]	再生リストを表示します。 ・再生リストについては32ページをご覧ください。
	再生または一時停止(ポーズ)します。
	前または次のファイルを再生します(スキップ)。タッチし続けると、早戻し(バックサーチ)または早送り(フォワードサーチ)します。
	前/次フォルダの先頭ファイルから再生します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



USB



SD



● 表示されるボタンとはたらず

ボタン	説明
[デバイス切替] (USB のみ)	複数の USB 機器を接続しているときに、再生する USB 機器を切り替えます。
[カテゴリ DB 更新]	カテゴリデータベースを作成、更新します。(→ P.33)
	<ul style="list-style-type: none"> OFF : ランダム再生モードを解除します。 フォルダ (パソコンで保存したファイル再生のみ) : 再生中のファイルが含まれるフォルダ内のすべてのファイルをランダム再生します。 曲 (カテゴリデータベース再生のみ) : 再生中のリスト内のファイルをランダム再生します。
	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> ALL : すべてのファイルをくり返し再生します。 1 : 再生中のファイルをくり返し再生します。 フォルダ (パソコンで保存したファイル再生のみ) : 再生中のファイルが含まれるフォルダ内のすべてのファイルをくり返し再生します。

ボタン	説明
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

再生リストと再生モードについて

USB ソースおよび SD ソースの再生には以下の再生モードがあります。[リスト] にタッチして再生リストを表示します。モードのリストを切り替えるボタンにタッチするたびにリストが切り替わります。ただし該当するデータがない場合は切り替わりません。



モードを切り替えるボタン

● 再生モード

再生リスト	再生モード
フォルダリスト	パソコンで保存したファイルをそのままの状態再生します。
カテゴリリスト	本機でカテゴリデータベースを作成した USB 機器または SD カードをカテゴリから選んで再生します。
録音データ (SD のみ)	本機で SD カードに録音したデータを再生します。



- カテゴリデータベースモードは、データベースを作成する必要があります。
- SD に録音された録音データのカテゴリデータベースは自動で作成、更新されます。

カテゴリデータベースから曲またはビデオを再生する

リストから曲またはビデオを再生するときに、アルバム、アーティストなどタグ情報をもとにカテゴリから曲またはビデオを再生できます。

カテゴリデータベースを作成する



- カテゴリデータベースの作成、更新は、USB 機器、SD カードに入っているファイルの数によっては時間がかかる場合があります。
- カテゴリデータベース作成、更新中は他の操作はできません。
- カテゴリデータベースを更新すると、USB 機器またはSD カードに _ContentsDB フォルダが作成されます。_ContentsDB フォルダ内にあるデータをパソコンなどで変更または削除しないでください。正しくファイルが再生できなくなります。
- カテゴリデータベースは最大 15000 曲登録することができます。

1 「表示」にタッチする

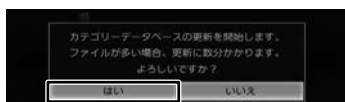


2 「カテゴリ DB 更新」にタッチする



メッセージが表示されます。

3 「はい」にタッチする



カテゴリデータベースが作成されます。

カテゴリモードで再生する

1 「リスト」にタッチする



2 フォルダリスト画面の「カテゴリリスト」にタッチする



3 (ビデオリスト) または (ミュージックリスト) を選ぶ



4 再生するファイルを選ぶ



【トップ】：
一番上の階層のリストに移動します。

【一つ上】：
一つ上の階層のリストに移動します。

▶ Play :
該当するリストの先頭ファイルから再生されます。

内蔵メモリ/SDカードに録音する

録音について

- 本機では、内蔵メモリまたはSDカードに録音できます。
- 録音中は、地デジと録音先のソースは選択することができません。
- 録音中は、画面に以下のアイコンが表示されます。



- 録音中に本機の電源をオフにしたり、録音を中断しても、それまでに録音を完了しているデータは保存されています。
- 本機はSCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）に対応しており、デジタル録音された複製ディスク内の曲を内蔵メモリまたはSDカードに録音することはできません。
- 内蔵メモリまたはSDカードがいっぱいで録音できない場合はメッセージが表示されます。不要なデータを削除してから録音してください。（→ P.40）
- 録音する音楽CDのアルバム情報がないときには、次のように名前が付けられます。
 - タイトル名：“Track” + Track 番号 + 年（西暦） + 月日 + 時刻（24時間制）
 - アルバム名：“Album” + 年（西暦） + 月日 + 時刻（24時間制）
 - アーティスト名：“Artist” + 年（西暦） + 月日 + 時刻（24時間制）
 なお、年、月日、時刻は、その音楽CDが初めて録音されたときの開始時のものです。
- 楽曲情報は本機で編集することができます。（→ P.37）また、連携スマホアプリケーション「KENWOOD Music Info.」を使って楽曲情報を取得することもできます。（→ P.84）
- 録音中は、「録音先」、「録音音質」は設定できません。
- 本機で再生できるSDカードについては、108ページをご覧ください。

■ 録音可能曲数について

録音可能曲数は、録音品質によって異なります。

- 内蔵メモリ：
 - 標準音質 … 約 1600 曲
 - 高音質 … 約 800 曲
 - ロスレス … 約 240 曲
- SDカード（8GBの場合）：
 - 標準音質 … 約 2000 曲
 - 高音質 … 約 1000 曲
 - ロスレス … 約 300 曲

■ 録音可能アルバム数について

内蔵メモリ、SDカードそれぞれ 999 枚録音できます。

録音設定をする

音楽CDから録音するときの録音音質および録音先を設定します。

1 音楽CDのAV画面を表示して、サブ機能ボタンの【録音設定】にタッチする



2 設定したい項目にタッチする



■ 録音先

【内蔵メモリ】：内蔵メモリーに録音します。

【SDカード】：SDカードに録音します。

■ 録音音質

【標準 128kbps】：標準の音質で録音します。

【高音質 256kbps】：高音質で録音します。

【ロスレス】：最高音質で録音します。

録音する

音楽 CD を再生しながら、内蔵メモリまたは SD カードに最大約 4 倍速で録音できます。



- SD カードへの録音中にエンジンを切ったり、スタートしないでください。ファイルが消えてしまったり、SD カードが破損するおそれがあります。
- エンジンを切ったりスタートさせたいときは、録音を中止してください。
- 録音先を SD カードに設定している場合、SD カードが本機に挿入されていないと録音できません。

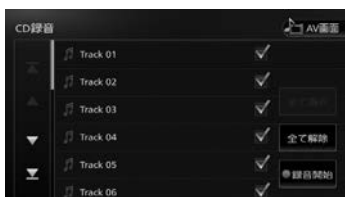
1 ソースを DISC に切り替えて、録音したい音楽 CD を再生する

2 [録音] にタッチする



3 録音する曲を選択する

- : 録音していない曲
- : 録音済みの曲



表示されているリストでは、すべての曲が選択されています。録音しない曲にタッチすると、選択が解除されます。

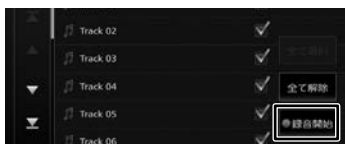
[全て選択] :

すべての曲を選択します。

[全て解除] :

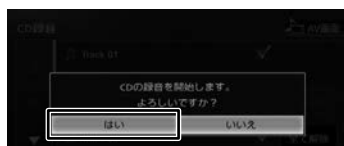
すべての曲の選択を解除します。

4 [録音開始] にタッチする



確認のメッセージが表示されます。

5 [はい] にタッチする



録音が始まります。

録音中の画面では、録音の状況を確認できます。また、録音済 / 録音予定の曲数が表示されます。

0/13 : SD カードに録音中です。

0/13 : 内蔵メモリに録音中です。

[録音停止] :

録音を停止して、ディスクの 1 曲目から再生します。

すべての録音が終了すると、[録音モード終了]が表示されます。[録音モード終了]にタッチして [はい] にタッチすると、ディスクの 1 曲目から再生されます。



手順 3 で、すでに録音されている曲を選択すると、メッセージが表示され、録音データが上書きされます。

録音中に [リスト] にタッチすると、録音状況が次のアイコンで表示されます。

- : 録音済みの曲
- : 録音中の曲 (赤)
- : 録音予定の曲 (エンジ)
- : 録音予定がない曲 (グレー)
- : エラーが発生して録音されなかった曲

• 録音中はシークバーを操作できません。

関連キーワード

● SD カード初期化

SD カードに録音できない場合は、SD カード初期化を行ってください。(→ P.66)

録音したデータを再生する

ソース切替画面で内蔵メモリまたは SD カードを選択します。SD カードの録音データを再生する場合は、再生モードを録音データにしてください。(→ P.32)



- ジャンルの画像、アルバムアート画像は、情報があるときに表示されます。
- アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- 走行中は、アルバム名とアーティスト名は表示されません。曲名は表示されますが、スクロールはできません。

ここまでの手順 ▶

ソースを内蔵メモリまたは SD に切り替える (→ P.24)

SD



● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[リスト]	再生リストを表示します。 • 再生リストについては 32 ページをご覧ください。
▶/	再生または一時停止 (ポーズ) します。
◀◀ / ▶▶	前または次のファイルを再生し ます (スキップ)。 タッチし続けると、早戻し (バック サーチ) または早送り (フォワード サーチ) します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



SD



内蔵メモリ

内蔵メモリ




サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

- ① 曲名
- ② アルバム名
- ③ アーティスト名
- ④ ジャンルの画像またはアルバムアート画像
- ⑤ 再生時間
- ⑥ シークバー
- ⑦ ランダム再生モード
- ⑧ リピート再生モード
- ⑨ 再生状態
- ⑩ 再生残り時間
- ⑪ ファイル番号

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
⌘	タッチするたびにランダム再生 モードが切り替わります。 • ⌘ OFF : ランダム再生モードを解除します。 • ⌘ 曲 : 再生中のリスト内のファイルを ランダム再生します。

ボタン	説明
	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> ALL: 再生中のリスト内のファイルをくり返し再生します。 1: 再生中のファイルをくり返し再生します。
[タイトル編集]	録音データのタイトルを編集します。
[録音データ削除]	録音データの削除をします。
[録音データ移動] (内蔵メモリのみ)	内蔵メモリに録音したデータをSDカードに移動します。
[カテゴリ-DB更新] (SDのみ)	カテゴリデータベースを作成、更新します。(→ P.33)
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

録音データのタイトルを編集する

本機の内蔵メモリ（またはSDカードに録音したデータのタイトル（曲名、アルバム名、アーティスト名、ジャンル、アルバムアートワーク）を編集することができます。

ここまでの手順

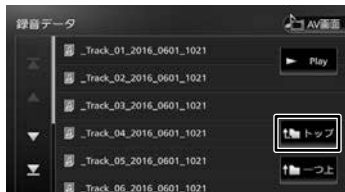
ソースを内蔵メモリまたはSDに切り替える (→ P.24)

SDカードの録音データを編集する場合は、SDカードの再生モードを録音データの再生に切り替えておいてください。(→ P.32)

1 [リスト]にタッチする



2 [トップ]にタッチする



3 アルバムにタッチして編集したい曲が含まれるアルバムを再生する



4 [表示]にタッチする



5 [タイトル編集]にタッチする



6 編集したい曲にタッチする



7 編集したい項目にタッチする



曲名：

文字入力の画面が表示されます。

アルバム名：

文字入力の画面が表示されます。
変更したアルバム名は同一アルバム内の全ての曲に反映されます。

アーティスト名：

文字入力の画面が表示されます。
編集すると確認メッセージが表示されます。

【はい】：

編集したアーティスト名をアルバム内全ての曲に反映します。

【いいえ】：

編集している曲のみに反映されます。

ジャンル：

リストから選択します。
選択すると確認メッセージが表示されます。

【はい】：

選択したジャンルをアルバム内全ての曲に反映します。

【いいえ】：

編集している曲のみに反映されます。

アルバムアートワーク：

録音データにお好みの画像をアートワークとして表示させることができます。
(→ P.39)



- 入力可能最大文字数は、曲名 / アルバム名 / アーティスト名とも 128 文字です。
- 文字入力については 18 ページをご覧ください。
- 手順 6 の [別候補タイトル] は携帯スマホアプリケーション「KENWOOD Music Info.」(→ P.84) で使用します。

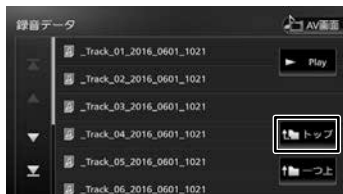
タイトルを消去する

編集したアルバム内全てのタイトル (曲名、アルバム名、アーティスト名、ジャンル) を消去することができます。

1 [リスト] にタッチする



2 [トップ] にタッチする



3 アルバムにタッチしてタイトルを消去したい曲が含まれるアルバムを再生する



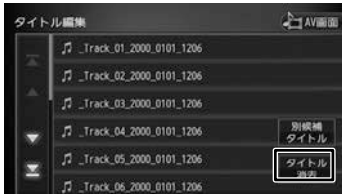
4 [表示] にタッチする



5 [タイトル編集] にタッチする



6 「タイトル消去」にタッチする



確認メッセージが表示されます。

【はい】：

現在の曲を含むアルバム内すべてのタイトルを消去します。

【いいえ】：

消去しません。

アルバムアートワークとして画像を表示させる

録音データを再生するときにアルバム単位で、SDカードまたはUSB機器に保存したお好みの画像ファイル（JPEGまたはPNGデータサイズ650KB以下）をアートワークとして表示させることができます。

1 「録音データのタイトルを編集する」(→ P.37)の手順7まで操作する



2 「アルバムアートワーク」にタッチする



3 「デバイス切替」にタッチして画像を保存しているデバイスを選択する



4 アートワークにしたい画像を選ぶ



録音データの再生画面でアルバムアートワークが表示されるようになります。

アートワークを削除する

1 「録音データのタイトルを編集する」(→ P.37)の手順7まで操作する



2 「画像削除」にタッチする



アートワークが削除されます。

録音データを削除する

本機の内蔵メモリまたはSDカードに録音したデータを削除します。

SDカードの録音データを削除する場合は、事前にSDカードの再生モードを録音データに切り替えておいてください。(→ P.32)

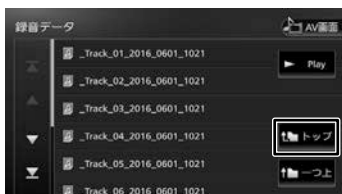
ここまでの手順 ▶

ソースを内蔵メモリまたはSDに切り替える (→ P.24)

1 [リスト] にタッチする



2 [トップ] にタッチする



3 アルバムにタッチして削除したい曲が含まれるアルバムを再生する



4 [表示] にタッチする



5 [録音データ削除] にタッチする



6 削除するデータを選んでタッチする



[全て選択] :
すべての曲を選択します。

[全て解除] :
すべての曲の選択を解除します。

7 [削除] にタッチして、[はい] にタッチする



録音データをSDカードに移動する

内蔵メモリに録音したデータをSDカードに移動します。

再生中の曲を含んだ一つのアルバムデータを移動します。移動したデータは、内蔵メモリから自動的に消去されます。

SDカード内に移動されたデータは、SDカードから再生できます。

ここまでの手順 ▶

ソースを内蔵メモリに切り替える (→ P.24)

1 SDカードに移動したい曲を再生する

2 [表示] にタッチする



3 [録音データ移動] にタッチする



メッセージが表示されます。

4 [はい] にタッチする

録音データの移動が始まります。

[中止] :

SDカードへの移動を中止します。



- SDカードに移動したデータは内蔵メモリに戻すことはできません。

マルチ AV ブラウザを使う

マルチ AV ブラウザソースは、USB 機器、SD カード、内蔵メモリにあるそれぞれの曲またはビデオを横断して表示し、カテゴリから選択して再生することができます。

USB 機器と SD カードの曲またはビデオを再生するにはカテゴリデータベースを作成する必要があります。カテゴリデータベースの作成については 33 ページをご覧ください。



- カテゴリリストを一度も作成していない USB 機器を接続または SD カードを挿入すると、「カテゴリデータベースがありません。各ソース毎に作成してください。」と表示されます。
- アルバムアートの画像は、情報があるときに表示されます。
- アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。

ここまでの手順

ソースをマルチ AV ブラウザに切り替える (→ P.24)



- ① 曲名
- ② アルバム名
- ③ アーティスト名
- ④ アルバムアート画像
- ⑤ 再生時間
- ⑥ 音声形式または映像形式
- ⑦ シークバー
- ⑧ ランダム再生モード
- ⑨ リピート再生モード
- ⑩ 再生状態
- ⑪ 再生残り時間
- ⑫ 曲番号 / 全曲数

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
	再生または一時停止（ポーズ）します。
	前 / 次の曲を再生します（スキップ）。 タッチし続けると、早戻し（バックサーチ）または早送り（フォワードサーチ）します。
[トップ]	再生中のリストのトップを表示します。
[リスト]	再生中のリストを表示します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



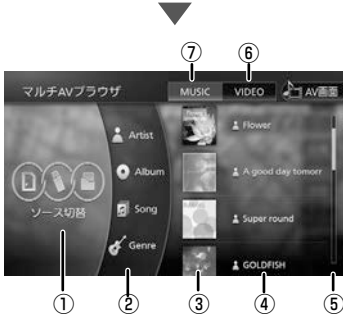
サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
	タッチするたびにランダム再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • OFF : ランダム再生モードを解除します。 • 曲 : 再生中のリスト内のファイルをランダム再生します。
	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • ALL : すべてのファイルをくり返し再生します。 • 1 : 再生中のファイルをくり返し再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

リストから曲またはビデオを再生する

1 [トップ] または [リスト] にタッチする



- ① **ソース切替：**
SD、USB、内蔵メモリそれぞれタッチするたびに表示するかしないかを選択できます。
- ② **カテゴリー：**
アーティスト/アルバム/楽曲/ジャンルから選択できます。
- ③ **アルバムアート画像：**
情報にアルバムアートがある場合に表示されます。
- ④ **曲またはビデオファイル**
- ⑤ **スクロールバー**
- ⑥ **ビデオリストに切り替える**
- ⑦ **曲リストに切り替える**

2 [MUSIC] または [VIDEO] にタッチする



3 表示するソースを選択する



4 再生したいカテゴリー(①)を選んで、ファイル(②)を選ぶ



CD・オーディオファイルディスクを再生する

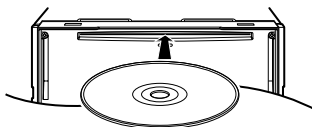
ディスクを入れる / 出す

ディスクを入れる

- 1 フロントパネルの【▲】（オープンキー）を押す

フロントパネルが開きます。

- 2 ディスクを挿入口に入れる



フロントパネルが自動的に閉じます。
ソースが「DISC」に切り替わります。

- ディスクを挿入すると、フロントパネルは自動的に設定されている角度に戻ります。

ディスクを取り出す

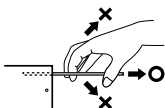
- 1 フロントパネルの【▲】（オープンキー）を押す
- 2 [DISC] にタッチする



フロントパネルが開き、ディスクが排出されます。

- 3 ディスクを取り出す

- ディスクがイジェクトされた後、ディスクを取り出さないと、約 15 秒後に自動的に引き込まれます。
- 本機からディスクを取り出すときは水平方向に引き出してください。下側や上側に強く押しながら引き出すとディスクの記録面に傷を付ける原因となります。



ディスクを取り出せないときは

- 1 フロントパネルの【▲】（オープンキー）を押し続ける
- 2 [はい] にタッチする



フロントパネルが開き、ディスクが排出されます。

- 3 ディスクを取り出す

画面の見かたと操作

音楽 CD またはオーディオファイルディスクを再生します。

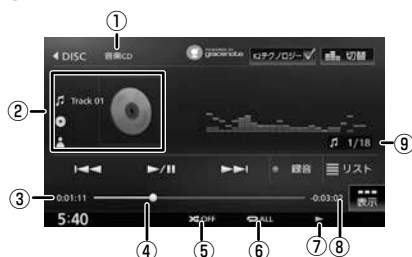


- リピート再生モードとランダム再生モードは同時に設定できません。
- アルバム名、曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- 走行中は、アルバム名とアーティスト名は表示されませんが、スクロールはできません。

ここまでの手順 ▶

ソースを DISC に切り替える (→ P.24)

音楽 CD



オーディオファイルディスク



- ① ディスクの種類
- ② 音楽 CD :
 - ♪ トラック番号
 - オーディオファイルディスク :
 - 🎵 曲名 (ファイル名)
 - 🎵 アルバム名 (フォルダ名)
 - 👤 アーティスト名
 - 🖼️ アルバムアート画像
- ③ 演奏時間
- ④ シークバー
- ⑤ ランダム再生モード
- ⑥ リピート再生モード
- ⑦ 再生状態表示
- ⑧ 演奏残り時間
- ⑨ トラック番号 / 総曲数 (ファイル番号)
- ⑩ ファイル形式 (オーディオファイルディスクのみ)



・ 連携スマホアプリケーション
 「KENWOOD Music Info.」(→ P.84)
 を使って楽曲情報を取得すると音楽 CD
 の AV 画面で楽曲情報が表示されます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
▶/	再生または一時停止 (ポーズ) します。
◀/▶	前または次の曲を再生します (スキップ)。 タッチし続けると、早戻し (バックサーチ) または早送り (フォワードサーチ) されます。
◀/+ / +/▶ (オーディオファイルディスクのみ)	前 / 次のフォルダの先頭ファイルから再生します。
[リスト]	再生中の曲またはファイルの再生リストを表示します。 ・ [トップ] (オーディオファイルディスクのみ) : 一番上の階層のフォルダに移動します。 ・ [一つ上] (オーディオファイルディスクのみ) : 一つ上の階層のフォルダに移動します。
[録音] (音楽 CD のみ)	現在の音楽 CD を内蔵メモリまたは SD カードに録音します。 (→ P.34) [録音停止] にタッチすると、録音を停止します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[タイトル検索] (音楽 CD のみ)	「KENWOOD Music Info.」で使用します。(→ P.84)
[録音設定] (音楽 CD のみ)	本機の内蔵メモリまたは SD カードに録音する時の設定をします。(→ P.34)
⊗	タッチするたびにランダム再生モードが切り替わります。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> OFF : ランダム再生モードを解除します。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ALL (音楽 CD のみ) : アルバム内の曲をランダム再生します。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> フォルダ (オーディオファイルディスクのみ) : 再生中の曲が含まれるフォルダ内のすべての曲をランダム再生します。
🔄	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ALL : すべての曲をくり返し再生します。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 1 : 再生中の曲をくり返し再生します。 ・ <input checked="" type="checkbox"/> フォルダ (オーディオファイルディスクのみ) : 再生中の曲が含まれるフォルダ内のすべての曲をくり返し再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

関連キーワード



● 録音する

本機では、音楽 CD を再生しながら、本機の内蔵メモリまたは SD カードに最大約 4 倍速で録音することができます。(→ P.34)

DVDを再生する

画面の見かたと操作 (DVDビデオ / DVD-VR)

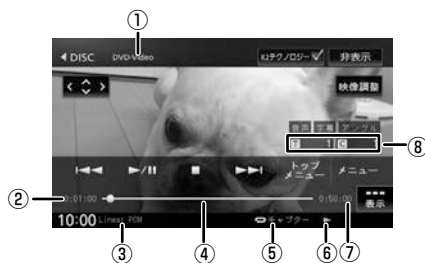
DVDを再生します。
ディスクの出し入れについては、44ページをご覧ください。

ここまでの手順 ▶

ソースをDISCに切り替える(→ P.24)

DVDビデオを再生する

画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。



操作ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面右上の「非表示」でも消すことができます。

- ① ディスクの種類
- ② 再生時間
- ③ 音声形式
- ④ シークバー
- ⑤ リピート再生モード
- ⑥ 再生状態表示
- ⑦ 再生残り時間
- ⑧ タイトル番号 / チャプター番号

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[非表示]	操作ボタンを消します。
[映像調整]	映像の画質を調整します。 (→ P.25)
< ◀ ▶ >	カーソルを表示します。 (→ P.48)
[トップメニュー]	ディスクのトップメニューを表示します。
[メニュー]	ディスクのメニューを表示します。

ボタン	説明
▶/	再生または一時停止(ポーズ)します。
□	再生を停止します。
◀◀ / ▶▶	前または次のチャプターを再生します(スキップ)。 タッチし続けると、早戻し(バックサーチ)または早送り(フォワードサーチ)されます。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。

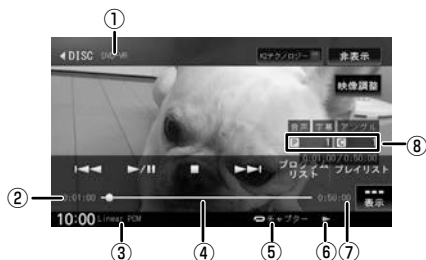


● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[DVD設定]	DVDの設定画面を表示します。 (→ P.48) このボタンにタッチすると、再生中のビデオは停止します。
[音声切替]	音声を切り替えます。
[字幕切替]	字幕を切り替えます。
[アングル]	アングルを切り替えます。
↺	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • ALL: すべてのチャプターをくり返し再生します。 • チャプター: 再生中のチャプターをくり返し再生します。 • タイトル: 再生中のタイトルをくり返し再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

DVD-VR を再生する

画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。



操作ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面右上の [非表示] でも消すことができます。

- ① ディスクの種類
- ② 再生時間
- ③ 音声形式
- ④ シークバー
- ⑤ リピート再生モード
- ⑥ 再生状態表示
- ⑦ 再生残り時間
- ⑧ プログラム番号またはプレイリスト番号 / チャプター番号

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[非表示]	操作ボタンを消します。
[映像調整]	映像の画質を調整します。 (→ P.25)
[プログラムリスト]	プログラムリストを表示します。
[プレイリスト]	プレイリストを表示します。
▶/	再生または一時停止 (ポーズ) します。
■	再生を停止します。
◀/▶	前または次のチャプターを再生します (スキップ)。 タッチし続けると、早戻し (バックサーチ) または早送り (フォワードサーチ) されます。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[DVD 設定]	DVD の設定をします。
[音声切替]	音声の種類を切り替えます。
[字幕切替]	字幕の表示 / 非表示を切り替えます。
↺	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。 <ul style="list-style-type: none"> • ALL : すべてのチャプターをくり返し再生します。 • チャプター : 再生中のチャプターをくり返し再生します。 • プログラム : 再生中のプログラムをくり返し再生します。 • プレイリスト : 再生中のプレイリストをくり返し再生します。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。

DVD ディスクメニューを操作する

DVD ビデオに収録されているメニュー（ディスクメニュー）を操作します。

カーソルで操作する

- 1 ディスクメニュー表示中に画面にタッチする
- 2 [表示] にタッチする



- 3 <> にタッチする



- 4 各ボタンにタッチして操作する



[非表示] :
操作ボタンを消します。

◀/▶/▼/▲ :
タッチした方向にメニューのカーソルを移動します。

[リターン] :
ディスクメニューの1階層上の項目を表示します。

[決定] :
選択中の項目を実行します。



- 表示されるディスクメニューおよび操作できる項目は、DVDによって異なります。

ディスクメニューを直接操作する

ディスクメニューを表示しているときは、ディスクメニューの項目に直接タッチして操作できます。



DVD の設定をする

DVD に関する設定を行います。操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。

- 1 [DVD 設定] にタッチする



- 2 各項目を設定する

設定できる項目は以下のとおりです。

項目	説明
メニュー言語	DVD ビデオのメニュー/トップメニューの表示優先言語を設定します。
音声言語	DVD ビデオの音声出力の優先言語を設定します。
字幕言語	DVD ビデオの字幕表示の優先言語を設定します。
ダイナミックレンジコントロール	DVD 音声のダイナミックレンジを設定します。 ワイド>ノーマル>ダイアログの順にダイナミックレンジは狭くなりますが、映画のセリフなどは明確に聞き取れるようになります。



- 設定した優先言語が再生する DVD に収録されていない場合は、収録されている言語になります。
- ディスクによっては、設定した優先言語に変わらない場合があります。

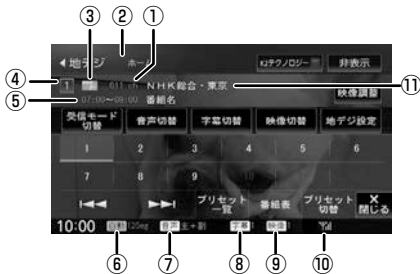
地デジを視聴する

画面の見かたと操作

ここまでの手順 ▶

ソースを地デジに切り替える (→ P.24)

画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。



操作ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面右上の「非表示」でも消すことができます。

- ① チャンネル番号
- ② プリセットモード
- ③ サービスのロゴ
- ④ プリセット番号
- ⑤ 放送時間、番組名
- ⑥ 受信モード
- ⑦ 音声の種類

複数の音声 / 二重音声があるときに出力している音声の番号が表示されます。

- ⑧ 字幕の種類
字幕を選択しているときに表示されます。
- ⑨ 映像の種類
複数の映像があるときに視聴中の映像の番号が表示されます。
- ⑩ 電波の強さ
- ⑪ サービス名

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[非表示]	操作ボタンを消します。
[映像調整]	映像の画質を調整します。 (→ P.25)

ボタン	説明
[1] ~ [12] (プリセットチャンネルボタン)	プリセットされている放送局に切り替えます。視聴している放送局が複数のサービスを放送している場合は、■□が表示されます。視聴中のプリセットボタンをタッチするたびに切り替えます。
[プリセット一覧]	プリセット一覧を表示します。タッチするとプリセットされている放送局に切り替えます。視聴している放送局が複数のサービスを放送している場合は、■□が表示されます。視聴中のプリセットボタンをタッチするたびにサービスが切り替わります。
◀▶	前または次のプリセット局を選局します。
[番組表]	番組表を表示します。(→ P.51)
[プリセット切替]	プリセットモード(ホーム / お出かけ)が切り替わります。はじめてご使用になる場合は初期スキャン(プリセット)を行ってください。(→ P.50)
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[受信モード切替]	受信モードを切り替えます。 自動: 自動受信モード(1Seg または 12Seg)に切り替えます。 固定 12Seg: 12セグ固定モードに切り替えます。 固定 1Seg: ワンセグ固定モードに切り替えます。
[音声切替]	視聴番組に複数の音声 / 二重音声があるときに、音声を切り替えます。なお、番組によって、切り替わる音声の種類は異なります。

ボタン	説明
[字幕切替]	番組に字幕があるときに、字幕を切り替えます。 なお、ボタンが表示されていても、字幕が放送されていない場合があります。
[映像切替]	視聴番組に複数の映像があるときに、映像を切り替えます。
[地デジ設定]	地デジ設定画面を表示します。 (→ P.52)
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。



- 12セグとワンセグの切り替え時に、放送によっては音量が変わったり、映像/音声のつながりが途切れる場合があります。
- 放送局によっては、12セグとワンセグで番組が異なる場合があります。
- 本機は5.1chサラウンドには対応しておりません。音声は2chで出力されます。

プリセットモードを切り替える

プリセットモードには、「ホーム」、「お出かけ」があります。

「ホーム」と「お出かけ」は、それぞれにプリセットが登録できます。自宅周辺ではホーム、ドライブ先ではお出かけと使い分けると便利です。

1 【プリセット切替】にタッチする

操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。



タッチするたびに、ホームとお出かけに切り替わります。

放送局を登録（プリセット）する

はじめてご使用になる場合は、プリセット（初期スキャン）を行ってください。

1 【プリセット切替】にタッチして、「ホーム」または「お出かけ」に切り替える

操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。



2 【プリセット一覧】にタッチする



3 【初期スキャン】にタッチする



4 現在地の都道府県にタッチして【はい】にタッチする



受信できる放送局を検索し登録します。



- [再スキャン] は初期スキャンを行ったあとで、新たに受信できる放送局を空いているプリセットボタンに登録します。
- 再スキャンはすでにプリセットされている内容はそのまま残ります。
- プリセットした後に初期スキャンをするとプリセットされていた内容はすべて消去され新たにプリセットします。

番組表を見る

最大 8 日分の番組表を表示できます。また、表示した番組表から放送局を選局することもできます。

1 【番組表】にタッチする

操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。



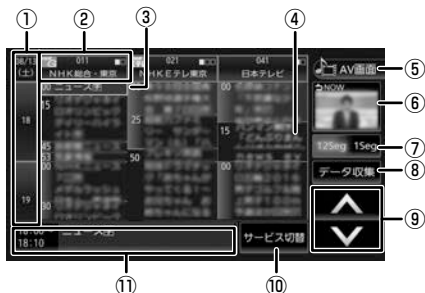
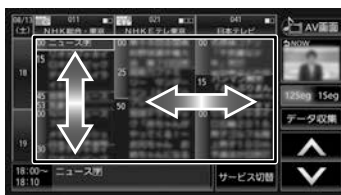
番組表が表示されます。



- すでに放送時間がすぎた番組の番組表は表示できません。
- 番組表データは、電源をオフにしてオンにすると消去されます。
- 受信したチャンネルは番組表データを自動で収集し表示します。受信していないチャンネルの番組表を表示したいときは [データ収集] にタッチしてデータを取得してください。
- ワンセグ番組表では、最大 10 番組まで表示されます。
- 受信していないサービスの箇所は空欄になります。受信すると表示されます。
- サービスの選局直後は、番組表から選局できない場合があります。

番組表の見かたと操作

番組表はフリックまたはドラッグすることで、上下左右にスクロールできます。



- ① **日時：**
タッチすると、表示する番組表の日付を選択できます。
- ② **放送局：**
タッチするとその放送局を受信します。
- ③ **フォーカス**
- ④ **現在視聴中の番組**
背景が青色で表示されます。
- ⑤ **[AV 画面]：**
番組表を消して、AV 画面に戻ります。
- ⑥ **視聴中番組：**
タッチすると現在視聴している番組にフォーカスを移動します。
- ⑦ **[12Seg 1seg]：**
タッチすると 12 セグ番組表とワンセグ番組表を切り替えます。
- ⑧ **[データ収集]：**
プリセットされている放送局の現在時刻から 24 時間先までの番組表データを収集します。
- ⑨ **▲ / ▼：**
フォーカスを移動します。
- ⑩ **[サービス切替]：**
マルチ編成番組 (1 つのチャンネルで 2 番組を同時に放送すること) の場合はタッチすると番組表内の番組情報を別サービスに切り替えます。
- ⑪ **番組詳細：**
フォーカスされている番組の情報を表示します。タッチすると、番組の詳細情報が表示されます。

緊急放送を表示する

緊急警報放送を受信すると、自動的に緊急警報放送に切り替わります。

緊急警報放送を受信すると、メッセージが表示されます。



【はい】：

緊急警報放送に切り替わります。



- 緊急警報放送は、AVソースが地デジのときのみ表示されます。

中継局 / 系列局をサーチする

受信レベルが低下して番組を視聴できなくなったとき、自動的に受信可能な中継局 / 系列局を探して切り替えることができます（中継局サーチ）。

中継局 / 系列局の自動切り替え条件は、「地デジ設定」の「中継局 / 系列局サーチ」で設定できます。「中継局 / 系列局サーチ」を「自動切替（中継局）」に設定している場合は、中継局のみがサーチされます。



- 系列局に切り替わった場合、元のサービスと番組が異なる場合があります。
- 受信条件によっては、サーチに数分以上かかる場合があります。
- 系列局のない放送局の場合は、中継局のみがサーチされます。

地デジの設定をする

地デジの設定を変更します。操作ボタンが表示されていないときは、画面にタッチすると表示されます。

1 「地デジ設定」にタッチする



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	設定	説明
1Seg/12Seg 自動切替設定	推奨*/ 12セグを優先/ 切替頻度を低減	受信モードを「自動」に設定している場合に、優先させる切替条件を設定します。
中継局 / 系列局サーチ	自動切替しない/ 自動切替（中継局）/ 自動切替（中継局+系列局）*	中継局サーチ時の切り替え方法を設定します。
文字スーパー	表示しない/ 第一言語*/ 第二言語/	表示する文字スーパーを設定します。
デバイスID	受信識別情報が表示されます。この情報は、受信不具合時のお問い合わせ時に必要になることがあります。	
番組表文字サイズ	小 / 中* / 大	番組表の文字のサイズを選ぶことができます。

*：お買い上げ時の設定です。

AM または FM を聴く

画面の見かたと操作

ここまでの手順 ▶

ソースを AM または FM に切り替える (→ P.24)



- ① プリセットモード
- ② プリセット番号 / 周波数
- ③ ステレオ受信表示
- ④ 電波の強さ

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わりません。
◀ / ▶	放送局を選択します。タッチするたびに、1 ステップずつ周波数を変えて選局します (マニュアル選局)。タッチし続けると、タッチしている間、周波数が連続して変わります。
◀◀ / ▶▶	プリセット局を番号順に受信します。「サーチ中…」が表示されるまでタッチし続けると、受信可能な放送局を自動的に受信します (オート選局)。
[1] ~ [8] (プリセットボタン)	プリセットされている放送局を受信します。
[プリセット切替]	プリセットモード (お気に入り1 / お気に入り2) を切り替えます。(→ P.53)

プリセットモードを切り替える

プリセットモードには、「お気に入り1」と「お気に入り2」があります。お好みの放送局を「お気に入り1」または「お気に入り2」にそれぞれ8局まで登録できます。

1 [プリセット切替] にタッチする



タッチするたびに、お気に入り1とお気に入り2に切り替わります。

放送局を登録 (プリセット) する

プリセットボタンに放送局を登録 (プリセット) します。

1 登録する放送局を受信する

マニュアル選局またはオート選局などで、登録する放送局を受信します。(→ P.53)

2 [プリセット切替] にタッチして、「お気に入り1」または「お気に入り2」に切り替える



3 登録先のプリセットボタンを2秒以上タッチし続ける



受信中の放送局がプリセットボタンに登録されます。

登録した放送局は、お気に入りモード (1 または 2) で該当するプリセットボタンにタッチすると受信できます。

交通情報を受信する

交通情報（1620kHzまたは1629kHz）を受信します。交通情報に切り替えると、受信状態が良いほうが自動的に受信されます。

画面の見かたと操作

ここまでの手順 ▶

ソースを交通情報に切り替える（→ P.24）



- ① 周波数
- ② 電波の強さ

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[1620kHz] / [1629kHz]	1620kHzまたは1629kHzに手動で切り替えます。



- 交通情報の音量は、他のソースから独立して調整できます。

HDMI または MHL 対応機器を再生する

HDMI または MHL 機器を接続する

本機に HDMI または MHL 機器を接続します。本機では、HDMI または MHL 機器いずれか一方のみ接続できます。

HDMI または MHL 機器の接続には別売のケーブルが必要です。

- HDMI 接続の場合：
HDMI ケーブル KNA-13HC (別売品)
- MHL 接続の場合：
MHL ケーブル KNA-13MC (別売品)

HDMI 機器



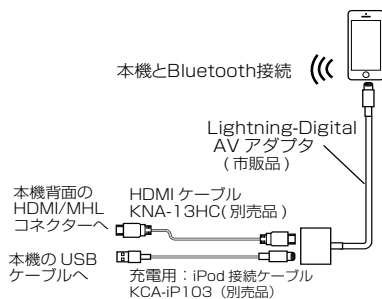
MHL 機器



- HDMI/MHL ソースの映像はリアモニターへ出力できません。

iPod/iPhone の場合

iPod/iPhone の場合は以下のように接続してください。



- Lightning-Digital AV アダプタ (市販品) は車内に放置しないでください。

画面の見かたと操作

本機に接続した HDMI または MHL 機器の映像を視聴します。

ここまでの手順

ソースを HDMI/MHL に切り替える (→ P.24)



● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[映像調整]	映像の画質を調整します。 (→ P.25)
[非表示]	操作ボタンを消します。

外部機器 (AV-IN) を接続する

画面の見かたと操作

本機に接続した外部機器の音楽や映像を視聴します。接続する外部機器の種類の設定が必要です。(→ P.69)

ここまでの手順 ▶

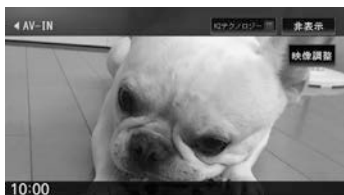
ソースを AV-IN に切り替える (→ P.24)

オーディオ



ビデオ

画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。



操作ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面右上の「非表示」でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[映像調整]	映像の画質を調整します。(→ P.25)
[非表示]	操作ボタンを消します。



- ・フロントビューカメラを接続しているときは、AV-IN を使用できません。

「SMART USEN」を使う

「SMART USEN」は、株式会社 U-NEXT が提供するラジオ型の定額制音楽配信サービス (アプリケーション) です。

「SMART USEN」を利用するには iOS または Android 用スマートフォンアプリケーションが必要です。

「SMART USEN」の詳細はホームページをご覧ください。<http://smart.usen.com/>

準備する

- 1 App Store または Google Play から「SMART USEN」をスマートフォンにインストールする

本機とスマートフォンを接続する

- 1 本機にスマートフォンを接続する

本機に接続するスマートフォンがインターネットに接続されていることを確認してください。

■ iPhone を接続する場合

本機の USB ケーブルに接続します。接続ケーブルは別売の KCA-iP103 を使用します。また、Bluetooth で接続することもできます。Bluetooth 接続には登録が必要です。72 ページをご覧ください。

■ Android 搭載スマートフォンを接続する場合

Android 端末と本機を Bluetooth 接続します。(→ P.72)

2 「SMART USEN」を起動する



- ・「SMART USEN」を起動して本機に接続しているときは、スマートフォンでの操作はできません。
- ・「SMART USEN」の全てのチャンネルを聴くには有料サービス契約が必要です。
- ・「SMART USEN」ご利用時の通信料はお客様のご負担となります。
- ・通信が不安定な場合は正常に動作しない場合があります。
- ・「SMART USEN」を USB ケーブルで接続した iPhone で使用していると、Bluetooth 接続したスマートフォンでは「SMART USEN」を使用できません。

画面の見かたと操作

ここまでの手順

ソースを SMART USEN に切り替える
(→ P.24)



- 曲名、アーティスト名は、情報がすべて表示されていないときには、それぞれの項目にタッチすると情報がスクロール表示されます。
- 走行中は、アーティスト名は表示されません。曲名は表示されますが、スクロールはできません。



① CH チャンネル名

- 🎵 曲名
- 👤 アーティスト名
- 🖼️ アルバムアート画像

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[デバイス切替] (Bluetooth 接続時のみ)	Bluetooth 接続のときは、Bluetooth デバイス接続画面を表示します。
/	にタッチすると消音します。 にタッチすると元の音量に戻ります。
[CHANNEL リスト]	聴きたいジャンルやカテゴリーからチャンネルを選択します。
[FAVORITE リスト]	お気に入り登録したチャンネルと今まで聴いたことのあるチャンネルをリスト(お気に入りリスト/履歴リスト)で切り替えて表示します。チャンネルにタッチするとチャンネルが切り替わります。
[お気に入り登録]	再生中のチャンネルをお気に入り登録します。
[お気に入り一覧]	お気に入りリストに登録されたチャンネルから最大 99 チャンネルを表示します。タッチするとチャンネルが切り替わります。

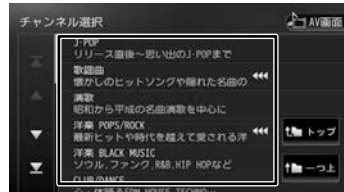
ボタン	説明
[リスト]	再生中の曲、一つ前の曲、再生予定の5曲をリストで表示します。このリストからチャンネル選択はできません。

チャンネルを選ぶ

1 [CHANNEL リスト] にタッチする



2 聴きたいジャンルまたはカテゴリー名にタッチする



3 聴きたいチャンネルにタッチする



[トップ]:
一番上の階層のリストに移動します。

[一つ上]:
一つ上の階層のリストに移動します。

[絞り込み]:
絞り込み条件にタッチすると、表示するチャンネルを絞り込めます。

チャンネル名を検索する

1 [CHANNEL リスト] にタッチする



2 [チャンネル名検索] にタッチする



3 検索したいチャンネル名を入力する



- ・入力可能最大文字数は、30 文字です。
- ・文字入力については 18 ページをご覧ください。

再生中のチャンネルをお気に入り登録する

再生中のチャンネルをお気に入り登録することができます。

1 [お気に入り登録] にタッチする



「お気に入りチャンネルに追加しました」と表示されチャンネルを登録します。

登録したチャンネルは「FAVORITE リスト」および「お気に入り一覧」から簡単に選択できるようになります。

お気に入りのチャンネルを選ぶ

1 [お気に入り一覧] または [FAVORITE リスト] にタッチする



2 聴きたいチャンネルにタッチする

■「お気に入り一覧」をタッチしたとき



[前ページ] / [次ページ] :

お気に入り一覧のページを切り替えます。

[一覧を閉じる] :

お気に入り一覧を閉じます。

■「FAVORITE リスト」をタッチしたとき



[履歴リスト] :

今まで聴いたチャンネルから最大 30 チャンネルのリストを表示します。

[お気に入りリスト] にタッチするとお気に入りリストに戻ります。



- ・「お気に入り一覧」、「お気に入りリスト」、「履歴リスト」のチャンネルを本機で削除することはできません。「SMART USEN」アプリケーションで削除してください。

情報・設定画面について

情報・設定画面では、サウンドや外部機器などの設定をカスタマイズができます。

1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチする



■ 情報

接続：

本機に接続されている機器の接続状態や GPS の受信状態などを表示します。(→ P.71)

バージョン：

本機に収録されている各種データのバージョン情報を表示します。(→ P.70)

■ 設定

サウンド：

サウンドに関する設定を行います。(→ P.59)

システム：

システムに関する設定を行います。(→ P.66)

外部機器：

外部機器を接続するときの設定を行います。(→ P.69)

サウンドの設定をする

音質、音響効果など、本機のサウンドに関する項目を設定します。



- サウンドの設定は AV ソースを選択しているときに行ってください。ソースがオフ (STANDBY) のときは、サウンドの設定はできません。
- ハンズフリー電話の通話中や発信、着信中は「バランス / フェーダー」以外のサウンドの設定はできません。

1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【サウンド】にタッチする

2 設定する項目にタッチする



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	説明
リスニング設定	音を聞く座席に合わせてより良い音場になるように視聴効果を設定します。(→ P.61)
イコライザー	音質を設定します。(→ P.63)
バランス / フェーダー	◀ または ▶ にタッチして左右のバランスを、▲ または ▼ にタッチして前後のバランスを調整することもできます。 [センターに戻す]：左右 / 前後ともに中央になります。
ホールシミュレーション	サラウンド効果を設定します。(→ P.64)
音質・音場効果	音響効果を設定します。(→ P.65)
スピーカー	スピーカーの構成を設定します。(→ P.60)
サブウーファーレベル	◀ または ▶ にタッチしてサブウーファーのレベルを設定します。
ソースレベル	各 AV ソースの音量をそろえます。(→ P.65)

車両タイプの設定をする

車両タイプを設定すると、簡易的に車両タイプに合わせた音質が設定されます。

1 [スピーカー] にタッチする



2 [車両タイプ] にタッチする



3 車両タイプを選んでタッチする



スピーカー構成を設定する

実際に設置されているスピーカーの取付位置、スピーカー口径などを設定します。さらにスピーカーのクロスオーバー周波数も調整することができます。より車両に適したリスニング設定ができます。

1 上記の「車両タイプの設定をする」の手順 1～3 を行う

2 設定するスピーカーにタッチする



- (A) : フロントスピーカー
- (B) : リアスピーカー
- (C) : サブウーファー

3 各項目にタッチして設定する



[取付位置] :

スピーカーの位置を設定します。

[スピーカー口径] :

スピーカーの口径を設定します。フロントスピーカーの口径を設定するときは“なし”には設定できません。

[ツイーター口径] :

ツイーターの口径を設定します。

スピーカーのクロスオーバー周波数を調整する

フロント/リアスピーカーとサブウーファースのクロスオーバー周波数とスロープ(減衰率)、サブウーファースの位相、スピーカーレベルを設定します。



- ・ カットオフ周波数は、スピーカーにより異なります。
 - フロント/リアスピーカー : 指定した周波数よりも低い成分をカットする周波数。
 - サブウーファー : 指定した周波数よりも高い成分をカットする周波数。

この機能により、フロント/リアスピーカーでは低域成分、サブウーファーでは高域成分が出力されないようにできます。

- ・ 各スピーカーやツイーターの出力レベルを変えると、トーンカーブ全体が上下に動きます。各スピーカーの出力レベルがそろるように調整します。
- ・ スピーカー構成の設定でリアスピーカー、サブウーファースのスピーカー口径を“なし”に設定している場合は、それぞれのクロスオーバーは調整できません。

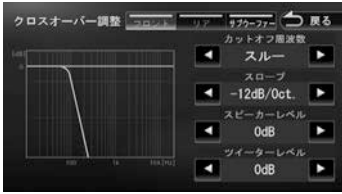
1 [クロスオーバー調整] にタッチする



2 クロスオーバー周波数を変更するスピーカーにタッチする



3 ◀または▶にタッチして、各項目を設定する



- [カットオフ周波数]：**
カットする周波数の値を設定します。
“スルー”にすると、機能がオフになります。
- [スロップ]：**
カットオフ周波数で設定した帯域の音をカットするときの減衰率を設定します。
1 オクターブ (oct) あたりの減衰率を dB で設定します。
- [スピーカーレベル]：**
スピーカーレベルを設定します。
- [ツイーターレベル]：**
ツイーターレベルを設定します。
スピーカー設定 (⇒ P.60) でツイーターの口径が設定されている場合のみ設定できます。
- [位相反転]：**
位相の反転をする (チェックあり)、しない (チェックなし) をタッチして設定します。(サブウーファーのみ)

リスニングを設定する

リスニング設定は音を聞く座席に合わせてより良い音場になるように視聴効果を設定します。
リスニング設定には2つの設定方法があります。
2つ同時に設定することはできません。

リスニングポジション：

設定した座席に近いスピーカーほど音の出るタイミングを遅らせる (ディレイ) ことで、各スピーカーからの音が同時に聞こえてくるように調整します。

フロントフォーカス：

仮想の音像イメージを設定した座席の正面に定位させる機能です。フロントフォーカスの「前の両座席」と「全ての座席」のそれぞれについては、音像イメージを右側座席正面に定位させたい場合は「右側優先」を、左側に定位させたい場合「左側優先」を選んでください。



- リスニング設定はスピーカー構成の設定 (⇒ P.60) で車両タイプとスピーカー構成の両方が設定されていないと正しく設定できません。
- スピーカー構成の設定でリアスピーカー、サブウーファーのスピーカー口径を“なし”に設定している場合は、それぞれのスピーカー調整ができません。
- フロントフォーカスの [ディレイ] 設定の [音像左右 (主調整)] の [リア・サブウーファーを出力しないで調整] は、スピーカー構成の設定でリアスピーカー、サブウーファーのスピーカー口径を両方“なし”に設定している場合はタッチできません。
- フロントフォーカス調整の [ディレイ] 設定の [仮想音場の広さ] は、スピーカー構成の設定でリアスピーカーのスピーカー口径を“なし”に設定している場合は調整できません。
- フロントフォーカス調整の [ディレイ] 設定の [サブウーファーのディレイ] は、スピーカー構成の設定でサブウーファーのスピーカー口径を“なし”に設定している場合は調整できません。
- フロントフォーカスを調整するときに表示される画面は、[閉じる] が表示されているときは [閉じる] にタッチして閉じてください。

- 1 車両タイプを設定してスピーカーを設定する (→ P.60)
- 2 [リスニング設定] にタッチする



- 3 リスニングポジションまたはフロントフォーカスの設定したい座席にタッチする



選択した座席に合わせた音場効果が設定されます。設定はさらに微調整することもできます。

リスニングポジションを微調整する

- 1 [調整] にタッチする



- 2 [ディレイ] にタッチして、各スピーカーの ◀ または ▶ にタッチして実際に測った距離を設定する



お使いの車で実際に測った距離を設定します。リスニングポジションを「全ての座席」または「前の両座席」に設定している場合はそれぞれの中央からの距離を測ってください。

- 3 [レベル] にタッチして、各スピーカーの ◀ または ▶ にタッチして音を聴きながら調整する



フロントフォーカスの微調整をする

- 1 [調整] にタッチする



- 2 [ディレイ] にタッチして下記の順で各項目を設定する



- [音像左右 (主調整)] にタッチする

[リア・サブウーファーを出力しないで調整] にチェックが付いている状態で、◀ または ▶ にタッチして、音像イメージが座席の正面になるように調整します。

次に [リア・サブウーファーを出力しないで調整] にタッチしてチェックが消えている状態で、音像イメージが座席の正面になっているか確認してください。音像の位置がずれた場合は ◀ または ▶ にタッチして調整してください。

- [仮想音場の広さ] にタッチする

音を聞きながら ◀ または ▶ にタッチしてお好みの広さイメージになるよう調整します。この調整で音像イメージが正面からずれたときは [音像左右 (微調整)] で微調整してください。

- [サブウーファースのディレイ] タッチする

音を聞きながら ◀ または ▶ にタッチしてサブウーファースのディレイを調整します。

- 3 [レベル] にタッチして、各スピーカーの ◀ または ▶ にタッチして音を聴きながら調整する



設定した値を初期設定に戻す

[初期値に戻す] にタッチするとメッセージが表示されます。

[はい] にタッチするとディレイとレベルで調整した両方の値を初期設定に戻します。

プリセットイコライザーを設定する

ジャンル別に設定されたプリセットイコライザーをソースごとに設定します。

- 1 設定したいソースを選ぶ
- 2 [イコライザー] にタッチする



- 3 [プリセット選択] にタッチする



- 4 設定したいプリセットイコライザー (ジャンル) にタッチする



手順 1 で選択したソースに設定されます。

ユーザーイコライザーを設定する

ユーザー独自のイコライザーカーブを調整し、ソースごとに設定します。ジャンル別に設定されたプリセットイコライザーを呼び出してイコライザーカーブを調整することもできます。

- 1 設定したいソースを選ぶ
- 2 [イコライザー] にタッチする



- 3 画面を指でなぞる



[フラット]:

すべての周波数帯域をフラットにします。

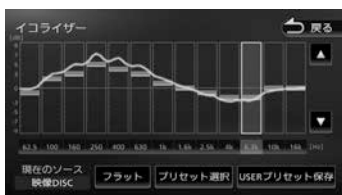


- 調整したい周波数を選んでタッチし、▲ または ▼ にタッチしてレベルを設定することもできます。

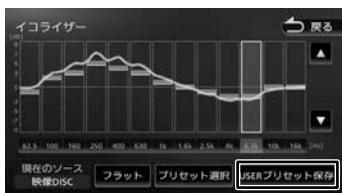
調整したイコライザーカーブを保存する

ユーザー独自で調整したイコライザーカーブをプリセットイコライザーのUSER1～4に保存できます。

1 イコライザーカーブを調整する



2 [USERプリセット保存] にタッチする



3 保存先にタッチする



ホールシミュレーションを設定する

ホールシミュレーションを設定することで、車内で擬似的な音場効果を設定できます。

1 [ホールシミュレーション] にタッチする



2 サラウンドの [ON] にタッチする



3 設定する項目にタッチする



反射音レベルと反射音のディレイタイムを設定することもできます。

[反射音レベル] (LOW/MID/HIGH) または [ディレイタイム] (SHORT/MID/LONG) にタッチして聴きながら調整してください。



- ・ホールシミュレーションのサラウンドをONに設定しているときは、リアスピーカーの音量が小さくなります。

音響効果を設定する

各種の音響効果を設定します。

1 「音質・音場効果」にタッチする



2 各項目を調整する



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	設定	説明
ミュージックパスブースト	OFF/1*/2/3	低音楽器の音を增強するレベルを設定します。
ミュージックラウドネス	OFF*/LOW/HIGH	小音量時でも音楽的な周波数バランスが保たれて聞えるように、低音と高音を補います。録音レベルが大きい曲の場合はLow、小さい曲の場合はHighが適しています。
Drive Equalizer +	OFF ~ 7* ~ 9	車速とAV音量に応じて音質を自動で調整します。
内蔵アンプ出力	OFF/ON*	内蔵アンプを使用するかどうかを設定します。
K2テクノロジー	OFF/ON*	録音時に失われた信号成分を補完し、より自然な音声再生にします。
リアライザー	OFF/1*/2/3	ぼやけた音をはっきりさせて、よりリアリティ感のある音にします。ここではそのレベルを設定します。圧縮された音楽に効果的です。
サウンドライザー	OFF*/LOW/MIDDLE/HIGH	実際のスピーカーの位置よりも高い位置から音が聞こえるような音響効果を作り出します。ここでは、仮想スピーカーの位置(高さ)を設定します。

項目	設定	説明
プロモードEQ		さらに詳細な設定ができる本格的な音場補正機能です。設定方法については、 http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/ で型名を選んで「取扱説明書」をご覧ください。

*：お買い上げ時の設定です。



- 「プロモードEQ」をONに設定すると、「ホールシミュレーション」は使用できません。
- K2(ケー・ツー)は、1987年に株式会社JVCケンウッドとビクターエンタテインメントのビクタースタジオにより共同開発されたデジタルにおける高音質化技術です。

ソースの音量レベルを設定する

各ソースの音量をそろえます。

1 「ソースレベル」にタッチする



2 現在のソースの[-]または[+]にタッチして、音量を調整する



- 「iPod」と「SMART USEN」は接続方法別に調整してください。

システムの設定をする

本機のシステムに関する項目を設定します。

- 1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【システム】にタッチする
- 2 設定する項目にタッチする



設定できる項目は以下のとおりです。

● AV

項目	設定	説明
案内音声出力時のAV音量	そのまま / 下げる * / 消音	音声案内時の AV ソースの音量を設定します。
リバース時のAV音量ダウン	ON*/OFF	バックするとき AV ソースの音量を下げるかどうかを設定します。
スターターボリューム	動作しない* / 更新間隔:速 / 更新間隔:中 / 更新間隔:遅	電源オン時に AV の音量を一定量下げます。電源オフ時の音量に自動で戻すまでの間隔を設定します。

● 表示

項目	設定	説明
キーイルミネーション色選択	キーイルミネーションの色を設定します。(→ P.67)	
映像画面 / 消灯画面の時計表示	ON*/OFF	映像画面表示中と画面オフ時に時計を表示するかどうかを設定します。

● 車両

項目	設定	説明
オートアンテナ	あり / なし *	オートアンテナを装着している場合に設定します。
ステアリングリモコン	車両のステアリングリモコンで本機を操作できるように設定します。	
ステアリングリモコン学習	ステアリングリモコンの動作を設定します。(→ P.89)	

● 一般

項目	設定	説明
SD カード初期化		SD カードの初期化を行います。SD カード内のデータは、すべて消去されます。
案内音声の音量	1 ~ 25* ~ 40	案内音声の音量を設定します。
操作音の音量	0 ~ 3* ~ 5	操作音の音量を設定します。
ショートカットボタン登録		マイメニューに表示されるショートカットボタンに機能を割り当てます。(→ P.16)
暗証番号登録		本機の起動のための暗証番号を設定します。(→ P.68)
暗証番号解除		設定した暗証番号を解除します。(→ P.69)
暗証番号変更		設定した暗証番号を変更します。(→ P.69)
セキュリティインジケーター	ON/OFF*	本機の電源をオフにしたときにセキュリティインジケーターを点滅させるかどうかを設定します。
リフレッシュ通知	ON*/OFF	本機の電源をオンにすると 2 時間ごとに「そろそろ 2 時間になります。休憩しませんか?」と音声案内されます。

● 特別

項目	設定	説明
オープンソースライセンス		ライセンスを表示します。
設定データの書き出し		設定を SD カードに保存します。(→ P.67)
設定データの読み込み		書き出した設定データを本機に読み込みます。(→ P.67)
システムの初期化		ユーザーが登録したデータを消去し、ユーザーが変更した設定をお買い上げ時の設定状態に戻します。(→ P.67)

* : お買い上げ時の設定です。

設定を SD カードに保存する

本機の設定を SD カードに保存（書き出し）することができます。

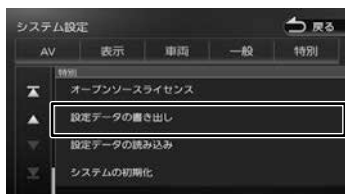
次の項目は、SD カードに保存（書き出し）できない項目です。

- ・ センサーの学習データ
- ・ 録音データ
- ・ 暗証番号
- ・ ステアリングリモコン設定（ステアリングリモコン学習内容を含む）

次の項目は設定データを読み込んだときに初期化される項目です。

- ・ Bluetooth 機器の登録
- ・ 本機のハンズフリー電話帳 / 着信履歴 / 不在着信履歴 / 発信履歴 / プリセットダイヤル
- ・ デバイス名 (Bluetooth)
- ・ PIN コード (Bluetooth)

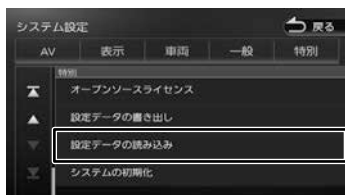
- 1 「特別」の【設定データの書き出し】にタッチして、【はい】にタッチする



SD カードに保存されると自動で再起動します。

設定データを本機に読み込む

- 1 「特別」の【設定データの読み込み】にタッチして、【はい】にタッチする



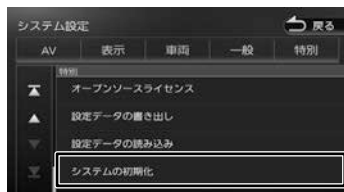
読み込みが終了すると自動で再起動します。

システムを初期化する

本機の設定をお買い上げ時の状態に戻します。次の項目は、設定を初期化しても削除されません。

- ・ 暗証番号
- ・ 内蔵メモリ / SD カードに録音した曲

- 1 「特別」の【システムの初期化】にタッチして、【はい】にタッチする



イルミネーション色を設定する

フロントパネルキーのイルミネーション色を設定します。

また、イルミネーション色を独自に作ることもできます。

- 1 「表示」の【キーイルミネーション色選択】にタッチする



- 2 色のボタンにタッチする



：
イルミネーション色が時間とともに変化します。

【ユーザーカラー 1】 / 【ユーザーカラー 2】

／ 【ユーザーカラー 3】：
独自に作成したイルミネーション色に設定します。

ユーザー独自のイルミネーション色を作る

好みのイルミネーション色を作ります。ユーザーカラーとして3つ登録できます。

- 1 登録したいユーザーカラーボタン (①) にタッチして [ユーザーカラー調整] (②) にタッチする



- 2 各色の ◀ または ▶ にタッチして、色を調整する

変更した色はすぐにキーに反映されます。



- この画面で画面の右側にある手順1でタッチしたユーザーカラーボタン以外のユーザーカラーボタンにタッチすると調整した値はタッチしたユーザーカラーボタンの色に変わってしまうのでご注意ください。

暗証番号を設定する

盗難防止対策のための暗証番号を設定します。

暗証番号を設定すると、本機の取り外し、または車のバッテリー交換を行った場合に、ここで設定した暗証番号の入力が必要になります。正しい暗証番号が入力されないと、本機は起動しません。

- 暗証番号記入欄

--	--	--	--	--	--	--	--

暗証番号を忘れた場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターへご相談ください。

- 1 「一般」の [暗証番号登録] にタッチする



- 2 設定する 4 ~ 8 桁の暗証番号を入力し、[決定] にタッチする



- 3 もう一度、同じ暗証番号を入力し、[決定] にタッチする

暗証番号を変更する

暗証番号を変更します。

- 1 「一般」の【暗証番号変更】にタッチする



- 2 現在設定されている暗証番号を入力し、【決定】にタッチする
- 3 新しく設定する4～8桁の暗証番号を入力し、【決定】にタッチする



- 4 もう一度、同じ暗証番号を入力し、【決定】にタッチする

暗証番号を解除する

暗証番号を解除します。

- 1 「一般」の【暗証番号解除】にタッチする



- 2 現在設定されている暗証番号を入力し、【決定】にタッチする



現在の暗証番号が解除されます。

外部機器の設定をする

本機に外部機器を接続するときに必要な設定を行います。

- 1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【外部機器】にタッチする
- 2 設定する項目にタッチする



設定できる項目は以下のとおりです。

- Bluetooth
Bluetoothの設定については73ページをご覧ください。
- AV

項目	設定	説明
AV-IN 接続機器	別売のAV入力/出力用ケーブルのKNA-17AVのAV-INに接続する機器を設定します。 なし： AV-INソースを使用しないとき。 オーディオ機器： オーディオ機器（音声のみ）を接続しているとき。 AV機器*： AV機器（音声と映像）を接続しているとき。 汎用フロントカメラ： 市販のカメラを接続しているとき。 専用フロントカメラ： CMOS-320（別売品）を接続しているとき。	
オートモーティブミラーリング	ON*/OFF	Apple CarPlay または Android Auto を使用するかをを設定します。 (P.20、P.22)

● カメラ

項目	設定	説明
フロントカメラ調整	—	CMOS-320 (別売品) を接続しているときはここから設定を行ってください。
切り返し時のフロントカメラ自動表示	ON*/OFF	リアビューカメラ表示中にシフトレバーを "R" 以外にしたときにフロントビューカメラ映像を表示するかしないかを設定します。
リアカメラ接続	なし*/汎用カメラ/専用カメラ (コントロール機能付)	リアビューカメラの接続を設定します。(→ P.85)
リアカメラ調整	—	専用カメラの調整を行います。汎用カメラの場合はガイド線を調整します。

● その他

項目	設定	説明
バーチャルルームミラー※	OFF/等倍*/2X	HOME 画面からドライブレコーダー (リア用) 映像に切り替えるかどうか、または切り替えたときの倍率を設定します。
サブリアカメラ※	ON/OFF*	シフトレバーを "R" (リバース) にしたときに、リアビューカメラの補助としてドライブレコーダー (リア用) 映像に切り替えるかどうかを設定します。
スマートフォン置き忘れ警告	ON*/OFF	iPhone が USB 接続されているときにまたは Android スマートフォンを Android Auto で接続しているときに、本機の電源をオフにすると「携帯電話を忘れていませんか?」と音声で案内されます。

*: お買い上げ時の設定です。

※: 別売のドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 接続時のみ表示されます。



- [バーチャルルームミラー]は、「手動録画」、「イベント記録」中は設定を変更できません。

バージョンを確認する

地図やソフトウェアなど、本機に収録されているデータのバージョンを確認します。

1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[バージョン]にタッチする



バージョン情報が表示されます。

接続状態を確認する

本機に接続している各種機器の接続状態を確認します。

- 1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[接続]にタッチする



接続情報が表示されます。



表示または設定できる項目は以下のとおりです。

項目	説明
リバース信号	リバース検出コードの接続状態を表示します。
パーキングブレーキ	パーキング検出コードの接続状態を表示します。
イルミネーション	イルミネーションコードの接続状態を表示します。
GPS	GPS アンテナの接続状態を表示します。 正しく接続されている場合は、測位状態を表示します。
専用カメラ	カメラの接続状態を表示します。 フロント： フロントカメラのみが接続 リア： リアカメラのみが接続 フロント+リア： フロントカメラ、リアカメラの両方を接続
ドライブレコーダー	フロントドライブレコーダーの接続状態を表示します。
リアドライブレコーダー	リアドライブレコーダーの接続状態を表示します。

項目	説明
車速パルス	車速パルスの値を表示します。 [デジタル]または[アナログ]にタッチすると、パルス入力モードを切り替えます。
センサー学習	センサーの学習状態を表示します。 [初期化]にタッチすると、センサーの学習を初期化します。



- センサーの学習初期化は、タイヤを交換したときなどに使用してください。

■ センサーの学習について

本機は、GPS の情報と内蔵センサーの情報を元に、センサー学習を行っています。一度学習した後も、常に変化に応じて再学習していますが、タイヤを交換した後などは、センサー学習のリセットを行ってください。センサー学習をリセットした場合、しばらく走行すると新しくセンサー学習します。

正しくセンサー学習をするには

- GPS 情報の受信が良好な場所、安定した速度で直進走行してください。
- 障害物（建物、街路樹など）が少ない場所を走行してください。



- GPS アンテナの接続状態や、GPS 情報の受信状態、学習状況は、本機の画面で確認することができます。
- ドライブレコーダー、リアドライブレコーダーを接続して初めて電源を ON にしたときは、本機が認識できるまで数分かかる場合があります。

Bluetooth 機器の登録と設定

本機は、Bluetooth 対応機器（スマートフォン、携帯電話、オーディオプレーヤーなど）を登録して、ハンズフリー通話や Bluetooth オーディオの再生ができます。



Bluetooth 接続中アイコン



- Bluetooth 機器は 10 台まで登録できます。11 台目を登録しようとするとき接続頻度の低い機器を削除して登録します。
- Bluetooth の対応プロファイルについては、113 ページをご覧ください。

本機に Bluetooth 機器を登録する

本機で Bluetooth 機器を利用できるように登録（ペアリング）します。

本機はセキュアシンプルペアリングに対応しています。

1 登録する Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオンにする

2 Bluetooth 機器で“DPV-7000”を選ぶ

Bluetooth 機器により、次のどちらかの画面が表示されます。

3 デバイス名とパスキーを確認する



- Bluetooth 機器側で PIN コードの表示または PIN コードの入力画面が表示されたときは表示されている本機の PIN コードを Bluetooth 機器に入力し

てください。初期設定は“0000”に設定されています。Bluetooth 機器によっては、PIN コードを入力するときに、この画面が表示されていないことがあります。その場合は、本機の PIN コードを確認してから Bluetooth 機器に入力してください。PIN コードは、「Bluetooth 設定」から確認できます。（→ P.73）

4 使用する機能にタッチしてチェックを付けて [はい] にタッチする



【ハンズフリー 1】 / 【ハンズフリー 2】：
ハンズフリーを登録する番号を選びます。

【オーディオ / アプリケーション連携】
オーディオ再生、本機対応のスマホアプリケーションを Bluetooth 接続で使用します。

【電話帳登録】：
電話帳登録をします。

Bluetooth 機器の登録が始まります。登録と接続が完了すると、本機の画面に Bluetooth 接続中アイコンが表示されます。



- 電話帳の登録はここでチェックをいれなくても後から登録できます。
- 電話帳は最大 1000 件分（1 件あたり最大 5 番号まで）の電話番号を本機に登録することができます。
- 電話番号情報のないデータは本機に登録できません。
- ハンズフリーは 1 台目の登録の場合は「ハンズフリー 1」にチェックが入っています。「ハンズフリー 1」に登録機器がある場合は、「ハンズフリー 2」にチェックが入っています。

オートペアリング機能で登録する

iPhone または iPod touch を本機に USB 接続すると、オートペアリングの機能がはたらき、簡単に iPhone または iPod touch を登録できます。オートペアリング機能は、Bluetooth 設定でオフにすることもできます。(→ P.73)



登録ができない場合は 72 ページの登録方法で登録してください。

- 1 iPhone または iPod touch の Bluetooth 設定をオンにする
- 2 iPhone または iPod touch を USB ケーブルで接続する
- 3 デバイス名とパスキーを確認して、使用する機能にタッチしてチェックを付けて [はい] にタッチする



[ハンズフリー 1] / [ハンズフリー 2] :
ハンズフリー登録する番号を選びます。

[オーディオ/アプリケーション連携]
オーディオ再生、本機対応のスマホアプリケーションを Bluetooth 接続で使用します。

[電話帳登録] :
電話帳登録をします。

Bluetooth 機器の登録が始まります。登録と接続が完了すると、本機の画面に Bluetooth 接続中アイコンが表示されます。



- 電話帳の登録はここでチェックをいれなくても後から登録できます。
- 電話帳は最大 1000 件 (1 件あたり最大 5 番号まで) の電話番号を本機に登録することができます。
- 電話番号情報のないデータは本機に登録できません。
- ハンズフリーは 1 台目の登録の場合は「ハンズフリー 1」にチェックが入っています。「ハンズフリー 1」に登録機器がある場合は、「ハンズフリー 2」にチェックが入っています。

Bluetooth の設定をする

- 1 [HOME] を押して [情報・設定] にタッチして [外部機器] にタッチする
- 2 [Bluetooth] にタッチする



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	設定	説明
Bluetooth	ON*/OFF	Bluetooth 接続するかしないかを設定します。
デバイス接続	—	本機で使用する機能を変更することができます。(→ P.74)
PIN コード	0000*	現在の本機の PIN コードが表示されます。また、本機の PIN コードを変更します。(→ P.75)
デバイス名	DPV-7000	現在の本機のデバイス名が表示されます。また、本機のデバイス名を変更します。(→ P.75)
デバイスアドレス	—	本機のデバイスアドレスが表示されます。
オートペアリング	ON*/OFF	オートペアリング機能を設定します。
着信の自動応答	OFF*/1 秒 / 5 秒 / 10 秒 / 15 秒 / 30 秒	着信時に、自動的に通話可能になります。
着信音量	0 ~ 15* ~ 40	着信音を調整します。
受話音量	0 ~ 15* ~ 40	受話音量を調整します。
通話中の音量調整	ON*/OFF	ハンズフリー通話中は、それぞれ音量キーで調整することができます。OFF に設定するとハンズフリー通話中の調整ができなくなります。
音質調整	—	タッチすると設定項目が表示されます。(→ P.74)

*: お買い上げ時の設定です。

■ 音質を調整する

1 [音質調整] にタッチする



2 各項目を調整する



【エコーキャンセル】（-5～0*～+5）：
エコーキャンセルの値を調整します。

【ノイズリダクション】
（-5～0*～+5）：
ノイズリダクションの値を調整します。

【マイクゲイン】（-10～0*～+10）：
マイクゲインの値を調整します。

【ミュート】：
通話中にタッチしてチェックを付けると
送話を消音します。
もう一度タッチしてチェックを外すと
消音を解除します。

*：お買い上げ時の設定です。

Bluetooth 機器の使用する機能を変更する

1 [デバイス接続] にタッチする



2 機能を変更したい Bluetooth 機器に タッチする




3 チェックボックスにタッチして使用 する機能にチェックを付ける




【ハンズフリー 1】 / 【ハンズフリー 2】：
ハンズフリー登録する番号を選びます。

【オーディオ / アプリケーション連携】
オーディオ再生、本機対応のスマホアプリケー
ションを Bluetooth 接続で使用します。

■ 機能アイコンについて

：ハンズフリー

：オーディオ / アプリケーション連携

登録した機器を削除する

本機に登録した Bluetooth 機器を削除します。

1 [デバイス接続] にタッチする



2 [削除] にタッチする



3 削除する Bluetooth 機器を選んでタッチし、[削除] にタッチする

複数選択することもできます。



[全て選択] :
リスト内のすべての機器を選択します。

[全て解除] :
リスト内のすべての機器の選択を解除します。

4 [はい] にタッチする

選択した機器が削除されます。

PIN コードを変更する

接続する Bluetooth 機器に合わせて、本機の PIN コードを変更できます。

1 Bluetooth 設定画面の [PIN コード] にタッチする

2 PIN コードを入力して [決定] にタッチする



PIN コードが変更されます。

←BS :
カーソルの前にある文字を消去します。

• 入力できる PIN コードは 4～8 桁です。

本機のデバイス名を変更する

本機に Bluetooth 機器を登録 (ペアリング) するときに選択するデバイス名を変更することができます。

1 Bluetooth 設定画面の [デバイス名] にタッチする

2 デバイス名を入力して [決定] にタッチする



デバイス名が変更されます。

• デバイス名は 20 文字まで入力できます。アルファベット (大文字、小文字)、数字、記号の文字が使用できます。

• 文字入力については 18 ページをご覧ください。

ハンズフリーを使う

本機に登録（ペアリング）した Bluetooth 対応携帯電話またはスマートフォンでハンズフリー通話を行うことができます。

電話画面を表示する

- 1 【HOME】を押して【電話メニュー】にタッチする



電話メニュー画面が表示されます。



- Apple CarPlay または Android Auto 中に「電話メニュー」にタッチすると Apple CarPlay または Android Auto の画面を表示します。

電話画面の見かたと操作



- 1 ハンズフリー 1 / 2 ハンズフリー 2
2台登録している場合は、2台とも待ち受け状態になります。電話をかける場合は1 また2にタッチして接続機器を選択してください。

- プリセット、履歴、電話帳などは選択されている機器の内容を表示しています。
- 接続した Bluetooth 機器の電波受信状態が表示されます。
- 接続した Bluetooth 機器のバッテリー残量が表示されます。
- デバイス名が表示されます。

- 3 **【接続切替】**
Bluetooth デバイス接続画面を表示します。(→ P.74)
- 4 **【プリセット】**
プリセットダイヤルに登録された番号に発信します。(→ P.77)
【履歴】
PBAP 対応機器の場合は発信、着信、不在着信履歴を表示します。(→ P.79)
【電話帳】
電話帳を表示します。(→ P.79)
【10キー】
電話番号を入力します。(→ P.81)
- 5 **【音声認識】**
スマートフォンの音声認識機能を使って電話をかけます。
- 6 **【リダイヤル】**
前回発信した電話番号に発信します。
- 7 **【編集】**
プリセットダイヤルに電話番号を登録します。(→ P.78)
- 8 **プリセットダイヤル**
プリセットダイヤルに登録された番号に発信します。(→ P.77)




- Bluetooth 機器のバッテリー残量と電波の受信状態は、実際の Bluetooth 機器の表示と一致しない場合があります。
- プリセット、履歴、電話帳などは現在接続している機器が対象です。

ハンズフリーで電話を受ける / 切る

電話を着信すると、着信画面が表示されます。

1 にタッチする



 (通話終了): 着信を拒否します。



【音質調整】:

音質を調整します。(→ P.74)

【トーン】

トーンダイヤルをするための10キーが表示されます。

:

プライベート通話(携帯電話)とハンズフリー通話を切り替えます。

【通話切替】:

接続している機器がキャッチホン機能に対応しているときに表示します。タッチすると通話先を切り替えます。

【閉じる】:

表示を消します。



【電話】にタッチすると再度表示します。



- ハンズフリー電話の着信音量と受話音量は、AVの音量とそれぞれ独立して調整できます。(→ P.12)
- ハンズフリー電話の受話音声は、フロントスピーカーからのみ出力されます。

- ハンズフリー1と2に接続している機器がある場合、1台が発信または着信状態になったときは、もう1台の機器との接続が切断されます。通話が終わると切断した機器を再度接続します。

2 通話が終わったら、 にタッチする

プリセットダイヤルを使う

プリセットダイヤルから電話をかける

プリセットダイヤルに登録された電話番号に発信します。

あらかじめプリセットダイヤルに電話番号を登録しておく必要があります。(→ P.78)

1 【HOME】を押して【電話メニュー】にタッチする

2 発信するダイヤルにタッチする



選択した電話番号に発信されます。

プリセットダイヤルに電話番号を登録する

プリセットダイヤルに電話番号を登録します。

1 【編集】 にタッチする



2 登録するプリセットにタッチする



3 登録方法にタッチし、電話番号を登録する



【電話帳から登録】：

登録する電話番号を電話帳から選んでタッチします。

【10キーで登録】：

電話番号を入力し、【登録】 にタッチします。

プリセットダイヤルの登録を削除する

プリセットダイヤルに登録されている電話番号を削除します。

1 【編集】 にタッチする



2

■ 全て削除する場合

【全て削除】 にタッチする



【はい】 にタッチする

全てのプリセットダイヤルが削除されます。

■ 選んで削除する場合

削除したいプリセットダイヤルにタッチする



【削除】 にタッチする



【はい】 にタッチする

選択したプリセットダイヤルが削除されます。

履歴から電話をかける

PBAP 対応機器の場合は不在着信、着信、発信履歴から発信することができます。PBAP に対応していない機器は使用できません。

- 1 [HOME] を押して [電話メニュー] にタッチする
- 2 [履歴] にタッチする



機器によってはアクセスを許可する操作が必要な場合があります。アクセス許可の操作を行うと履歴データの取得が始まります。

- 3 発信する履歴にタッチして、[はい] にタッチする



選択した電話番号に発信されます。

電話帳から電話をかける

電話帳から電話番号を選んで発信します。

- 1 [電話帳] にタッチする



- 2 発信する相手にタッチする



- 3 発信する電話番号にタッチして、[はい] にタッチする



選択した電話番号に発信されます。



- 電話帳の登録方法については 80 ページをご覧ください。

PBAP 対応機器の電話帳を登録する

最大 1000 件分 (1 件あたり最大 5 番号まで) の PBAP 対応機器の電話番号を本機に登録することができます。



- 電話番号情報のないデータは本機に登録できません。

1 [電話帳] にタッチする



2 [登録] にタッチする



- PBAP 対応機器の場合は電話帳の登録が始まります。機器によってはアクセスを許可する操作が必要な場合があります。アクセス許可の操作を行うと電話帳の登録が始まります。
- 電話帳登録中に [終了] にタッチすると登録を中断します。

電話帳を削除する

1 [電話帳] にタッチする



2 [削除] にタッチする



3 削除する登録名にタッチして [削除] にタッチする

複数選択することもできます。



[全て選択] :

リスト内のすべてを選択します。

[全て解除] :

リスト内のすべての選択を解除します。

4 [はい] にタッチする

選択した登録が削除されます。

ダイヤルして電話をかける

1 [10キー] にタッチする



2 電話番号を入力して、 にタッチする



3 [はい] にタッチする

入力した電話番号に発信されます。

リダイヤルで電話をかける

前回発信した電話番号に発信します。

1 [リダイヤル] にタッチする



2 [はい] にタッチする

前回の電話番号に発信されます。

音声認識機能で電話をかける

スマートフォンの音声認識機能を使って電話をかけることができます。

1 [音声認識] にタッチする



スマートフォンの音声認識機能が起動します。

2 電話番号または電話帳の名前を話す



【開始】：

音声を認識できる状態にします。

【終了】：

音声認識機能を終了します。



- 【HOME】 を押し続けても音声認識が起動します。
- スマートフォンが音声認識機能に対応していない場合は、使用できません。
- スマートフォンの機種によっては、電話をかける動作ができない場合があります。

Bluetooth オーディオ機器を再生する

本機に登録（ペアリング）した Bluetooth 対応オーディオプレーヤーを本機で再生することができます。

画面の見かたと操作

ここまでの手順 ▶

ソースを Bluetooth AUDIO に切り替える
(→ P.24)



- ① 曲名
- ② アルバム名
- ③ アーティスト名
- ④ 再生経過時間
- ⑤ 音声形式
- ⑥ ランダム再生モード
- ⑦ リピート再生モード
- ⑧ 再生残り時間
- ⑨ 再生状態アイコン
- ⑩ バッテリー残量
- ⑪ 曲番号

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[K2テクノロジー]	25 ページの「K2 テクノロジーを使う」をご覧ください。
[切替]	画面のデザインが切り替わります。
[リスト]	再生中のファイルの再生リストを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [トップ]: 一番上の階層のフォルダに移動します。 ・ [一つ上]: 一つ上の階層のフォルダに移動します。
▶	再生します。
⏸	一時停止（ポーズ）します。
⏮ / ⏭	前または次のファイルを再生します（スキップ）。 タッチし続けると、早戻し（バックサーチ）または早送り（フォワードサーチ）します。
[表示]	サブ機能ボタンを表示します。

サブ機能

[表示] にタッチするとサブ機能ボタンが表示されます。



サブ機能ボタンは一定の時間がすぎると消えます。画面の [閉じる] でも消すことができます。

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[デバイス切替]	デバイス切替画面が表示され、Bluetooth デバイスを切り替えることができます。
⌘	タッチするたびにランダム再生モードが切り替わります。
🔄	タッチするたびにリピート再生モードが切り替わります。
[閉じる]	サブ機能ボタンを消します。



- Bluetooth 対応オーディオプレーヤーの機種によっては、操作ボタンや楽曲情報を表示できない場合があります。また、再生方法（スキップ操作やランダム再生モード切替など）を操作できない場合があります。
- バッテリー残量は、実際の Bluetooth 対応機器の表示と一致しない場合があります。
- バッテリー残量は、Bluetooth 対応機器をハンズフリー接続したときに表示されます。
- 他の Bluetooth 機器と通信中は音が途切れる場合があります。
- 音飛びが発生する際には、ご利用の機器の再生品質の設定を変更すると改善される場合があります。
- 再生する音楽アプリを変えたい場合は、使用中の Bluetooth オーディオ機器にて音楽アプリを切り替えてください。

スマートフォン連携について

本機はスマートフォンと連携することで、機能を拡張することができます。

KENWOOD Music Info.

音楽 CD を再生または録音したときに、「KENWOOD Music Info.」を使ってインターネット上にある音楽データサーバーの楽曲情報データベースにアクセスし、楽曲情報を取得できます。「KENWOOD Music Info.」の詳細は http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/ で型名を選んで「取扱説明書」をご覧ください。

SMART USEN

音楽放送のプロが選曲した 1,000 を超えるチャンネルが、いつでも手軽に楽しめる音楽聴き放題スマートフォンアプリケーションです。本機に接続すると本機からチャンネル選択などの操作をすることができます。(→ P.56)

フロント/リアビューカメラを使う

カメラを設定する

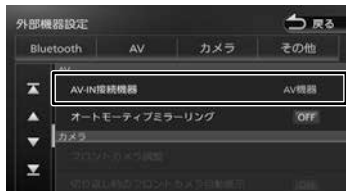
本機は、フロントビューカメラまたはリアビューカメラを接続することができます。フロントビューカメラには CMOS-320(別売品)、リアビューカメラには CMOS-230(別売品)、CMOS-230W(別売品)、CMOS-C320(別売品)、CMOS-C230(別売品)、CMOS-C230W(別売品)が接続できます。



- ・フロントまたはリアビューカメラは、それぞれ1台ずつ本機に接続できます。
- ・フロントカメラを接続すると、本機のAV-INは使用できません。

フロントビューカメラ接続設定

- 1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[外部機器]にタッチする
- 2 [AV]の[AV-IN接続機器]にタッチする



- 3 [汎用フロントカメラ]または[専用フロントカメラ]にタッチする



[汎用フロントカメラ]:

市販のフロントカメラを接続しているときに選択します。

[専用フロントカメラ]:

CMOS-320(別売品)を接続しているときに選択します。

リアビューカメラ接続設定

- 1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[外部機器]にタッチする
- 2 「カメラ」の[リアカメラ接続]にタッチする



- 3 [汎用カメラ]または[専用カメラ(コントロール機能付)]にタッチする



[汎用カメラ]:

CMOS-230(別売品)、CMOS-230W(別売品)、CMOS-C230(別売品)、CMOS-C230W(別売品)または市販のカメラを接続しているときに選択します。

[専用カメラ(コントロール機能付)]:

CMOS-C320(別売品)を接続しているときに選択します。

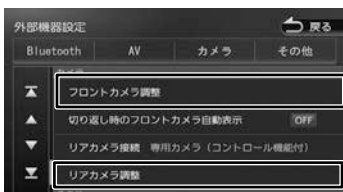
CMOS-320/CMOS-C320 のカメラ設定をする

CMOS-320/CMOS-C320（別売品）を接続したときは、本機の画面上で CMOS-320/CMOS-C320（別売品）のカメラ設定ができます。



- CMOS-320/CMOS-C320（別売品）のカメラ設定を行うには、本機に CMOS-320/CMOS-C320（別売品）を接続し、カメラの接続設定を「専用カメラ」に設定する必要があります。（→ P.85）

1 「カメラ」の【フロントカメラ調整】（CMOS-320）または【リアカメラ調整】（CMOS-C320）にタッチする



CMOS-320/CMOS-C320（別売品）の設定画面が表示されます。

設定方法については、CMOS-320/CMOS-C320（別売品）の取扱説明書をご覧ください。

フロントビューカメラの映像を表示する

本機に接続したフロントビューカメラの映像を表示します。



- 【フロントカメラ】は車両の速度が約 15km/h 以下になると、押せるようになります。フロントビューカメラの映像は、車両の速度が約 20km/h 以上になると自動で解除されます。速度については実際の速度表示と異なります。あくまで目安です。
- リアビューカメラ接続時は、リアビューカメラ表示後、シフトレバーを「R」以外にすると、フロントビューカメラが表示可能な状態であれば、自動的にフロントビューカメラの映像を表示します。自動で表示しないようにすることもできます。（→ P.70）

1 【HOME】を押して【カメラ】にタッチする



フロントビューカメラの映像が表示されます。

フロントビューカメラ操作ボタンを使う

フロントビューカメラ映像にタッチすると、操作ボタンが表示されます。



【ビュー】：

フロントビューカメラの視点を切り替えます。（CMOS-320 接続時のみ）

【ガイド線】：

フロントビューカメラ映像にガイド線を表示します。もう一度タッチするとガイド線が消えます。（CMOS-320 接続時のみ）

【上位置】 / 【下位置】：

警告文の位置表示を変更します。

【戻る】：

フロントビューカメラの映像を表示する前の画面に戻ります。

【非表示】：

フロントビューカメラ操作ボタンを消します。

【映像調整】：

フロントビューカメラ映像の画質を調整します。（→ P.25）

リアビューカメラの映像を表示する

本機に接続したリアビューカメラの映像を表示します。
カメラの映像で後方確認をしてから車を後退させることができます。

モニター画面だけを見ながら車を後退させることは、絶対にしないでください。必ず直接目で車の周囲の安全を確認して、ゆっくりとした速度（徐行）でご使用ください。

- リアビューカメラシステムは、障害物などの確認のための補助手段として使用してください。雨滴などがカメラ部に付着すると、映りが悪くなるおそれがあります。
- 画質を調整するときは、必ず安全なところに停車してから操作してください。

1 シフトレバーを“R”（リバース）にする



リアビューカメラの映像が表示されます。



- シフトレバーを“R”（リバース）にしてもリアビューカメラの映像が表示されないときは、リバース検出コードの接続を確認してください。

リアビューカメラ操作ボタンを使う

リアビューカメラ映像にタッチすると、リアビューカメラ操作ボタンが表示されます。



【ビュー】：

リアビューカメラの視点を切り替えます。
(CMOS-C320 接続時のみ)

【ガイド線】：

リアビューカメラ映像にガイド線を表示します。もう一度タッチすると、ガイド線が消えます。

【上位置】 / 【下位置】：

警告文の位置表示を変更します。

【非表示】：

リアビューカメラ操作ボタンを消します。

【映像調整】：

リアビューカメラ映像の画質を調整します。
(→ P.25)

【リアレコ】

ドライブレコーダー（リア用）DRV-R530（別売品）を接続し、外部機器設定の【その他】—【サブリアカメラ】を「ON」に設定しているとタッチできるようになります。(→ P.70)
タッチするとサブリアカメラの映像に切り替わります。(→ P.94)



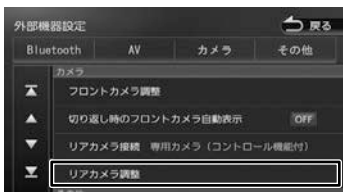
- 警告文を下に表示すると、車両の後端が映らなくなり、危険な場合があります。そのような場合は、表示位置を上に変更してください。
- 警告文は位置を切り替えることはできませんが、消すことはできません。

リアビューカメラのガイド線を調整する

リアビューカメラ映像に表示されるガイド線の位置を調整します。ガイド線の調整方法は、接続しているカメラによって異なります。

CMOS-C320 (別売品) を接続している場合

- 1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[外部機器]にタッチする
- 2 「カメラ」の[リアカメラ調整]にタッチする



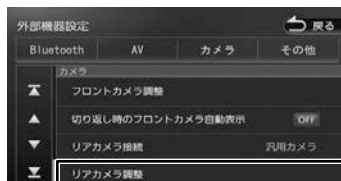
CMOS-C320 (別売品) の設定画面が表示されます。

設定方法については、CMOS-C320 (別売品) の取扱説明書をご覧ください。

汎用カメラを接続している場合

汎用カメラとは、別売品の CMOS-230、CMOS-230W、CMOS-C230、CMOS-C230W または市販品のリアカメラです。

- 1 [HOME]を押して[情報・設定]にタッチして[外部機器]にタッチする
- 2 「カメラ」の[リアカメラ調整]にタッチする



- 3 調整するカーソル (+) にタッチする



市販品を接続している場合にカメラの映像が表示されないときは、パーキングブレーキを引いて、シフトレバーを“R” (リバース) に入れてください。

- 4 ◀ / ▶ / ▼ / ▲ にタッチして、ガイド線の位置を調整します。



【初期状態】：

ガイド線の位置を初期状態に戻します。

ステアリングリモコンを使う

ステアリングリモコンについて

本機にお使いの車のステアリングリモコンを接続し、設定を行うと、ステアリングリモコンから本機を操作することができます。ステアリングリモコン設定には、次の設定があります。

■ 車両設定

お使いの車に合わせたステアリングリモコンのキー割り当てが自動的に設定されます。(→ P.89) 車両を設定した後に機能の割り当てを変えることもできます。(→ P.91)

■ ユーザー学習

独自にステアリングリモコンのキーを割り当てたい場合に、この設定を行います。(→ P.89) 独自に割り当てた機能が、後から変更することもできます。(→ P.91)



- 本機とステアリングリモコンの接続ケーブルは、ETC/ステアリングリモコン対応ケーブル KNA-300EX (別売品) です。
- 車両の対応については、下記ホームページをご覧ください。
http://www.kenwood.com/jp/products/car_audio/option/etccable/
- 音量を上げるキーを押し続けると連続して音量値が15まで上がります。

ステアリングリモコンの設定をする

お使いの車のステアリングリモコンを本機で操作できるように設定します。

車両を選んで設定する

お使いの車に合わせたステアリングリモコンのキー割り当てを設定します。

- 1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【システム】にタッチする
- 2 「車両」の【ステアリングリモコン】にタッチする



3 お使いの車のメーカーにタッチする



【ユーザー学習】：

独自に機能を割り当てる場合に選択します。(→ P.89)

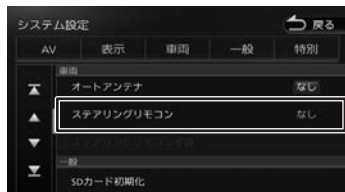
独自に機能を割り当てる

ステアリングリモコンのキーに機能割り当て(ステアリングリモコン学習)を行います。

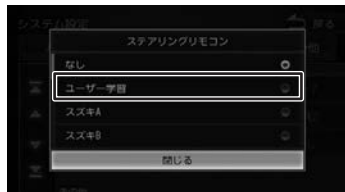


- ステアリングリモコンキーの割り当てが完了した後で、キーを追加することはできません。追加したい場合は学習の初期化を行い、再度キーの割り当てを行ってください。

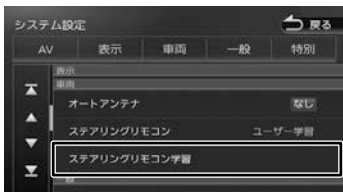
- 1 【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【システム】にタッチする
- 2 「車両」の【ステアリングリモコン】にタッチする



3 【ユーザー学習】にタッチする

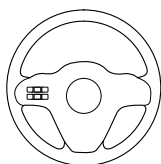
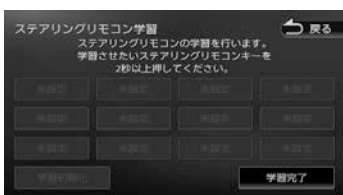


4 「車両」の[ステアリングリモコン学習]にタッチする



ステアリングリモコン学習画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。
ステアリングリモコンは押さないでください。

5 機能を割り当てるステアリングリモコンのキーを2秒以上押す



6 割り当てる機能にタッチする





割り当てた機能が表示されます。
さらに機能を割り当てる場合は、手順5と6を繰り返します。

7 [学習完了]にタッチする



■ キーに割り当てられる機能

キー	機能
未設定	設定しません。
HOME	ホーム画面を表示します。 押し続けるとスマートフォンの音声機能を起動します。(Bluetooth 接続中)
AV	AV 画面を表示します。押し続けると、AV ソースをオフ (STANDBY) にします。
MODE	押すごとに AV ソースが切り替わります。押し続けると、AV をオフ (STANDBY) にします。AV オフ中に押し続けると前のソースに戻ります。
	AV ソースの音量を一定量下げます。もう一度押すと元の音量に戻ります。
	<ul style="list-style-type: none"> AV の音量を調整 (0 ~ 40) します。 ハンズフリー通話時の受話音量 (0 ~ 40) を調整します。
	<ul style="list-style-type: none"> FM/AM/ 地デジ： 放送局を切り替えます。 FM/AM 受信中に押し続けると、受信状態の良い放送局を探して自動で受信します。 音楽 / ビデオ再生： 前 / 次の曲、ビデオまたはファイルを再生します。 押し続けると、早送り / 早戻しします。 SMART USEN お気に入り登録済みのチャンネルに切り替えます。
	ハンズフリーの電話を受けます。(Bluetooth 接続中)
	ハンズフリーの電話を切ります。(Bluetooth 接続中) 着信時に押すと着信拒否します。
	ハンズフリーの電話を受けます。 着信時に押し続けると着信を拒否します。通話中に押し続けるとハンズフリーの電話を切ります。(Bluetooth 接続中)

キー	機能
	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの音声機能を起動します。(Bluetooth 接続中) 押し続けると音声機能を終了します。 押し続けると Apple CarPlay の Siri、Android Auto の音声認識を起動します。押すと Apple CarPlay の Siri、Android Auto の音声認識を終了します。
	<p>ミュートします。もう一度押すとミュートを解除します。 ハンズフリーの着信中は通話を開始します。</p>

4 割り当てる機能にタッチする



【未設定】：
キーに割り当てられた機能を消去します。

5 【変更完了】にタッチする

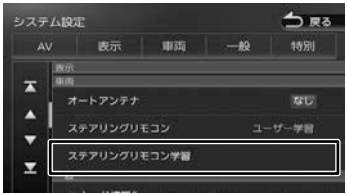


.....
 ・ [ステアリングリモコン] でお使いの車のメーカーを設定している場合は、機能を割り当てるボタンの追加はできません。(→ P.89)

ステアリングリモコンキーの割り当てを変更 / 初期化する

ステアリングリモコンキーの変更や消去、初期化ができます。初期化は手順3で[学習初期化]にタッチしてください。

- 1 **【HOME】を押して【情報・設定】にタッチして【システム】にタッチする**
- 2 **「車両」の【ステアリングリモコン学習】にタッチする**



- 3 **割り当てを変更するボタンにタッチする**



【学習初期化】：
ステアリングリモコンに割り当てたキー設定をすべて消去します。

ドライブレコーダーを使う

本機にドライブレコーダー（フロント用）DRV-N530（別売品）、ドライブレコーダー（リア用）DRV-R530（別売品）を接続すると自動録画や静止画記録のほか、録画したファイルの再生、設定などを本機から操作することができます。録画の画質の種類や録画時間 / 録画ファイル数など詳細は接続しているドライブレコーダー（別売品）の取扱説明書をご覧ください。



- ドライブレコーダーを接続して初めて電源を ON にしたときは、本機が認識して使用できるまでに数分かかる場合があります。ドライブレコーダーが正しく接続されているかは、「接続情報」画面（→ P.71）で確認してください。
- 本機の電源をオンにしたときや設定メニューを表示したあと、ドライブレコーダー（リア用）の録画開始はドライブレコーダー（フロント用）より約 1 秒遅れて開始されます。

ドライブレコーダー（リア用）の接続設定

ドライブレコーダー（リア用）DRV-R530（別売品）を接続したときは設定が必要です。ドライブレコーダー（フロント用）の接続設定はありません。

- 1 【HOME】 を押す
- 2 【ドライブレコーダー】 にタッチする



- 3 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

- 4 【設定】 にタッチする



- 5 「リアレコ」の「リアドライブレコーダー接続」にタッチして【ON】に設定する



ドライブレコーダーの映像を表示する

本機に接続したドライブレコーダーの映像を表示します。

- 1 【HOME】 を押して【ドライブレコーダー】にタッチする



ドライブレコーダーの映像が表示されます。

ドライブレコーダーの操作ボタンを使う

- 1 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

画面の見かたと操作



- ① 録画モードと録画残時間
(イベント記録 / 手動録画のみ表示)
- ② HDRが「ON」のときに表示 / 録画画像
- ③ 音声録音あり[音声] / なし[無音]
- ④ 自動静止画撮影 ON [カメラ] / OFF [カメラ]
- ⑤ 保存ファイル数 (撮影可能ファイル数)

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[リア切替] / [フロント切替]	ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 (別売品) の映像とドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 (別売品) の映像に切り替えます。 ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 (別売品) 接続時のみ表示されます。
[設定]	ドライブレコーダー設定を表示します。(→ P.98)
[リスト]	録画ファイルリストを表示します。(→ P.95)
[録画]	手動録画を開始します。 手動録画中にタッチすると、手動録画時間を延長します。
[静止画]	静止画を撮影します。 押し続けると自動静止画連続撮影機能がオンになります。もう一度押し続けるとオフになります。
[映像調整]	本機に表示される画像を調整します。ドライブレコーダーに録画される映像には影響しません。(→ P.25)
[非表示]	操作ボタンを消します。

ドライブレコーダー (リア用) の映像表示について

ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 (別売品) を接続しているときは、次のように表示することもできます。

バーチャルルームミラーとして表示する

HOME 画面からドライブレコーダー (リア用) の映像を表示する (バーチャルルームミラー) ことができます。

表示するには、事前に設定が必要です。

外部機器設定の [その他] - [バーチャルルームミラー] 設定 (→ P.70) を「等倍」または「2X」に設定してください。

1 【HOME】を押して [V. ルームミラー] にタッチする



バーチャルルームミラーの映像が表示されます。

2 画面にタッチして操作ボタンを表示する



[戻る] :

HOME 画面に戻ります。

[非表示] :

操作ボタンを消します。画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。

[映像調整] :

バーチャルルームミラー映像の画質を調整します。(→ P.25)



- ・「バーチャルルームミラー」を「2X」に設定しているときは以下のようになります。
 - バーチャルルームミラーの表示に切り替えたときに、ドライブレコーダー (リア用) の常時録画は一旦停止し、すぐに再開します。ドライブレコーダー (フロント用) の常時録画は停止しませんが、切り替えたときに録画ファイルを分割します。

- ドライブレコーダー（リア用）の録画映像は 2 倍に拡大して録画されます。
- ドライブレコーダーが手動録画またはイベント記録中は、パーチャルルームミラーを表示できません。
- パーチャルルームミラーを表示中にイベント記録または手動録画をした場合は [戻る] が表示されません。イベント記録または手動録画が終了すると表示されます。

サブリアカメラ映像を表示する

リアビューカメラの補助としてドライブレコーダー（リア用）の映像を表示する（サブリアカメラ）ことができます。

本機を起動中はこの機能は動作しません。表示するには事前に設定が必要です。

外部機器設定の [その他] - [サブリアカメラ] を「ON」に設定（→ P.70）してください。

1 シフトレバーを「R」（リバース）にする

別売のリアビューカメラを接続しているときはリアビューカメラの映像を表示します。

リアビューカメラを接続していないときは、ドライブレコーダー（リア用）の映像を表示します。手順 2 と 3 の操作は不要です。手順 4 に進んでください。

2 画面にタッチして操作ボタンを表示する

3 [リアレコ] にタッチする



サブリアカメラの映像に切り替わります。



- サブリアカメラの映像にガイド線機能はありません。

4 画面にタッチして操作ボタンを表示する



[上位置] / [下位置] :

警告文の表示位置を変更します。

[非表示] :

操作ボタンを消します。画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。

[映像調整] :

サブリアカメラの画像を調整します。録画される映像には影響しません。（→ P.25）

[リアカメラ]

リアビューカメラの映像を表示します。

[ズーム] :

映像中央が 2 倍に拡大した映像が表示されます。



- ズーム表示に切り替えると以下のようになります。
 - ドライブレコーダー（リア用）の常時録画は一旦停止し、すぐに再開します。ドライブレコーダー（フロント用）の常時録画は停止しませんが、切り替えたときに録画ファイルを分割します。
 - ドライブレコーダー（リア用）の録画映像は 2 倍に拡大して録画されます。
 - ドライブレコーダーが手動録画、イベント記録中は、ズーム表示できません。
 - 録画ファイルの再生中にサブリアカメラ映像を表示させた場合は、再生を停止します。
 - イベント記録または手動録画をした場合は、[戻る] が表示されません。イベント記録または手動録画が終了すると表示されます。

録画ファイルを再生する

1 【HOME】を押して【ドライブレコーダー】にタッチする



ドライブレコーダーの映像が表示されます。

2 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

3 【リスト】にタッチする



4 再生したい録画フォルダを選択する



【削除】

フォルダ内のファイルを削除します。同期フォルダは削除できないため、[削除] ボタンは表示されません。

- ドライブレコーダー（リア用）DRV-R530（別売品）を接続しているときは、手順4の画面で次のボタンが表示されます。

【同期切替】

ドライブレコーダー（リア用）とドライブレコーダー（フロント用）で同期している録画ファイルをリストにして表示します。

【リア切替】

ドライブレコーダー（リア用）で録画したファイルをリストにして表示します。

【フロント切替】

ドライブレコーダー（フロント用）で録画したファイルをリストにして表示します。

5 再生したいファイルを選択する




録画ファイルの再生が始まります。同期再生中はフロントとリアの映像を切り替えることができます。












- 操作ボタンは一定時間が過ぎると消えます。画面にタッチすると操作ボタンが表示されます。
- フォルダやファイルの選択、または再生中は、録画が停止します。また、ドライブレコーダーの [REC] ボタンによる手動録画もできません。
- 本機の【HOME】ボタンまたは【AV】ボタンを押すと、常時録画に戻ります。
- 走行中は、映像が表示されません。
- 走行中は、リア/フロント切替、音量調整以外の操作はできません。
- ドライブレコーダー（フロント用）とドライブレコーダー（リア用）の同期録画開始は多少ずれる場合があります。

再生画面の見かたと操作



- ① 再生状態表示
- ② 再生時間
- ③ HDRが「ON」のときに表示 / 録画画質
- ④ 録画モード
- ⑤ 保護されたファイルのときに「」を表示
- ⑥ ファイル名

● 表示されるボタンとはたらき

ボタン	説明
[フロント切替]/ [リア切替]	フロント映像とリア映像を切り替えます。同期再生中は、同じ時刻に録画されたフロントまたはリアの映像に切り替わります。同期再生中以外は、同じ時刻に録画されたファイルを最初から再生します。
 / 	再生音量を調整します。
 / 	再生または一時停止します。
 / 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生中にタッチすると速度が2段階に切り替わり早送り / 早戻しします。 ・一時停止中にタッチするとコマ送り / コマ戻しします。 ・一時停止中にタッチし続けるとスロー再生になります。
 / 	再生中のファイルの先頭に戻ります。もう一度押すと前のファイルを再生します。 / 次のファイルを再生します。同期ファイル再生中は先頭に戻る以外は動作しません。
[削除]	再生しているファイルを削除します。
[保護] / [保護解除]	再生しているファイルを削除できないように保護したり、保護を解除します。保護したファイルを再生したときは、ファイル名の先頭に「  」マークが表示されます。(→ P.96)
[ズーム]	再生している映像を拡大表示します。
[映像調整]	映像の画質を調整します。(→ P.25)
[非表示]	操作ボタンを消します。

ファイルを保護する

録画ファイルまたは静止画ファイルを保護、または解除することができます。



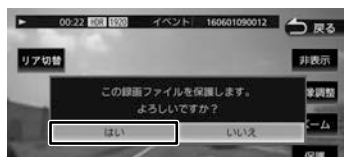
- ・ 常時録画ファイルは保護できません。
- ・ 同期再生中は [保護] / [保護解除] できません。ボタンも表示されません。

1 保護したいファイルを再生して画面にタッチする

2 [保護] にタッチする



3 [はい] にタッチする



ファイル名の先頭に「」マークが表示されます。

■ ファイル保護を解除する

1 保護されたファイルを再生して画面にタッチする

2 [保護解除] にタッチする



3 [はい] にタッチする

ファイル名の先頭の「」マークが消えます。

ファイルを削除する

録画ファイルまたは静止画ファイルを削除することができます。



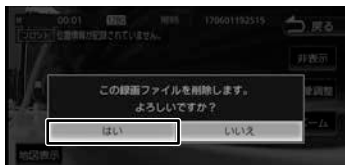
- 同期ファイル再生中は [削除] できません。ボタンも表示されません。
- 保護されたファイルを削除するときは、先に保護を解除してから削除を行ってください。
- 走行中は、削除操作ができません。

■ ファイルを削除する

- 1 削除したいファイルを再生して画面にタッチする
- 2 [削除] にタッチする



- 3 [はい] にタッチする



再生中のファイルが削除されます。

■ フォルダごと削除する

- 1 [HOME] を押して [ドライブレコーダー] にタッチする
- 2 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

- 3 [リスト] にタッチする



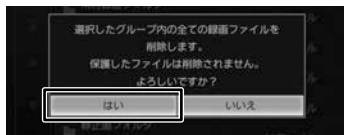
- 4 [削除] にタッチする



- 5 削除したいフォルダを選択する



- 6 [はい] にタッチする



選択したフォルダ内のファイル全てを削除します。

ドライブレコーダーの設定をする

ドライブレコーダーの設定を行います。

- 1 【HOME】 ボタンを押す
- 2 【ドライブレコーダー】 にタッチする



- 3 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

- 4 【設定】 にタッチする



- 5 各項目を設定する



- 設定中は、常時録画が停止します。また、イベント記録、手動録画、静止画記録もできません。ドライブレコーダーの【REC】ボタンによる手動録画もできません。
- 本機の【HOME】ボタンまたは【AV】ボタンを押すと、常時録画に戻ります。
- 走行中は、設定操作ができません。

● 録画

項目	設定	説明
録画画質	1280×720/ 1280×720(HDR)/ 1920×1080/ 1920×1080(HDR)*/ 2304×1296	録画する解像度を設定します。(HDR)に設定すると、明暗差の大きなシーンの撮影も白とびや黒つぶれを抑えて被写体を録画します。2304×1296にはHDR設定はありません。録画モード別に画質の設定はできません。
記録方式	映像+音声*/ 映像のみ	録画時にマイクの音声を記録するかしないかを設定します。
操作音の音量	0/1/2*/3	ドライブレコーダーから出力する音声ガイダンスや報知音などの音量を設定します。0(消音)/1(小)/2(標準)/3(大)
イベント記録の動作感度	レベル 1/2/3*/4/5	イベント記録を開始する、車両の衝撃検出感度を設定します。1(大きな衝撃で検知します)~3(標準)~5(小さな衝撃で検知します)
常時録画の1ファイル毎の録画時間	1分間/2分間/3分間*	常時録画(連続録画)の録画時間を設定します。録画時間毎にファイルを区切って録画します。
手動録画の録画時間	15秒間*/30秒間/ 1分間	手動録画を開始してからの録画時間を設定します。RECボタンを押す12秒前から録画されます。
イベント記録の録画時間	15秒間*/30秒間/ 1分間	車両の衝撃検知後の録画時間を設定します。衝撃検知した12秒前から録画されます。
手動録画ファイルの上書き保存	ON/OFF*	録画ファイル数がいっぱいになったときに古いファイルに上書きをするかしないかを設定します。
イベント記録ファイルの上書き保存	ON/OFF*	録画ファイル数がいっぱいになったときに古いファイルに上書きをするかしないかを設定します。
自動静止画連続撮影の撮影枚数	10ファイル/ 30ファイル*/ 50ファイル	自動静止画連続撮影機能で撮影する枚数を設定します。
自動静止画連続撮影の撮影間隔	1分/5分*/15分/ 30分	自動静止画連続撮影機能で撮影する間隔を設定します。

● 駐車録画

項目	設定	説明
駐車録画	ON*/OFF	駐車時(車両のエンジンキーOFF時)に、車両の衝撃を検知して、録画を開始するかしないかを設定します。
駐車録画の動作感度(ドライブレコーダー)	レベル 1/2/3*/4/5	駐車中の車両の衝撃を検知する感度を設定します。1(大きな衝撃で検知します)~3(標準)~5(小さな衝撃で検知します)
駐車録画開始時間設定(降車時)	OFF/30秒間*/ 1分間/3分間	エンジンをオフにしてから駐車録画を一定時間無効にする時間を設定します。
駐車録画停止時間設定(乗車時)	OFF/30秒間*/ 1分間/3分間	エンジンをオンにする前の駐車録画を一定時間無効にする時間を設定します。
駐車録画の録画時間	10秒間*/20秒間/ 30秒間	衝撃検知後の駐車録画の録画時間を設定します。
駐車録画ファイルの上書き保存	ON*/OFF	録画ファイル数がいっぱいになったときに古いファイルに上書きをするかしないかを設定します。
駐車録画発生のお知らせ	ON*/OFF	駐車時(車両のエンジンキーOFF時)に、駐車録画が発生すると、電源をオンにしたときに音声と画面に表示してお知らせします。「OFF」に設定するとお知らせしません。

はじめに
基本操作
オーディオ・ビデオ
情報・設定
Bluetooth
スマートフォン連携
オプション

付録

● 運転支援

項目	設定	説明
前方衝突警告	ON/OFF*	自車と前方車両との距離を検出して、安全な距離が保たれていない場合に、前方車両との接触事故を防ぐため報知音と画面下部に表示して通知します。約 30km/h 以上で動作します。
車線逸脱警告	ON/OFF*	走行している車線を検出して、現在の車線からはみだしを報知音と画面下部に表示して通知します。約 60km/h 以上で動作します。
発進遅れ警告	ON/OFF*	自車が前方車両の後ろに停止した後、前方車両が発進したときに、自車の発進の遅れを報知音と画面下部に表示で通知します。自車が後退しているときなどにも通知する場合があります。
運転支援機能の 検出範囲設定		運転支援機能を使用する場合は、車両に合わせてドライブレコーダーから見える地平線やボンネットの先端位置を設定します。(→ P.101)
取付高さ設定	1.2m*/1.35m /2m	運転支援機能を使用する場合は、ドライブレコーダーを取り付けた路面からの高さを設定します。(→ P.101)

● リアレコ (ドライブレコーダーリア用)

項目	設定	説明
リアドライブ レコーダー接続	ON/OFF*	ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 (別売品) を接続時は「ON」に設定します。「ON」に設定すると、リアドライブレコーダーの項目が設定できるようになります。
駐車録画の動作感度 (リアドライブレコー ダー)	レベル 1/2/3*/4/5	ドライブレコーダー (リア用) 駐車中の車両の衝撃を検知する感度を設定します。 1 (大きな衝撃で検知します) ~ 3 (標準) ~ 5 (小さな衝撃で検知します)
LED 設定	ON*/OFF/AUTO	ドライブレコーダー (リア用) のインジケータを点灯する (ON) かしない (OFF) または、車両のライトスイッチと連動 (AUTO) にするかを設定します。
SD カード寿命表示 (リアドライブレコー ダー)		ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 に付属の SD カードまたは別売のケンウッド製 SD カードを使用していると SD カードの寿命 (目安) を表示します。
バージョン情報 (リアドライブレコー ダー)		ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 のファームウェアのバージョンを表示します。
ファームウェア更新 (リアドライブレコー ダー)		ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 のファームウェアを更新します。 (→ P.103)
SD カード初期化 (リアドライブレコー ダー)		ドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 の全てのファイルを消去し、SD カードをフォーマットします。(→ P.102)
チャイルドロック	ON/OFF*	「ON」に設定するとドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 の「POWER」ボタン以外のボタンが効かなくなります。

● システム

項目	設定	説明
SD カード寿命表示 (ドライブレコーダー)		ドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 に付属の SD カードまたは別売のケンウッド製 SD カードを使用していると SD カードの寿命 (目安) を表示します。
バージョン情報 (ドラ イブレコーダー)		ドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 のファームウェアのバージョンを表示します。
ファームウェア更新 (ドライブレコーダー)		ドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 のファームウェアを更新します。 (→ P.103)
SD カード初期化 (ドライブレコーダー)		ドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 の全てのファイルを消去し、SD カードをフォーマットします。(→ P.102)
設定の初期化		ドライブレコーダー (フロント用) DRV-N530 とドライブレコーダー (リア用) DRV-R530 の設定を初期化します。

* : お買い上げ時の設定です。

運転支援機能の設定をする

運転支援機能を使用する場合は、ドライブレコーダー（フロント用）を取付車両に合わせて、路面からの取付高さ、地平線の位置、ボンネットの先端の位置を設定する必要があります。運転支援機能についての詳細は、接続しているドライブレコーダー（フロント用）DRV-N530（別売品）の取扱説明書をご覧ください。

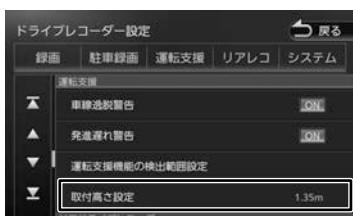
- 1 見通しの良い、平らな安全な場所に車を停車させる
- 2 [HOME] ボタンを押す
- 3 [ドライブレコーダー] にタッチする



- 4 画面にタッチする
操作ボタンが表示されます。
- 5 [設定] にタッチする



- 6 「運転支援」の「取付高さ設定」にタッチする



- 7 路面から最も近いドライブレコーダーの高さを選択する



- 8 [運転支援機能の検出範囲設定] にタッチする



- 9 ドライブレコーダーの取り付け角度を調整して固定する

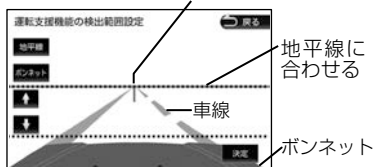
取り付け角度の調整

上下方向は、カメラの視野が水平な地面と平行であり、また空と地上との比率を同じにします。

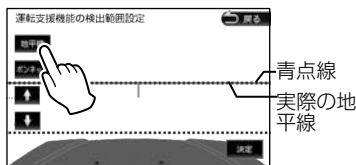
左右方向は、中央の縦線（赤線）を走行車線の中心に合わせます。

調整イメージ図

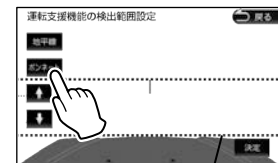
走行車線の中心に合わせる（赤線）



- 10 [地平線] にタッチして、青点線を [↑]/[↓] で実際の地平線に合わせて微調整する



- 11 [ボンネット] にタッチして、白点線を [↑]/[↓] でボンネットの先端に合わせて [決定] にタッチする



ボンネットの先端が映像に表示されない場合は、白点線を画面の一番下まで下げてください。

SD カードをフォーマットする

SD カードのフォーマットを定期的に行ってください。

また、SD カードに関するエラーが発生する場合もフォーマットを行ってください。



- ドライブレコーダー以外ではSDカードのフォーマットを行わないでください。
- SDカードをフォーマットすると、保護されているファイルを含めすべてのデータが消去されます。必要なデータがある場合は、必ずパソコンなどにバックアップをしてからフォーマットしてください。

1 【HOME】を押して【ドライブレコーダー】にタッチする



2 画面にタッチする



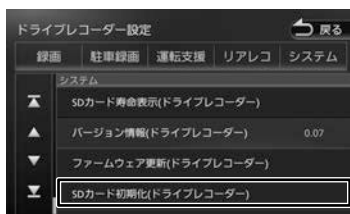
操作ボタンが表示されます。

3 【設定】にタッチする

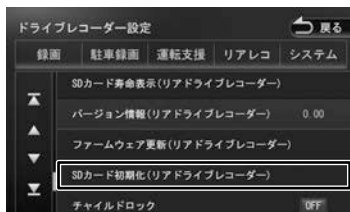


4

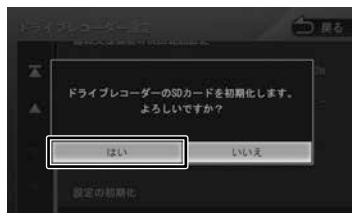
■ ドライブレコーダー (フロント用) 「システム」の【SDカード初期化 (ドライブレコーダー)】にタッチする



■ ドライブレコーダー (リア用) 「リアレコ」の【SDカード初期化 (リアドライブレコーダー)】にタッチする



5 【はい】にタッチする



SD カードを初期化します。

システムを更新する

ドライブレコーダーのシステムファームウェアを更新します。

アップデートに関する情報は、当社ホームページ <http://www.kenwood.com/jp/cs/car/audio/> にアクセスして型名を選んでください。



- ドライブレコーダーのバージョンが最新のアップデートファイルと同じバージョンの場合、SD カードを挿入してもアップデートは行われません。

- 1 SD カードをドライブレコーダーから取り出し、カードリーダーに挿入してパソコンに接続する
- 2 当社ホームページ <http://www.kenwood.com/jp/cs/car/audio/> にアクセスして型名を選んで、アップデートファイルを SD カードにコピーする
- 3 SD カードをパソコンから取り出し、ドライブレコーダーに挿入する
- 4 [HOME] を押して [ドライブレコーダー] にタッチする



- 5 画面にタッチする



操作ボタンが表示されます。

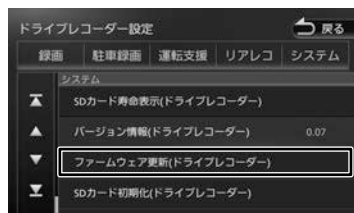
- 6 [設定] にタッチする



- 7

■ ドライブレコーダー (フロント用)

[システム] の [ファームウェア更新 (ドライブレコーダー)] にタッチする



■ ドライブレコーダー (リア用)

[リアレコ] の [ファームウェア更新 (リアドライブレコーダー)] にタッチする



- 8 [はい] にタッチする



ファームウェアをアップデートします。

リアモニターを使う

本機にリアモニター（市販品）を接続すると、本機の映像をリアモニターに表示することができます。



- リアモニターは走行中에서도表示されません。リアモニターは運転者から見えないうちに設置してください。

リアモニターに表示できる映像について

ソース

DISC : DVD-Video/DVD-VR

USB : ビデオファイル

SD : ビデオファイル

AV-IN の映像

地デジ



- 本機で再生できるビデオファイルについては 110 ページをご覧ください。

ソフトウェア使用許諾契約書

【本製品をご使用前に必ずお読みください】

この AV システム製品本体（以下、「本システム」）および同梱品（併せて、以下、「本製品」）には、株式会社 JVC ケンウッド（以下、「ライセンサー」）のソフトウェア、および/または複数のソフトウェアライセンサー（以下、「ソフトウェア供給者」）から当社に対して許諾されたソフトウェア（併せて、以下、「許諾ソフトウェア」）が含まれています。許諾ソフトウェアは、ソフトウェアに関連する書類、マニュアルその他の印刷物を含みます。書類および印刷物は、オンラインまたは電子媒体で供給するものを含みます。

お客様（以下、「使用者」）は本件使用許諾契約書の内容にご同意のうえ、本製品をご使用いただくものと致します。

使用者が本製品をご使用された時点で本契約が成立したものと見なされます。

なお、許諾ソフトウェアにはライセンサーが第三者より直接的にまたは間接的に使用の許諾を受けたソフトウェアが含まれている場合があります。その場合には一部の第三者は本ソフトウェア使用許諾契約書とは別にお客様に対して使用条件を定めております。かかるソフトウェアについては本契約書は適用されませんので別途提示させていただきます「ソフトウェアに関する重要なお知らせ」を必ずご覧ください。

【使用許諾契約書】

第 1 条（総則）

ライセンサーは、許諾ソフトウェアの国内における非独占的かつ第 3 条第 1 項に定める例外を除き譲渡不能な使用権を使用者に許諾します。

第 2 条（使用権）

1. 本契約によって生ずる使用権とは、許諾ソフトウェアのを本製品を使用する権利をいいます。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアの一部もしくは全部を複製、複写もしくは修正、追加等の改変をすることができません。
3. 許諾ソフトウェアの使用は私的範囲に限定されるものとし、許諾ソフトウェアは営利目的を含めたとに関わらず、いかなる目的でも頒布することができません。
4. 使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書またはヘルプファイルに記載の使用方法に沿って使用するものとし、許諾ソフトウェアの全部または一部を用いて著作権法等の法規に違反するデータの使用、複製を行ってはならないものとし、また、指定 PC へのネットワーク接続を用いて、使用者以外の第三者にこれを使用させることは許されていません。

第 3 条（許諾条件）

1. 使用者は、本製品を譲渡する場合、内在する許諾ソフトウェア（その関連資料、アップデート版、アップグレード版を含む）の使用権については、自らの手元にオリジナル及び一切の複製物、関連資料を残さない事、又譲受人を本ソフトウェア使用許諾契約に従わせる事を条件に、移転できるものとします。
2. 使用者は許諾ソフトウェアに関し、リバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。

第 4 条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェア及びその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ライセンサーまたはライセンサーに許諾ソフトウェアの使用、再許諾を許諾した原権利者（以下、原権利者）に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェア及びその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第 5 条（ライセンサーの免責）

1. ライセンサー及び原権利者は、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者もしくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。
2. ライセンサーは「許諾ソフトウェア」について商品性、互換性及び特定目的に合致していることを保証致しません。

第 6 条（第三者に対する責任）

使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争が生じたときは、使用者自身が自らの費用で解決するものとし、ライセンサー及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第 7 条（秘密保持）

使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報及び本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ライセンサーの承諾を得ることなく第三者に開示または漏洩しないものとします。

第 8 条（契約の解除）

ライセンサーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、またはそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。

- (1) 本契約に定める条項に違反したとき
- (2) 差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第9条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、使用者は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェア、関連書類及びその複製物を廃棄するものとします。

第10条（著作権保護）

1. 許諾ソフトウェアに関する著作権及びその他の一切の知的財産権は、ライセンサー及び現権利者に帰属するものでありいかなる権利も使用者が有するものではありません。
2. 使用者は許諾ソフトウェアの使用に際し、著作権法及びその関連の法律に従うものとします。

第11条（輸出規制）

1. 許諾ソフトウェアを日本国外に輸出すること（インターネット等を利用した国外送信を含みます）はできないものといたします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアが日本国およびアメリカ合衆国の輸出に関する規制の対象となることを了承するものとします。
3. 使用者は、許諾ソフトウェアに適用される一切の国際法および国内法（アメリカ合衆国の輸出管理規則、アメリカ合衆国、日本国及びその他の政府機関が定めるエンドユーザー、エンドユーザーによる使用及び輸出対象国に関する規制を含みます）に従うことに同意するものとします。

第12条（その他）

1. 本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2. 本契約に定めなき条項もしくは本契約の解釈に疑義を生じた場合には、ライセンサー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。
3. ライセンサー及び使用者は、本契約が日本国の法律に準拠し、本契約から生ずる権利義務に関する紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属管轄裁判所とする事に合意するものとします。
4. 本契約書の各条項は、代わりの契約書が提供されない限り、許諾ソフトウェアのバージョンアップ後のソフトウェアにも適用されるものとします。

以上

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

本製品のソフトウェアライセンスについて

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに株式会社 JVC ケンウッドまたは第三者の著作権が存在します。

本製品は、株式会社 JVC ケンウッド及び第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメント（以下、「EULA」といいます）に基づくソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、フリーソフトウェアに該当するものがあり、GNU General Public License または Lesser General Public License（以下、「GPL/LGPL」といいます）のライセンスに基づき実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするように求めています。

当該「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www2.jvckenwood.com/gpl/j.html>

なお、ソースコードの内容等についてのご質問はお答えしかねますので、予め御了承ください。

「GPL/LGPL」の適用を受けない「EULA」に基づくソフトウェアコンポーネント及び株式会社 JVC ケンウッド自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

「GPL/LGPL」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は、明示かつ黙示であるかを問わず一切ありません。

適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「GPL/LGPL」をお読みください。

本製品に組み込まれた「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用頂く場合は、対応するライセンスをよく読んでから、ご利用くださるようお願い致します。なお各ライセンスは株式会社 JVC ケンウッド以外の第三者による規定のため、原文（英文）を本製品に掲載します。掲載場所は【情報・設定】—【システム】—特別内の【オープンソースライセンス】です。

メディアおよびファイルについて

ご使用上の注意事項

- USB 機器や SD カードは、車内に放置しないでください。直射日光や高温で、変形や故障の原因になります。
- 本機で再生するオーディオ/ビデオファイルは、必ずバックアップを作成しておいてください。予期せぬ事態で、ファイルが破壊される場合があります。

本機で再生できるディスクメディア

● ディスク再生対応一覧表

分類	規格	対応	説明
DVD	DVD ビデオ	○	—
	DVD オーディオ	×	—
	DVD-R	○	VR モード対応 (DVD-R/RW のみ) CPRM 対応
	DVD-RW	○	
	DVD+R	○	
	DVD+RW	○	
	DVD+R DL (2層)	○	
	DVD-R DL (2層)	○	—
DVD-RAM	×	—	
CD	音楽 CD	○	8cm ディスク非対応
	CD-ROM	○	—
	CD-R	○	パケットライト非対応
	CD-RW	○	
	DTS-CD	×	—
	ビデオ CD、スーパービデオ CD	×	—
	フォト CD	×	—
	HDCD	△	通常の音楽 CD の音質
CCCD	×	—	
その他	デュアルディスク	×	—
	スーパーオーディオ CD	△	CD 層のみ再生可能

- ：再生できます
 △：一部のみ再生できます
 ×：再生できません

再生できるディスクフォーマット

ISO 9660 Level 1/ISO 9660 Level 2/
 Joliet/UDF 1.02/1.50/2.00/2.01/2.50

使用できないディスク

以下のディスクは使用しないでください。



- 記録面（レーベル面の反対側）が着色や汚れがあるディスク。引き込まれない、取り出せないなどの誤動作の原因になります。記録面には触れないようにお取り扱いください。
- ファイナライズ処理を行っていない CD-R/RW および DVD-R/RW は再生できません（ファイナライズ処理については、お使いのライティングソフトやレコーダーのマニュアルをご覧ください）。そのほかにも、記録状態によっては再生できない場合があります。
- 汚れ、傷、ゴミのついたディスク、反りのあるディスク。音飛びなどの誤動作や音質劣化の原因になることがあります。
- 表面に紙テープなどが貼られたディスク、ラベルのノリがはみ出したディスク。ディスクが取り出せなくなったり、本機が故障することがあります。

ディスクのご使用上の注意





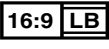
- ディスクが汚れたときは、従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
- 新しいディスクを使うときは、ディスクのセンターホールおよび外周部に“バリ”がないことを確認してください。“バリ”がついたまま使用すると、ディスクが挿入できなかったり音飛びの原因になります。“バリ”があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。
- 音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリ（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は使用しないでください。故障の原因となります。
- 8cmCD、アダプターは使用できません。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。


DVD のリージョン番号

本機で再生できる DVD リージョン番号（国ごとに割り当てられた番号）は「2」（または2を含むもの）と「ALL」です。

DVD ディスクに表示されているリージョン番号が本機と一致しないと、本機では再生できません。

● DVD ディスクのマーク

記号	内容
	リージョン番号を表します。このマークが付いているディスクはどのDVDプレーヤーでも再生できます。
	収録されている音声の言語数を表します。1本の映画の中に最大8つの言語を収録できます。お好みの音声で聴くことができます。
	収録されている字幕スーパーの言語数を表します。32カ国語まで収録できます。
	複数のアングルで撮影された映像が記録されていれば、お好みのアングル（角度）で見ることができます。
	映像の画面タイプを表します。左のマークでは標準のテレビ（4:3）で見た場合、ワイド映像（16:9）は上下に黒帯の入る（レターボックス）映像となります。

 禁止マーク

DVDは、再生箇所により本機での再生操作等規制される場合があります。このようなときは下記のマークが映像上に表示されます。内容についてはディスクのマニュアルをご覧ください。

本機で再生できるSDカード

規格	SD/SDHC/SDXC*1
最大容量	2GB(SD)/32GB(SDHC)/2TB(SDXC)
ファイルシステム	FAT16/FAT32/exFAT*2

*1：MMC(MultimediaCard)には対応していません。

*2：この他のファイルシステム（NTFS等）には対応していません。

- SDスピードクラスはClass10まで対応しています。

SDカード使用上のご注意

- miniSDカード、microSDカードはSDカードアダプターを使用することで使用可能です。すべてのカードの動作保証はしていません。
- ご使用の際には、必ずSDカードに付属している取扱説明書も合わせてご確認ください。
- 本機で使用出来ない場合は、ファイルシステムがFAT16、FAT32、またはexFATであることを確認してください。ファイルシステムが異なる場合は、再フォーマットしてから使用してください。

- 本機はSD-Audioには対応していません。
- 全てのSDカードに対して、動作を保証するものではありません。
- SDカードの種類や、記録状態によっては、正常に再生できない場合があります。
- SDカード内のデータは必ずバックアップをしてください。SDカードの使用状況によっては、保存内容が失われる場合があります。保存データが失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

本機で再生できるUSB機器

規格	USB 1.1/USB 2.0*1
デバイスクラス	マストレージクラス(MSC device)*2
最大消費電流	1A以下(USBケーブル接続時)
ファイルシステム	FAT16/FAT32/NTFS/exFAT*3

*1：USB3.0には対応していません。

*2：使用するUSBデバイスがUSBマストレージクラスに対応しているかは、USBデバイスの販売メーカーにお問い合わせください。

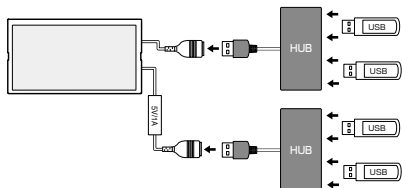
*3：この他のファイルシステムには対応していません。

USB機器使用上のご注意

- 接続したUSBデバイスは運転の支障とならないように設置してください。全てのUSBデバイスに対して、動作や電源供給を保証するものではありません。
- セキュリティ機能付きのUSBデバイスは使用できません。
- USB規格外のケーブルは動作保証できません。また、延長ケーブルの使用により正常に再生できない場合があります。
- USBデバイスの種類や、記録状態によっては、正常に再生できない場合があります。
- USBデバイスのデータは必ずバックアップをしてください。USBデバイスの使用状況によっては、保存内容が失われる場合があります。保存データが失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

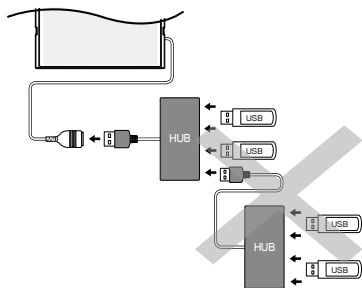
USB ハブの使用について

- 本機では、1本のUSBケーブルに対し1台のUSBハブを接続して、最大4つ（パーティション含む）のUSBデバイスを接続できます。

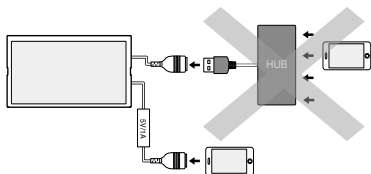


ただし、すべての接続機器の動作を保証するものではありません。

- USBハブはUSBケーブル1本につき2台以上接続しないでください。



- 消費電流の大きい機器をUSBハブに接続すると動作しない場合があります。この場合はUSBケーブルに直接接続してください。
- USBハブを使って接続するときは、USBハブを本機のUSBケーブルに接続してから、USB機器をUSBハブに接続してください。
- iPhone/iPodはUSBハブを介した接続ができません。USBケーブルに直接接続してください。



ハイレゾ音源について

- 本機は、以下のハイレゾ音源ファイルの再生に対応しています。
 - ・コーデック：FLAC/ WAV
 - サンプル周波数：96kHz、量子化ビット数：24bit
 - サンプル周波数：192kHz、量子化ビット数：24bit
- ハイレゾ再生をお楽しみ頂くには、接続される機器（スピーカー等）もハイレゾ再生可能な製品が必要となります。

本機で再生できるオーディオ / ビデオフォーマット

メディア		CD	DVD	USB	SD
コーデック					
オーディオファイル	MP3	○	○	○	○
	WMA	○	○	○	○
	AAC	○	○	○	○
	WAV	○	○	○	○
	FLAC	○	○	○	○
	Vorbis	○	○	○	○
	DSD	×	×	○	○
ビデオファイル	MPEG-4 Video	×	×	○	○
	H.264/MPEG-4 AVC	×	×	○	○
	WMV	×	×	○	○

○：再生できます ×：再生できません

著作権保護されたファイルについて

本機では、コピープロテクトや著作権管理が設定されているオーディオファイルは、再生できません。個人的に楽しむなどの場合を除き、音楽や映像などの著作物を著作権者の許諾を得ずに複製（録音）、配布、配信することは著作権法で禁止されています。

オーディオファイル

	MP3	WMA	AAC	FLAC	Vorbis	WAV	DSD
対応形式	MPEG 1/2 Audio Layer 3	Windows Media Audio Standard L3 profile (Version 7.8,9)	MPEG2/4 AAC LC, HE-AAC (V1,V2)	flac	vorbis	RIFF waveform Audio Format (Linear PCMのみ)	DSF DSDIFF
拡張子	.mp3	.wma	.m4a	.flac, .fla	.ogg	.wav	.dsf, .dff
量子化ビット数	16bit	16bit	16bit	16bit/24bit	16bit	16bit/24bit	1bit
ビットレート	8k ~ 320kbps, VBR	8k ~ 320kbps	8k ~ 320kbps, VBR	-	-	-	-
サンプリング周波数	16k ~ 48kHz	16k ~ 48kHz	16k ~ 48kHz	16k ~ 192kHz*	16k ~ 48kHz	16k ~ 192kHz*	2.8M, 5.6M, 11.2MHz
タグ	ID3 タグ ver 1.0/1.1/2.2/2.3/2.4 (ID3v2の非同期化は非対応)	WMA タグ	iTunes m4aメタデータ	Vorbis Comment タグ	Vorbis Comment タグ	RIFF LIST タグ	ID3v2.3
その他	ジョイントステレオ対応	DRM/ Professional/ Lossless/ Voice は非対応	iTunes で作成した AAC ファイルのみ再生可能 DRM/ マルチチャンネルは非対応	圧縮レベル: 0 ~ 8 マルチチャンネルは非対応	マルチチャンネルは非対応	マルチチャンネルは非対応	PCM 変換再生

*：CD メディアは 48kHz まで対応。

※タグの文字数は全角 128 文字まで対応しています。それ以上の文字数では、文字列の後ろ部分が表示されない場合があります。

※オーディオファイルの作成方法によっては、本機で再生 / 表示できない場合があります。

※DSDIFF の EmChunks タグ、アルバムアートワーク画像表示（アートワーク表示）には対応していません。

ビデオファイル

	MPEG-4 Video			H.264/MPEG-4 AVC				WMV	
対応形式	ISO MPEG4			H.264/MPEG-4 AVC				Windows Media Video Ver.9(VC-1)	
ファイル コンテナ	AVI	MP4	MKV	AVI	MP4	FLV	MKV	ASF	MKV
拡張子	.avi	.mp4	.mkv	.avi	.mp4	.flv, .f4v	.mkv	.wmv	.mkv
プロファイル	アドバンスドシンプル プロファイル			ベースラインプロファイル、 メインプロファイル				メインプロファイル	
対応音声 コーデック	MP3, AAC		MP3, AAC, WMA, Vorbis, FLAC	MP3, AAC		MP3, AAC, WMA, Vorbis, FLAC		WMA	MP3, AAC, WMA, Vorbis, FLAC
最大ピクチャ サイズ	1920 × 1080			1920 × 1080				1920 × 1080	
最大フレーム レート	30fps			30fps				30fps	
最大ビット レート	8Mbps			8Mbps				8Mbps	

※ ビデオファイルの作成方法によっては、本機で再生 / 表示できない場合があります。

※ ビデオファイルのビットレートが高い場合は、部分的に再生が停止したり、音飛び / 音切れをすることがあります。

(1) ファイル名とフォルダ名

本機で表示できる文字：

半角英数字、半角カタカナ、全角文字

文字数制限：

ファイル名 全角 80 文字（拡張子は除く）

フォルダ名 全角 80 文字

※ ファイル名またはフォルダ名が文字数制限を超えているファイルは再生できません。

ディスクの場合は使用するライティングソフトやディスクフォーマットによって、文字数が制限される場合があります。詳しくは、ライティングソフトの説明書をご覧ください。

使用できない文字：

¥、\、/、:、*、?、"、<、>、|

ファイルには正しく拡張子を付けてください。

ディスクの場合は使用するライティングソフトやディスクフォーマットによって、表示できる文字が制限される場合があります。詳しくは、ライティングソフトの説明書をご覧ください。

(2) ファイル数とフォルダ数の制限

ディスク：

1 フォルダ内の最大ファイル数：999

ディスク内の最大ファイル数：5000

- ディスク内の総フォルダ数が 500 以上の場合は、ディスク内の一部のファイルを認識できない場合があります。
- フォルダ階層数は ルートを含めて最大 8 階層となります。

USB 機器および SD カード：

1 フォルダ内の最大ファイル数：9999

1 フォルダ内の最大フォルダ数：9999

- フォルダ階層数は ルートを含めて最大 8 階層となります。ただし、制限内でもフォルダ名 / ファイル名が最大文字数を超える場合は認識できません。
- デバイス内の最大フォルダ数 / 最大ファイル数に制限はありませんが、デバイスの容量やファイルシステムによって制限を受ける場合があります。

Bluetooth について

Bluetooth 対応プロファイル

本機は、以下のプロファイルに対応しています。

- HFP (ハンズフリープロファイル)
ハンズフリー通話するためのプロファイルです。
- PBAP (フォンブックアクセスプロファイル)
電話帳のデータを vCard 形式で伝送するプロファイルです。
- A2DP* (高度オーディオ配信プロファイル)
オーディオプレーヤーの音楽を伝送するためのプロファイルです。
* SCMS-T 対応
(SCMS-T とは A2DP に対応したオーディオプレーヤーなどでセキュリティがかかったコンテンツを聴くことができる機能です。)
- AVRCP (オーディオ / ビデオリモート制御プロファイル)
オーディオプレーヤーの再生や選曲などをコントロールするためのプロファイルです。
- SPP (シリアルポートプロファイル)
Bluetooth 機器を仮想シリアルポート化するプロファイルです。

Bluetooth 標準規格 Ver.4.1 準拠



- ・動作を確認した携帯電話機については URL をご覧ください。
<http://www2.jvckenwood.com/cs/ce/bt/index.php?lang=japanese>
- ・Bluetooth 機能搭載機器は、Bluetooth SIG が定めている方法で Bluetooth 標準規格に適合していることの認証を取得しています。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては通信できない場合があります。

対応コーデック

LDAC™/SBC/AAC

iPod について

本機でコントロールできる iPod について

本機からコントロールできる iPod は以下のとおりです。

Made for

- ・ iPod touch (6th generation)
 - ・ iPhone SE
 - ・ iPhone 7
 - ・ iPhone 7 Plus
 - ・ iPhone 6s
 - ・ iPhone 6s Plus
 - ・ iPhone 6
 - ・ iPhone 6 Plus
 - ・ iPhone 5s
 - ・ iPhone 5c
 - ・ iPhone 5
- 音楽再生のみに対応します。
- 本書では上記 iPod および iPhone をまとめて「iPod」と呼びます。本機に表示できる文字の種類は、半角英数字、半角カタカナ、および全角文字です。ただし、正しく表示できない文字もあります。

iPod 接続ケーブルについて

- 本機に iPod を接続するときは、別売の iPod 接続ケーブル KCA-iP103 が必要です。
- Lightning コネクタモデルで映像を見たい場合は、別売の HDMI ケーブル KNA-13HC と Apple 社製「Lightning-Digital AV アダプタ」を本機と接続し、本機の HDMI/MHL ソースから見るすることができます。

故障かなと思ったら

次の一覧から該当する症状を見つけて対処してください。解決方法が見つからない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

● 共通

症状	考えられる原因	対処方法
電源がオンにならない。	ヒューズが切れている。	コード類がショートしていないことを確認した後、同じ容量のヒューズと交換してください。
	電源ハーネスなどの接続が間違っている。	お買い上げの販売店で接続を確認してください。
モニター画面中に小さな斑点や輝点がある。	液晶パネル特有の現象です。液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものが生じることがあります。	故障ではありませんので、そのままご使用ください。
画面が暗い。	モニターの温度が低い。	液晶パネルの特性上、モニターの温度が下がっているときは、電源をオンにしたときに、通常より暗い場合があります。電源をオンにして温度が上がるまでしばらくお待ちください。通常の明るさに戻ります。
	画質設定の明るさが低い。	画質設定の明るさを調整してください。(→ P.25)
画面が見にくい。	見る角度によってコントラスト、明るさが変わります。	コントラスト(→ P.25)、画面の明るさ(→ P.17)、視野角(→ P.13)を調整してください。
映像の色調がおかしい。	—	画質を調整してください。(→ P.25)
フロントまたはリアビューカメラに切り替わらない。	フロントまたはリアビューカメラが正しく接続されていない。	取付説明書を参照して、正しく接続してください。
	フロントまたはリアビューカメラの設定が“なし”になっている。	CMOS-320/CMOS-C320を接続しているときはフロントまたはリアビューカメラの設定を“専用カメラ”に、その他のカメラを接続しているときは“汎用カメラ”にしてください。(→ P.85)
	フロントビューカメラの設定が間違っている。	取付説明書を参照して、CMOS-320の識別設定が“フロントカメラ”になっているか確認してください。
音が出ない / 音が小さい。	バランス、フェーダーが片方に寄っている。	バランスやフェーダーを正しく調整してください。(→ P.59)
音質が悪い (音がひずむ)。	音量が大きすぎる。	音量を適正に調整してください。
	スピーカーコードが車両側のネジにかみ込んでいる。	スピーカーの配線を確認してください。
	スピーカーの配線が間違っている。	スピーカー出力端子をそれぞれのスピーカーと正しく接続してください。
	ホールシミュレーションのサラウンドを“ON”にしているとリアスピーカーの音が小さくなります。	ホールシミュレーションのサラウンドを“OFF”にしてください。(→ P.64)

● AV 機能

症状	考えられる原因	対処方法
音が出ない。	接続が間違っている。	お買上げの販売店で、接続を確認してください。
音質が悪い(音がひずむ)。	音量が大きすぎる。	音量を適正に調整してください。

● ディスク再生

症状	考えられる原因	対処方法
ディスクの再生中に振動で映像や音が切れる。	取り付け角度が 40° を超えている。	40° 以内になるように取り付けなおしてください。
	取り付けが不安定になっている。	しっかりと取り付けなおしてください。なお、駐停車中でも音飛びする場合やディスクの同じところで音飛びする場合は、ディスクに原因があります。
ディスクを再生できない。	ディスクが裏返しになっている。	レーベル面を上にして入れなおしてください。
	ディスクに傷や汚れがある。	▲ を押してディスクを取り出し、ディスクをクリーニングしてください。
	本機内部が結露している。	ディスクを取り出し、しばらく放置(約 1 時間)してから使用してください。
ファイルを再生中に音飛びする。	ディスクに傷や汚れがある。	▲ を押してディスクを取り出し、ディスクをクリーニングしてください。
ディスクがイジェクトできない。	ディスクがイジェクト途中で止まっている。	強制イジェクトを行ってください。(→ P.44)
ファイルの再生がはじまるまで時間がかかる。	ディスクに記録されているフォルダ / ファイル / 階層が多い。	最初にディスク内のすべてのファイルをチェックするため、多くのファイルが記録されているメディアを使用すると、再生されるまで長時間かかる場合があります。
CD-R、CD-RW が再生できない。	ファイナライズ処理を行っていない。	CD レコーダーでファイナライズ処理を行ってください。ファイナライズ処理については、お使いの CD-R/CD-RW ライティングソフトや CD-R/CD-RW レコーダーのマニュアルをご覧ください。
DVD の禁止マーク “⊗” が画面に表示されて、操作ができない。	ディスクが禁止している操作や、無効な操作を行っている。	ディスクが禁止している操作や、無効な操作をしたときは、禁止マークが表示されます。禁止マークの表示中は操作はできません。
トラックなどの名称が正しく表示されない。	本機で表示できない文字が名称に含まれている。	本機では、半角英数字と日本語が表示できます。これ以外の特殊な文字は、表示できない場合があります。
CD のタイトルが表示されない。	楽曲情報がない。	スマートフォンアプリ「KENWOOD Music Info.」を使用して楽曲情報を取ることができます。(→ P.84)

● ファイル再生

症状	考えられる原因	対処方法
ファイルを再生できない。	フォーマットが、本機で再生できないフォーマットで記録されている。	再生できるフォーマットを確認してください。(→ P.110)
	ファイルに拡張子が付いていない。	正しい拡張子を付けてください。(→ P.110)
	ビデオファイルの作成ソフトによっては再生できない場合があります。	—

● 地デジ

症状	考えられる原因	対処方法
何も受信できない。	アンテナが正しく接続されていない。	お買い上げの販売店にご相談ください。
	スキャンされていない。	チャンネルスキャンをなおしてください。(→ P.53)
字幕が表示されない。	字幕が放送されていない。	—
地上デジタル放送が受信できない。	車の場所が、地上デジタルテレビ放送の放送エリアではない。 受信障害がある環境では、放送エリア内でも受信できない場合があります。	—
	送信チャンネル変更（リパック）が行われた。	初期スキャンをしてプリセットを登録しなおしてください。(→ P.50)
	「ホーム」または「おでかけ」に登録されている放送局が現在地周辺の放送局と合っていない。	再度、チャンネルをスキャンしてください。(→ P.53)
映像が乱れる。 映像が止まる。 音声が途切れる。	障害物や放送局からの距離等によって、受信状態が悪くなっている。	● 見通しのいい場所に移動してください。 ● ワンセグに切り替えてください。(→ P.52)
	ワンセグ / 12 セグを切り替えた。	受信モードの切替時に映像等の乱れが発生する場合がありますが、故障ではありません。

● iPod

症状	考えられる原因	対処方法
iPod が認識されない。	iPod 接続ケーブルが正しく接続されていないか、iPod が正しく動作していない。	iPod 接続ケーブルが正しく接続されているか確認してください。それでも iPod が認識されない場合は、iPod をリセットしてください。
iPod をコントロールできない。	iPod にヘッドフォンなどが接続されたまま、本体に接続した。	iPod を本機から取り外し、iPod からすべての機器を取り外してから接続しなおしてください。
	iPod が異常状態になっている。	● iPod メニューに表示されるリセットではなく、iPod 本体のリセットを行ってください。 ● iPod を本機から取り外し、iPod の電源を入れなおしてください。
iPod の曲を再生できない。	コネクタが正しく接続されていない。	しっかりと接続してください。

症状	考えられる原因	対処方法
音が歪む。	iPod の EQ 機能 (イコライザー機能) がオンになっている。	オフにしてください。
充電完了までに時間がかかる。	—	充電を目的とする場合は、iPod の再生を停止することをお勧めします。
iPod の充電ができない。	本機の電源が入っていない。	本機の電源を入れてください。
	USB ハブを介して接続している。 「5V/1A」タグなし USB ケーブルに接続している。	充電するときは USB ハブを使用せずに直接接続してください。 また、「5V/1A」タグあり USB ケーブルに直接接続したときのみ充電できますので「5V/1A」タグあり USB ケーブルに接続してください。

● USB/SD

症状	考えられる原因	対処方法
USB 機器を認識しない。	USB コネクタが正しく接続されていない。	USB 機器や USB ケーブルのコネクタを確実に接続してください。
	USB 延長ケーブルが長い場合、データの品質が悪くなっている。	USB 延長ケーブルを使用しない接続をしてください。
	USB 接続ケーブル 1 本に対して USB ハブを 2 台以上接続している。	USB 接続ケーブル 1 本に対して USB ハブを 2 台以上接続して USB 機器を接続すると、本機で再生することができません。USB ハブを 1 台にして接続しなおしてください。
	複数の USB 機器を接続していて違うデバイスが選択されている。	USB デバイス切替で再生したいデバイスに切り替えてください。(→ P.31)
USB 機器や SD カード内のオーディオ/ビデオファイルが再生できない。	オーディオ/ビデオファイルが本機で再生できるフォーマットで記録されていない。	再生できるフォーマットを確認してください。(→ P.110)
	ファイル名に使用できない文字が使われている。	次の文字はファイル名には使用できません。 ¥、\、/、:、*、?、"、<、>、 ファイル名を変更してください。
	フォルダ名またはファイル名が 81 文字以上になっている。	本機ではファイル名またはフォルダ名に文字数制限があります。 フォルダ名: 全角 80 文字 ファイル名: 全角 80 文字 (拡張子は除く) 全角 80 文字以内に變更してください。
	再生モードが録音した SD カードの再生になっている。	再生モードを切り替えてください。(→ P.32)

● 内蔵メモリ/SD カードへの録音と再生

症状	考えられる原因	対処方法
録音した SD カードが再生できない。	録音データ (kenwood.direct.rec フォルダのデータ) またはコンテンツデータベース (_ContentsDB フォルダのデータ) を編集または変更した。	録音データ (kenwood.direct.rec フォルダのデータ) またはコンテンツデータベース (_ContentsDB フォルダのデータ) を編集または変更すると本機で再生できなくなります。編集や変更はしないでください。
	再生モードがパソコンで保存した SD カードの再生になっている。	再生モードを切り替えてください。(→ P.32)
音楽 CD を内蔵メモリ/SD カードに録音できない。	SCMS によるコピー制限がかかっている音楽 CD を録音しようとした。	コピー制限がかかっていない音楽 CD を使用してください。

● HDMI/MHL

症状	考えられる原因	対処方法
映像が表示されない。	解像度が 480p になっていない。	接続している機器の映像の解像度が 480p になっているか確認してください。
音が出ない。	PCM 以外で入力している。	接続している機器の音声が入力されているか確認してください。

● Bluetooth オーディオ / ハンズフリー

症状	考えられる原因	対処方法
Bluetooth 機器が登録できない。	パスキーまたは PIN コードが合っていない。	Bluetooth 対応機器によっては、パスキーまたは PIN コードが固定されている場合があります。Bluetooth 対応オーディオプレーヤーの取扱説明書にパスキーまたは PIN コードが記載されている場合は、そのコードを設定してください。記載されていない場合は「0000」を試してください。
Bluetooth 機器が接続できない。	ソフトウェアのアップデートなどによって登録情報が更新された。	本機と接続する Bluetooth 機器からそれぞれ登録を一旦削除してから登録し直してください。
Bluetooth オーディオプレーヤーの音が途切れる。	本機と Bluetooth 対応オーディオプレーヤーの距離が遠すぎます。	Bluetooth 対応オーディオプレーヤーを本機に近づけてください。
	他の Bluetooth 機器が通信を妨げています。	他の Bluetooth 機器の電源をオフにしてください。または、他の Bluetooth 機器を遠ざけてください。
	他の Bluetooth 機器と通信中です。または、他のプロフィールで通信中です。たとえば、電話帳や KENWOOD Drive Info のデータ受信中などは音が途切れる場合があります。	ご利用の Bluetooth 機器の再生品質の設定を変更すると改善される場合があります。
ハンズフリー通話の受話が小さい。	音量調整が小さくなっています。	通話中に調整してください。
スマートフォンの Bluetooth 設定をオフにしてオンすると本機と接続できない。	スマートフォンの Bluetooth 設定をオフにした場合、再度オンしても本機は認識できません。	スマートフォンの Bluetooth 接続機器から本機を選び直してください。

メッセージ

次のメッセージが表示された場合は、一覧に従って対処してください。

● 共通

メッセージ	対処
システムの起動ができませんでした。カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。	JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
暗証番号が違います。もう一度入力してください。	正しい暗証番号を入力してください。暗証番号を思い出せない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
スピーカー配線に異常があります。接続を確認してください。	取付説明書を参照して、スピーカー接続を確認してください。

メッセージ	対処
スピーカー配線に異常があります。接続を確認してください。問題が解消されない場合はカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。	スピーカーコードがショートまたは車両のシャーシに接触したため保護回路が働いた可能性があります。取付説明書を参照して、スピーカー接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
地デジアンテナに異常があります。接続を確認してください。	地デジアンテナケーブルの配線がショートしています。配線を確認してください。
GPS アンテナに異常があります。接続を確認してください。	取付説明書を参照して、正しく接続してください。
車速パルスが検出できません。車速検出コード(桃)の接続先及び接続状態を確認してください。	取付説明書を参照して、車速検出コードの接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
ステアリングリモコンキーの学習ができませんでした。	取付説明書を参照して、ステアリングリモコンの接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
SD カードのフォーマットができませんでした。	SD カードが正しく入っているかを確認してください。他のSD カードを使用しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
DISC メカ通信エラー	JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

● カメラ

メッセージ	対処
専用カメラと通信できません。接続を確認してください。	取付説明書を参照して、CMOS-320/CMOS-C320 との接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
走行中は調整できません。	リアビューカメラのガイド線調整、および CMOS-320/CMOS-C320 のカメラ設定は、安全なところに停車した状態で行ってください。

● ドライブレコーダー

メッセージ	対処
ドライブレコーダーが接続されていません。	取付説明書を参照して、DRV-N530 の接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
リアドライブレコーダーが接続されていません。	取付説明書を参照して、DRV-R530 の接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
ドライブレコーダーが接続されていないため、この設定は選択できません。	取付説明書を参照して、DRV-N530/ DRV-R530 の接続を確認してください。接続が正しいことを確認しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

● AV (共通)

メッセージ	対処
再生可能なファイルがありません	再生対応しているオーディオ / ビデオファイルかどうかを確認してください。(→ P.110)
走行中は音声のみお楽しみください	走行中は映像を見ることができません。
音声は再生できません	音声は再生できない動画ファイルです。

メッセージ	対処
ファイルが再生できません	再生できないファイルです。再生可能な次のファイルへスキップします。
アルバム情報はありません。	アルバム情報が登録されていない楽曲については、楽曲タイトル情報を取得できません。
サーバーに接続できません。	スマートフォンがインターネット接続できるところに移動し、再度操作してください。

● AV(DISC)

メッセージ	対処
ディスクが読めません。	読み込み不可のディスクを再生しようとしています。再生可能なディスクを挿入してください。
再生できないリージョンコードのディスクです。	ディスクのリージョンコードを確認してください。リージョンコード「2」（または2を含むもの）と「ALL」のディスクが再生できます。
ディスクがローディングできません。 /ディスクがイジェクトできません。	強制イジェクトを実行してください。(→ P.44) または、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
録音可能なアルバム数の上限を超えています。	録音できるアルバムは最大 999 枚までです。 不要なアルバムを削除してから録音してください。(→ P.40)
録音を続行できないため、録音を中断しました。	再度録音しなおしてください。
空き容量不足のため、これ以上録音できません。	<ul style="list-style-type: none"> ● 不要な楽曲を削除してから録音してください。(→ P.40) 空き容量や残り録音可能時間は、録音設定画面で確認できます。(→ P.34) ● SD カードに録音する場合は、不要なファイルを削除するか、空き容量の大きい SD カードを使用してください。

● AV (内蔵メモリ)

メッセージ	対処
録音データを移動できませんでした。 SD カードを確認してください。 再起動します。	SD カードが正しく入っているかを確認してください。他の SD カードを使用しても問題が解決されない場合は、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。
SD カードの空き容量不足のため、録音データの移動ができませんでした。 SD カードを確認してください。 再起動します。	不要な楽曲またはアルバムを削除してから、SD カードへの移動を行ってください。(→ P.40)
移動可能なアルバム数の上限を超えています。再起動します。	移動後の SD カードの録音アルバム数が 999 以下になるように、不要なアルバムを削除してから移動してください。(→ P.40)

● Bluetooth

メッセージ	対処
空き容量不足のため、これ以上登録できません。	本機に登録できる電話帳は 1000 件 (1 件最大 5 番号まで) までです。不要な電話帳の登録を削除してください。(→ P.80)

● SMART USEN

メッセージ	対処
スマートフォンアプリケーションからエラーが通知されました。 スマートフォンを確認してください。	本機との接続を解除し、スマートフォン単体で「SMART USEN」アプリケーションがご利用できることを確認してください。

メッセージ	対処
スマートフォンアプリケーションと通信できませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「SMART USEN」アプリケーションの起動を確認してください。 ● スマートフォンとの接続が正常かを確認してください。 ● Bluetooth 接続でご利用の場合は、デバイス切替ボタンから、ご利用の機器に [BT Audio/ アプリケーション連携] を設定してください。
連続再生が 3 時間を超えたため停止しました。	過度のバッテリー消耗、通信容量増加を防止するため、3 時間以上の連続再生を制限しています。(アプリケーションの仕様) 再生ボタンを押すか、チャンネル選択をすることで引き続き再生できます。

● KENWOOD Music Info.

メッセージ	対処
アルバム情報はありません。	アルバム情報が登録されていない楽曲については、楽曲タイトル情報を取得できません。
サーバーに接続できません。	スマートフォンがインターネット接続できるところに移動し、再度操作してください。
アプリケーションと通信できませんでした。スマートフォンを確認してください。	「KENWOOD Music Info.」の起動を確認してください。 スマートフォンとの接続が正常か確認してください。

はじめに

基本操作

オーディオ・
デジタル

情報 設定

Bluetooth

スマートフォン
連携

アプリケーション

付録

主な仕様

● センサー部

測位衛星システム 受信衛星	GPS, GLONASS, QZSS(準天頂衛星), SBAS
測位衛星システム 受信周波数帯	L1
内蔵センサー	6軸慣性センサー (ジャイロ3軸+加速度3軸)

● モニター部

画面サイズ	7.0V型 156.6(幅)×81.6(高さ) ×176.6(対角)mm
表示方式	透過TN型
駆動方式	TFTアクティブマトリクス
画素数	1,152,000個 800H×RGB×480V
画素配列	RGBストライプ配列
タッチパネル	静電容量方式タッチパネル
使用光源 (照明方式)	LEDバックライト方式

● オーディオ部

最大出力	50W×4
スピーカーインピーダンス	4～8Ω
ブリアウト出力* 端子	Front RCA×1 Rear RCA×1 Sub Woofer RCA×1
AV入力*	端子：RCA×1 映像入力レベル：1Vp-p/75Ω 音声最大入力レベル：2.0Vrms
ドライブレコーダー 入力*	端子：RCA×1 映像入力レベル：1Vp-p/75Ω

HDMI入力	端子：TYPE-A×1
	対応IF：HDMI/MHL
	解像度 映像 VGA (640×480p@59.94Hz/60Hz) 480p (720×480p@59.94Hz/60Hz) 720p (1280×720p@59.94Hz/60Hz) 音声 32k/44.1k/48k/88.2k/96k/ 176.2k/192kHz 16/20/24bit Linear PCM
	端子：RCA×1
ビデオ出力*	映像出力レベル：1Vp-p/75Ω
リアビューカメラ専用映像入力	端子：専用8Pinコネクタ×1 映像入力レベル：1Vp-p/75Ω

*別売のAV入力/出力用ケーブル KNA-17AVが必要です。

● 地上デジタルチューナー部

受信方式	地上デジタルテレビ放送方式 (日本)(ワンセグ対応)
受信チャンネル	UHF13～52ch

● チューナー部

受信周波数範囲 (周波数ステップ)	76.0MHz～99.0MHz (0.1MHz)
受信周波数範囲 (周波数ステップ)	522kHz～1629kHz(9kHz)

● USB I/F部

対応USB	USB1.1/2.0(High Speed)
ファイルシステム	FAT16/FAT32/NTFS/exFAT
最大供給電流	DC5V≡1A×2

● SDカード部

対応SD	SD/SDHC/SDXC
ファイルシステム	FAT16/FAT32/exFAT

● DVD/CD 部

信号方式	NTSC
対応ディスク	DVD-Video, DVD ± R/ ± RW/ ± R DL CD-DA, CD-R/-RW SACD (CD LAYER ONLY)
リージョン番号	2
サンプリング周波数	44.1/48/96kHz
量子化ビット数	16/20/24bit (直線)

● 対応メディア

DVD-Video	DVD-R,DVD-RWはVRモードも対応	
CD-DA	8cmCD 非対応	
CD/DVD 音声	MP3, WMA, AAC, WAV, FLAC, Vorbis	
USB/ SD	音声	MP3, WMA, AAC, WAV,FLAC, Vorbis, DSD
	映像	MPEG-4 Video, H.264/MPEG-4 AVC, WMV

● Bluetooth 部

対応プロファイル	HFP, PBAP, A2DP, AVRCP, SPP
対応コーデック	LDAC/SBC/AAC
SCMS-T	対応

● 電源 / 寸法 / 重量

電源電圧	14.4V (10.5V ~ 16V)
最大消費電流	15A
使用温度範囲	-10 ~ + 60℃
本体	外形寸法 (W × H × D) 180mm × 100mm × 184mm
	埋込寸法 (W × H × D) 178mm × 100mm × 160mm
	質量 (重さ) 2,380 g
GPS アンテナ	外形寸法 (W × H × D) 36mm × 12.8mm × 33mm
	ケーブル長 3.5m
	質量 (重さ) 85g

● TV アンテナ

アンテナ形状	フィルム型
ケーブル長 (アンテナケーブル)	4.0m
アンテナ部 (エレメント外形寸法)	117.5mm × 86mm
質量 (重さ) (ケーブル含む)	約 40 g (1 本あたり)

これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

保証について

- 保証書 この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめの上販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間 お買い上げの日より1年です。

修理に関するご相談は

修理などアフターサービスについては、当社ホームページまたは JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

- ホームページ
<http://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>
- JVC ケンウッドカスタマーサポートセンター
フリーダイヤル 0120-2727-87
携帯電話、PHS からは 0570-010-114 (ナビダイヤル)
IP 電話などからは 045-450-8950
(受付時間などは、裏表紙を参照してください。)

修理を依頼されるときは

114 ページの「故障かなと思ったら」を参照してお調べいただき、それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容が全て消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● 保証期間中は…

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は…

お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

● 持込修理 この製品は持込修理とさせていただきます。

製品を修理のために、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお持ちになるときは、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。本機と一緒に持ち込まれるユニットなどがある場合は、ディスクなどのメディアはあらかじめ取り出してください。

● 車両からの取り外し / 取り付けについて

修理をご依頼される場合は、製品を車両から取り外した状態でお買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお持ちください。なお、保証期間の内外に関わらず、修理、点検のために製品を車両から取り外しまたは取り付けした場合の作業費用の負担、および作業のご依頼は承っておりません。

● 修理料金のしくみ (有料修理の場合は、つぎの料金が必要になります。)

技術料： 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。

部品代： 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

索引

B

Bluetooth オーディオ機器の再生 82

D

DVD 再生..... 46

G

GPS..... 71

I

iPod を再生する 27

K

KENWOOD Music Info..... 84

S

SMART USEN 84

U

USB 機器 /SD カードのファイル再生 29

かな

あ

アスペクト (画面表示サイズ) 26

え

エラーメッセージ..... 118

お

オートアンテナ..... 8, 66

オートペアリング 73

音楽 CD 再生 44

音楽 CD の録音 34

か

画質の調整 25

画面の操作 14

こ

交通情報 54

さ

再生できるディスク 107

サウンド設定 59

し

システム設定 66

視野角 13

車速パルス 71

す

ステアリングリモコン 66, 89

スピーカー構成 60

せ

セキュリティインジケター 66

センサー学習 71

そ

操作音の音量 66

ソース切替画面 24

ソースレベル 65

ち

チャンネルスキャン (地デジ) 50

て

ディスク挿入口..... 12

ディスクの出し入れ..... 44

ディスクメニュー 48

電源オン / オフ 13

電話帳 79, 80

電話の着信 77

電話をかける 77, 79, 81

と

登録機器の削除 (Bluetooth) 75

ドライブレコーダー 92

は

パーキング検出コード 71

バージョン情報 71

ハンズフリー通話 76

ふ

フロントパネルの角度調整 13

ほ

ボタンの操作音 66

はじめに

基本操作

オーディオ・
ビジュアル

情報・設定

Bluetooth

スマートフォン
連携

オプション

付録

め

メッセージ 118

も

文字の入力 18

ゆ

ユーザイコライザー 63, 64

り

リアビューカメラ 85

リスニングポジション 61

リバース検出コード 71

ろ

録音 34

録音設定 34

録音停止 35

録音データの再生 36

録音データの削除 40

LDAC および LDAC ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

「Microsoft」、「Windows」、「Windows NT」、「Windows Media」は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国や地域における登録商標または商標です。

Manufactured under license from Dolby Laboratories.

Dolby Audio and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories

The "AAC" logo is a trademark of Dolby Laboratories.

DVD is a trademark of DVD format/Logo Licensing Corporation registered in the U. S., Japan and other countries.

"Made for iPod" and "Made for iPhone" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone may affect wireless performance.

iPhone, iPod, iPod nano, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. Lightning are trademarks of Apple Inc. The trademark "iPhone" is used with a license from Aiphone K.K.

iOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

This software is based in part on the work of the independent JPEG Group.

本機搭載のソフトウェアは、independent JPEG Group のソフトウェアを一部利用しております。

SDXC ロゴは SD-3C, LLC の商標です。

Bluetooth® とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標で、株式会社 JVC ケンウッドはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。

「Android™」および「Android ロゴ™」、「Google Play™」は Google Inc. の商標または登録商標です。

本製品には、株式会社ユビキタスが開発した高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot™」を搭載しております。

「Ubiquitous QuickBoot™」は、株式会社ユビキタスの商標です。

Copyright© 2018 Ubiquitous Corp. All rights reserved.



本製品には、日本電気株式会社のフォント「FontAvenue」を使用しています。



本ソフトウェアは、株式会社日立製作所の音声合成技術を使用しています。「Ruby Talk」は株式会社日立超 LSI システムズの登録商標です。

Ruby Talk®

with



日本語変換は、オムロンソフトウェア（株）の compact Wnn を使用しています。

compact Wnn© OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2012-2017 All Rights Reserved.

-
- HDMI と HDMI High-Definition Multimedia Interface という用語、および HDMI ロゴは、HDMI Licensing, LLC の米国その他の国々における商標または登録商標です。
 - MHL, MHL ロゴおよび Mobile High-Definition Link は、米国およびその他の国に置ける MHL LLC の登録商標または商標です。
 - MHL 2 対応
-

Apple, Siri, Apple CarPlay and Apple CarPlay logo are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Google and Android Auto are trademarks of Google LLC.
Android Auto™ の国内サービス提供状況については Google™ のサービスサイト www.android.com/auto/ をご確認ください。

Gracenote 及び Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc. の登録商標または商標です。

libFLAC
Copyright (C) 2000-2009 Josh Coalson
Copyright (C) 2011-2013 Xiph.Org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND ONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.MPEGLA.COM)

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUAL STANDARD ("MPEG-4 VIDEO") AND/OR (ii) DECODE MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.MPEGLA.COM)

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE VC-1 STANDARD ("VC-1 VIDEO") AND/OR (ii) DECODE VC-1 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE VC-1 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.MPEGLA.COM)

libogg

Copyright (c) 2002, Xiph.org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

libvorbis

Copyright (c) 2002-2008 Xiph.org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.